

講 義 概 要

シラバス

共通科目	P. 131
専門科目(英語キャリア学科)	P. 165
専門科目(観光ホスピタリティ学科)	P. 221
専門科目(心理こども学科)	P. 239
教職に関する科目(英語キャリア学科)	P. 289

現代人間学部
共通科目

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	EC/PC	11101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹田 文彦	必修	2			

授業の到達目標

本学の建学の精神でもあり、また世界に20億人以上の信者を有し、西洋文明の源泉として人類の歴史と文化に多大な影響を与えてきたキリスト教について学び、理解することを目的とする。このクラスでは、K(思いやり)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

本講座は、キリスト教とはいったいかなる宗教であるかを、その成立の過程を歴史的、文献的に検討することを通して明らかに使用とするものである。キリスト教の中心的使信であるイエス・キリストの福音への信仰は、いかにして生まれ、形成されていったかを聖書ならびにキリスト教成立に関わる古代諸文書を読み解きながら探ってみたい。最初に宗教としてのキリスト教の特質について言及したあと、キリスト教誕生の過程を聖書の叙述をもとに考察する。キリスト教誕生の母胎となった古代イスラエルの信仰、ナザレのイエスの生涯と教え、エルサレム原始教団の成立と信仰、使徒パウロの宣教などを論じる。

授業計画

1. 序論 — キリスト教を学ぶ意味 Ⅰ. イエス・キリストの信仰
2. Ⅱ. キリスト教の聖典としての聖書 — 聖書とはいかなる書物か
3. Ⅲ. 古代イスラエルの信仰 — キリスト教への道備え Ⅰ. 族长時代 信仰の父アブラハム①旅立つ人
4. 信仰の父アブラハム②イサク奉獻と神の計画
5. 2. 出エジプト モーセ①神の名前
6. モーセ②「十戒」
7. 3. カナン定着と戦う神
8. 4. 王国の発展 — 古代イスラエルの歴史叙述と申命記史観
9. 5. 王国の分裂と預言者の活躍 — アモス、ホセア、第一イザヤ、エレミヤ
10. 6. バビロン捕囚の体験 — 神の不在から神の再発見へ
11. 7. ユダヤ教の成立とメシア待望 — 第二イザヤ
12. Ⅳ. ナザレのイエス — その生涯と教え Ⅰ. 史的イエスと信仰のキリスト — イエスについての資料
13. 2. イエスの宣教活動
14. 3. イエスの裁判、十字架上の死と復活
15. Ⅴ. エルサレム原始教団と異邦人の使徒パウロ

授業の方法

講義形式

準備学習

講座全体を通して受講生には、キリスト教の聖典であり、人類の古典である聖書を読み、その内容に親しんでもらいたい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学期末テストの出席の状況を総合して評価する。最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』（新共同訳（旧約統編つき）） 日本聖書協会（新規に購入するならN143DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

荒井章三『ユダヤ教の誕生 — 「一神教」成立の謎』講談社学術文庫。
加藤隆『一神教の誕生 — ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書。
A. ノーラン『キリスト以前のイエス』新世社。
C. Rowland, Christian Origins. SPCK.

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、真にキリスト教を理解するためにはただ単にキリスト教に関する知識を頭に入れるだけではなく、学生一人一人が品限の「信じる」という在り方、生き方に主体的な関心を抱き、人間の苦悩とキリスト教の説く神の救いの意味について深く考えることが必要である。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	EC/PC	11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石丸 脩子	必修	2			

授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を目指す。

授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

授業計画

1. 聖書を読むということと聖書について
2. 人のいのちを気づかう心—古い契約と新しい契約
3. わたしは神であり、人間ではない—神の思い
4. 「戒め」を悟る、今日一掬の意味
5. わたしは下って救い出す—土地の意味
6. わたしはあなたに何をしよう—ヘセッドの意味
7. わたしの罪はわたしの目の前にある—罪のゆるし
8. 怠け者よ、いつまで横になっているのか—希望
9. わたしの骨からの骨—女の創造
10. エデンの園におき、耕させた—労働の意味
11. 主はわれらと共に—インマヌエルとクリスマス
12. わたしの心はわたしの内に変わった—レーブの意味
13. 世の人のみな行く道—死の意味
14. 腕を伸ばし、あなたをあがなう—あがなう者
15. 3日目に死者の中から復活する—復活

授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

準備学習

『聖書』（新共同訳）の最初、創世記1章～11章までを読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

テキスト

『聖書』旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行

参考図書

『旧約聖書』図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社
『聖書 Q & A』和田幹男監修 女子パウロ会
『聖書読解へのアクセス 50のポイント』湯浅俊治著 教友社

留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート（大きさは自由）を毎時間持参すること。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	I	集中	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

本学と深い関係のあるアジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アジジは訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力をもつ。この授業では1（国際性）に重点を置く。

授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジジを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、観賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回 ―イエスの生涯を中心に―
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回 ―フランシスコの生涯と思想―
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目: 関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目: ミラノにて大聖堂、聖アンブロジーオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目: フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目: アジジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目: マリアでデリアンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目: アジジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目: サンダミアノ修道院へ
11. 研修の日程6日目: ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目: バチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目: サンピエトロ大聖堂
14. 研修の日程8日目: 日本に向けて出発

15. 研修の日程9日目: 関西空港着

授業の方法

事前の講義と研修旅行。

準備学習

アジジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べておくこと。

課題・評価方法

事前の講義の出席、研修旅行での態度、事後のレポートなどを総合的に評価。

テキスト

川下勝『アジジのフランシスコ』清水書院、2004

参考図書

J.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳『アジジの聖フランシスコ』ドン・ボスコ社、1988
 チェラノのトマス著、石井健吾訳『聖フランシスコ第一伝記』あかし書房、1989

留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。たま、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また、視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	EC/PC		11113	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹田 文彦	必修	2				

授業の到達目標

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の教説、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が主体的に考える力を養うことを目標とする。このクラスでは、K（思いやり）とI（知性）を伸ばします。

授業の概要

現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既成の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また自分はどのように生きていこうかを見つけるのが大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で永井歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教も改めてその対応と存在意義が問われてきている。キリスト教は、現代社会が直面する様々な問題にどのように取り込み、答えようとしているのか？本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

授業計画

1. 序 ―現代を生きるキリスト教
2. I. 人間 ―真に人間らしく
 - ①「男と女」―新しい関係を求めて
3. ②「家庭」―危機と再生
4. ③「生と死」―生命倫理をめぐって
5. リフレクション①
6. II. 社会 ―価値多様化と多文化共生を目指して
 - ④「戦争と平和」―平和の作り方
 - ⑤「民族主義と差別」
8. ⑥「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション②
10. III. 世界 ―グローバル化の進退の中で
 - ⑦「富・貧・欲望」
11. ⑧「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション③
13. IV. 将来への展望 ―希望を抱いて
 - ⑨「不幸・不公平」―人間の苦しみと神の義の問題
14. ⑩「世の終わりと希望」

15. リフレクション④

授業の方法

講義形式。ただし時々グループで話し合ってもらったりもする。

準備学習

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の教説、歴史的取り組みなどを紹介しながら受講生一人一人に主体的に考えてもらうので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

テキスト

『聖書』（新共同訳（旧約統編つき）） 日本聖書協会（新規に購入するならNI43DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

芦名定道、土井健司、辻学 『現代を生きるキリスト教 ―もう一つの道から』 教文館。
 教皇庁正義と平和協議会 『教会の社会教説綱要』 カトリック中央協議会。

留意事項

テキストの『聖書』を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に於いても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(2)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学習

地動説について復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
各学科教員	必修	1			

授業の到達目標

大学生としての姿勢、本学の学生としての姿勢をまず理解し、大学共同体の一員としての立場を確認していく。また、大学生としての最低限の基礎学力を身につけることと、学習に必要な基礎的なスタディスキルの獲得をめざす。この授業ではA（自律）に重点を置く。

授業の概要

授業の前半に、習熟度別リメディアル学習をおこなう。基本的な言語、社会、数学の能力を問題演習を多く取り入れながらこの順に養成していく。後半には、大学の年間行事についてなど理解すること、大学において、学習・生活するためのスタディスキルを、各担任による少人数演習形式で学んでいく。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. (1)言語3
- (2)クラスでの自己紹介
4. (1)言語4
- (2)資料の探し方(図書館の利用法)
5. (1)社会1
- (2)授業の受け方
6. (1)社会2
- (2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会3
- (2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会4
- (2)学生生活(課外活動2)
9. (1)数学1
- (2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学2
- (2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学3
- (2)リサーチの方法(情報の集め方)

12. (1)数学4
- (2)リサーチの方法(レポート作成)
13. (1)基礎確認演習1
- (2)簡単なプレゼンテーション
14. (1)基礎確認演習2
- (2)マナー
15. (1)基礎確認演習3
- (2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学習

テキストの流れを見ておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回につき、10点引きとする。

テキスト

- ・大学・短大・専門学校生のためのマンツーマンリメディアルテキスト(育伸社)
- ・大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の基礎確認演習において、全科目(言社数)について、80点以上を取らなければ、不合格とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ			11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

大学生としての姿勢、本学の学生としての姿勢をまず理解し、大学共同体の一員としての立場を確認していく。また、大学生としての最低限の基礎学力を身につけると、学習に必要な基礎的なスタディスキルの獲得をめざす。この授業ではA（自律）に重点を置く。

授業の概要

授業の前半に、習熟度別リメディアル学習をおこなう。基本的な国語、社会、数学の能力を問題演習を多く取り入れながらこの順に養成していく。後半には、大学の年間行事についてなど理解することと、大学において、学習・生活するためのスタディスキルを、各担任による少人数演習形式で学んでいく。

授業計画

1. (1)言語1
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索の収集)
3. (1)言語3
(2)レポートの書き方1
4. (1)言語4
(2)レポートの書き方2
5. (1)社会1
(2)レポートの書き方3
6. (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
7. (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
8. (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
9. (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
10. (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
11. (1)数学3
(2)プレゼンテーション4(個人発表)

12. (1)数学4
(2)ディスカッションの進め方(個人発表)
13. (1)基礎確認演習1
(2)ディスカッション1
14. (1)基礎確認演習2
(2)ディスカッション2
15. (1)基礎確認演習3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式。

準備学習

テキストの流れを見ておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回につき、10点引きとする。

テキスト

- ・大学・短大・専門学校生のためのマンツーマンリメディアルテキスト(育伸社)
- ・大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の基礎確認演習において、全科目(言社数)について、80点以上を取らなければ、不合格とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ			11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の精神や歴史についての理解を深め、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について各自の考えをもつ。それに加えて社会に向かう姿勢としてキャリアについて学ぶ。

授業の概要

本学の出発点であるマリアの宣教師フランシスコ修道会の理解を含め、本学の建学の精神とその歴史等について学ぶ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉をグループでの討論や研究をとおして理解し、自分の言葉で表現する力を身につける(クラスでのプレゼンテーションをする)。具体的にはコミュニケーション力を養いながら、他者と協力する力、チームでひとつのを作り上げること、それを発信していく力をつけていく。同時に他者の意見に耳を傾ける力(傾聴力)を養い、新しい世界を共に発見することを目指す。また、社会の動きを知ることで、キャリアの一端を学ぶ。

授業計画

1. 海星の歴史 ～真理と愛に生きる～
2. 設立母体「マリアの宣教師フランシスコ」キリスト教との関係
3. 海星の建学の精神、マリアの姿、アッシジのフランシスコの存在
4. 海星の教育目標 大学は何をすること 人間としての成長
5. 校歌と聖堂
6. KAISEIパーソナリティと社会人基礎力、学士力との関係
7. 思いやり 人との共感
8. 自律 これまでの自己の歴史をとおして
9. 知性 耳を傾け、自ら考える
10. 奉仕 他者と自己との関係
11. 倫理 現代の日本社会を考える
12. 国際性 ボーダレスの世界 前に踏み出す力
13. 就業システムと生涯賃金(社会を知る3回)
14. 世の中の動きを知る①重大ニュース
15. 世の中の動きを知る②新聞・ニュースの見かた

授業の方法

講義と個人作業、グループディスカッション、プレゼンテーションの2つの方法をとる。

準備学習

KAISEIパーソナリティの6つの言葉と関連のある新聞記事、エッセイ、書物等を読むこと。また、ある時はそれについて自分の意見を1000字程度にまとめる作業もすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ			11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

本学の建学の精神と歴史を土台としてKAISEIパーソナリティの6つの言葉について理解し、同時に社会との関係についても学んだ（春学期）。このクラスではその6つの言葉と関連のある課題を見つけ、自分で考え人と意見を交わし、調べて発表することでKAISEIパーソナリティの理解を一層深める。

授業の概要

最初に企業研究をすることで社会との関係について一層の自覚をもつ。KAISEIパーソナリティの6つの言葉についてすでに一応の理解をしているが、ここでは各自が6つの言葉と関係のある課題を見つけ、いくつかの方法（書籍、インターネット等）を使って調べ研究し、自分の言葉でまとめる。その個人作業をもとに、同じ課題研究の人とチームを組み、発表の枠組を構築していく。図表や、パワーポイント等を使いながら、研究発表をする。この方法をいくつかの課題について繰り返す。最終的に全科の学生の前で研究を発表する（段階的にまとめたものでも一番良いと思うものでもよい）。

授業計画

1. 企業研究①調査
2. 企業研究②発表
3. 卒業生によるピア・サポート
4. 海星についての理解を振り返る
5. KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
6. テーマについての確認と個人作業
7. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告
8. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表
9. テーマについての確認と個人作業
10. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告

11. グループのプレゼンテーションの準備作業と発表2
12. プレゼンテーションの修正とディスカッション
13. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
14. 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
15. クラスでの振り返りとまとめ

授業の方法

個人作業とチームでの作業を重視し、グループでひとつの課題を研究し、発表することでプレゼンテーションの力をつける。

準備学習

6つの言葉と関連のある課題を発見するために本を読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ	EC/PC		11209	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、現在人間が置かれている歴史的位置を考察するため、フランス革命以降の歴史、とくに20世紀の歴史を概観する。また時事問題についても適時解説する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

本学はキリスト教的人間教育を目指している。では人間とは何か。人間はいかに生きるべきなのか。このような問題はあまりにも大きく、とても語り尽くせるものではない。そこで本講義は、現在、人間がその歴史においてどのような位置にあるかを考える手がかりを提供することを目的とする。毎回、授業の始めに新聞記事を読ませて感想を書かせたり、時事問題についての問題を解かせて簡単に解説する予定。

授業計画

1. フランス革命
2. ナポレオン
3. 産業革命
4. ウィーン体制とヨーロッパの諸革命
5. 自由主義と国民主義
6. 帝国主義
7. 第1次世界大戦とロシア革命
8. 大戦間期
9. 第2次世界大戦
10. 冷戦(1)
11. 冷戦(2)
12. 冷戦後の世界
13. パレスチナ問題
14. 21世紀の世界
15. まとめ

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学習

高校の世界史の教科書で、アメリカ独立戦争やフランス革命以降を読んでおくこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 2	EC・TH/PC		11213	Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岡村 祥子	必修	2				

授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティの要素もてがかりに、人間として、女性としての存在を認識していく。このクラスではKAISEIパーソナリティ全体についての理解を深める。

授業の概要

まず、人間存在について地球上の空間的な存在と、過去からの遺産を受け継ぐ歴史上の時間的な存在を確認する作業からはじめていく。次に人間を取り巻く環境を、家族、地域社会、国家等との関係で理解を深めていく。さらに、生きることは何か、人間らしい人間とは何かなどを自らに問いかけることによって、人生の旅を探求していく。知的な問いかけだけではなく、内面的な精神の営み、超越的な存在への問いかけをとりあげていく。

授業計画

1. 序 人間学について
2. 自己への問いかけ
3. 他者との関わり
4. KAISEIパーソナリティとの関係
5. 自然との関係
6. 地球上での存在
7. 地球環境の意識
8. 歴史の中の人間(人類の遺産) 1
9. 歴史の中の人間(人類の遺産) 2
10. 家族、社会の中で(国際社会)
11. 人間存在の神秘
12. 人間らしい人間とは
13. 超越者との出会い
14. 再びKAISEIパーソナリティとの関係
15. あらためて人間とは

授業の方法

講義とディスカッションを土台とする。討論に基づいた発表の時間

もとる。

準備学習

各時間のテーマについて資料を集めて調べ、まとめる作業をする。

課題・評価方法

平常点60%、定期試験40%

欠席について

出席点(100点満点)を全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点する。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

加賀乙彦『不幸な国の幸福論』集英社新書
 姜尚中『あなたは誰、私はここにいる』、『悩む力』集英社新書
 野田正彰『共感する力』みすず書房

留意事項

自己と他者に関心を持ち、世界の出来事に興味を持ち、現代社会を注視すること。また人生に対する自らの姿勢について自覚をもつこと。

教員連絡先

okamura@kaisei.ac.jp

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	EC/PC		11301	I	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

学びの中で就業力をあげる。コミュニケーション能力の育成を行い、共同作業・発表の機会を通し対人関係の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とを養う。

授業の概要

コミュニケーション能力の育成を重視する。グループワークの時間を多く設け、各自のライフデザインを構築する時間とする。キャリアを考えるとは、今を生きる力を身につけるということである。この問題を、キャリアセンターの教員と職員、外部講師が協力して発信、提案していく。

授業計画

1. 適性検査「キャリアマップ」実施
2. 「キャリアマップ」言語、数理論理問題の解説
3. SPTコミュニケーション①(サブパーソナリティランプを使った自己理解)
4. SPTコミュニケーション②(サブパーソナリティランプを使った他者理解)
5. 「キャリアマップ」ライフデザイン解説&ワーク
6. 人との関係づくり(コミュニケーションの取り方)
7. 自分との出会い(最も大切にしている価値観は?)
8. キャンパスライフを考える(行動目標をたてよう)
9. ウエディングプラン 冠婚葬祭の基礎知識と理想の友人スベチ
10. フィールドワーク 街を知る、地域を知る、自分を知る。
11. グループワーク 情報を整理して伝える。
12. グループワーク 自分の意見を発表する。
13. ディベートとは何か。理解と練習、題材の選び方。
14. ディベートを行う。判定の仕方。
15. KAISEIパーソナリティについて考える。

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学習

常に、自分と向き合う時間を設けるように。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文学へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面に注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
神隠しとは。
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
タブーをおかす。異界をひらく道。
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
山姫と山爺。異界をつくる者たち。
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
異界からの帰還。現実との接点。
5. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
迷信の近世。
6. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
文明の近代。
7. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
神殺しとこどもの自立。
8. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」
止まった時間、固定されぬ空間。
9. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その1)
語られぬ自己。
10. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その2)
男装の麗人。東洋における女性の地位。
11. 梶井基次郎「Kの昇天」と「シラノ・ド・ベルジュラック」
ドッベルゲンゲル。肉体と魂。
12. 夢野久作「瓶詰の地獄」
トリック。

13. 太宰治「魚服記」
他者を求める。
14. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」
猫になる人間たち。錯覚と理想郷。
15. 井伏鱒二「へんろう宿」
旅することと留まること

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学習

あらかじめ作品を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う

テキスト

東郷克美編『近代小説【異界】を読む』（双文社出版）

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、あくまで、近代文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では、一部のみしか鑑賞しない。近世・近代の文学に興味がある学生の受講を望む。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらいます。さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、「KAISEIパーソナリティ」の知性と自立を身につけてもらうことを目標とします。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法
10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2

15. 有価証券報告書の読み方3

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学習

初回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

『これならわかる！情報活用の基礎知識』、樋口勝一著、ノア出版

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉田 千里	選択	2				

授業の到達目標

心理学は何を対象とし、どのような手法でもってそれを研究してゆくのかについて、感覚知覚レベルの話題から社会的行動や臨床的問題にいたるまで、幅広く心理学が扱う問題についての基礎的な理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

ヴェントに始まる科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような議論が戦わされてきたのか、それは同様に学習や認知の研究においてはどのような展開を見せたのか。思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉える上で、そのような知見は十分なものであったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすことにはどのような問題があるのか、などについて具体的な資料をあげながら概観してゆく。

授業計画

1. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
2. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
3. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 2
4. 発達(環境と遺伝)
5. 学習・記憶(行動主義と学習理論) 1
6. 学習・記憶(行動主義と学習理論) 2
7. 思考・言語(認知心理学) 1
8. 思考・言語(認知心理学) 2
9. 動機づけ・情動
10. パーソナリティ(人格の形成)
11. パーソナリティ(人格の評価)
12. 社会的行動
13. 臨床の心理学 1
14. 臨床の心理学 2
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、感覚、知覚、学習、記憶、社会心理、パーソナリティ評価に関する作業課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学習

心や脳に関する話題は、新聞、テレビ等でよく話題にされるので、関連特集などに注目して視聴してください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

鹿取魔人、杉本敏夫編 2004 心理学 第3版 東京大学出版会
 大山正・金城辰夫・福島章・岡本夏木・高橋滯子共著 1990 新版 心理学のあゆみ 有斐閣

留意事項

講義は各回が前回の内容を前提として進められるので、講義内容の流れを常に把握しておくこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報化が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分らずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

1. 割合の学習
2. 割合の学習
3. 1次元データの統計基礎①～代表値
4. 1次元データの統計基礎②～分散・標準偏差
5. 1次元データの統計①～度数分布表とヒストグラム
6. 1次元データの統計②～度数分布表における代表値
7. 1次元データの統計③～度数分布表における分散・標準偏差
8. 1次元データの統計④～総合練習
9. 2次元データの統計基礎①～クロス集計表
10. 2次元データの統計基礎②～散布図と相関係数
11. 2次元データの統計基礎③～総合練習
12. 正規分布表の読み方
13. 正規分布表の利用
14. 統計的推定・検定
15. まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自

ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学習

小学校で学習した簡単な割合の内容を理解していることがのぞましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「大学生のための統計学ドリル」、落合史夫・樋口勝一著、晃洋書房

留意事項

講義は小学算数のレベルからゆっくり進めるので、数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義修了後、心理統計学を選択することが望ましい。

教員連絡先

higuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ジェンダー論			11325	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

授業計画

1. ジェンダーとは
2. 「女らしさ」と性別役割
3. 「男らしさ」と性別役割
4. 教育とジェンダー
5. 労働とジェンダー
6. ライフコースの多様化
7. 結婚・離婚とジェンダー 1
8. 結婚・離婚とジェンダー 2
9. 主婦と家事
10. 子育てとジェンダー
11. ケアとジェンダー
12. 暴力とジェンダー
13. ジェンダー政策
14. 国際化の中の女性問題・男性問題
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとり入れる。

準備学習

テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

教員連絡先

yumi@kaisei.sc.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
芹田 健太郎	選択	2				

授業の到達目標

今日では、日本国憲法制定時には考えも及ばなかった人権条約が誕生し、飛躍的にその数を増加させてきているので、日本国憲法の人権条項をこれら人権条約との比較の上で検討して、今日的な憲法の意味を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

最初の数回を日常生活や国家社会、国際社会との関連を概観する。続いて、憲法というものがどのようなものか、国際条約がどのようなものかを明らかにし、特に人権について講義する。その際、社会的に弱者と考えられる人たちに光を当てて、具体的な状況を指摘しながら、論じていく。

授業計画

1. 日常生活と法と常識と
2. 社会と法・権利
3. 国際社会と法
4. 憲法というもの一人権と統治
5. 憲法と人権条約
6. 人権の基礎—個人の尊重と人間の尊厳
7. 人間は「商品」ではない—奴隷貿易と近代人権宣言
8. 世界人権宣言—「国民」の権利から「人間」の権利へ
9. 自由権規約について
10. 社会権規約について
11. 人種差別撤廃条約について
12. 女性差別撤廃条約について
13. 子どもの権利条約(子ども兵士禁止条約、子どもポルノ禁止条約を含む)について
14. 障害者権利条約について
15. 難民条約

授業の方法

原則として講義、時に質疑応答

準備学習

日常生活を意識的に分析し、ひとつひとつの行動の意味を、歩いたり、電車に乗ったりするとき、これは法律的にはどのような意味をもつのかを考える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う。

テキスト

芹田健太郎『憲法と国際環境（補訂版）』（有信堂、1992）
 芹田健太郎編集代表『コンパクト学習条約集』（信山社、2010）
 芹田・葉師寺・坂元共著『ブリッジブック国際人権法』（信山社、2008）

参考図書

芹田健太郎『国際人権法I』（信山社、2011）
 同『国際人権法II』（信山社、近刊）

留意事項

上述準備学習参照。

教員連絡先

seriken1q41@gmail.com

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学			11333	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	1				

授業の到達目標

現代社会において健康への関心は高まっているが、多くの健康阻害要因が存在し、生活習慣病や心の病が大きな社会問題の一つになっている。自己管理ができ、心身ともに健康に日々の生活を送るための基礎知識を習得することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）を養う。

授業の概要

まず「健康」とはどのような状態を意味するのかを考え、健康に必要な要素について学ぶ。具体的には、健康に影響を及ぼす生活習慣病の知識を学び、また、栄養・睡眠・運動・心が健康に与える影響についても学ぶ。そして飲酒・喫煙などの身近な健康阻害要因についての基本的な知識を習得し、自らの健康について何が必要であるのかを考えていく。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.健康とは
- 3.栄養と健康
- 4.運動と健康
- 5.睡眠と健康
- 6.心と健康
- 7.飲酒・喫煙が体に及ぼす影響
- 8.まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学習

健康とはどのような状態をいうのか、また健康を阻害する要因にはどのようなものが考えられるかについて簡単に学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

留意事項

授業時に指示する。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1	①/②		11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	1				

授業の到達目標

生涯スポーツであるテニス・卓球などを楽しく学びながらスポーツを身近に感じ、関心を深め、日常化することで、健康増進・体力向上を目指し、肥満・生活習慣病などの予防に対する意識を高めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）を養う。

授業の概要

硬式テニスについてルールを学び、基本練習から入り、最終的にはゲームを行う。具体的には、グリップの握り方やフットワークなど基本的なことから学び、段階的にフォアハンドストローク・バックハンドストローク・ボレー・スマッシュ・サーブなどの技術を学び、ゲーム練習に入る。

授業計画

- 1.テニス
ルール説明、フォアハンド・バックハンドの基本(グリップ・打点・スイングなど)
- 2.フォアハンドストローク基本・ラリー
- 3.バックハンドストローク基本・ラリー
- 4.サーブの基本・ラリー
- 5.フォアボレー基本・ラリー
- 6.バックボレー基本・ラリー
- 7.フットワーク(ステップ)基本・ラリー
- 8.スマッシュ基本・ラリー
- 9.ダブルス形式
- 10.ゲーム
- 11.ゲーム
- 12.卓球
ルール説明、基本練習
- 13.基本練習・サーブ
- 14.ゲーム
- 15.ゲーム

授業の方法

生涯スポーツであるテニス・卓球の実技を中心に行う。

準備学習

テニスのルールについて簡単に学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

留意事項

体操服・テニスシューズもしくは運動靴を持参。雨天時は、2号館体育室（体育館シューズ持参）で卓球を行うが、実施場所は毎回掲示板で確認すること。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

1. 神々の歴史 「古事記」と萩原規子『空色勾玉』を読む
2. 縄文時代・弥生時代 たつみや章『月神の統べる森で』を読む
3. 邪馬台国・古墳時代 横光利一『日輪』を読む
4. 邪馬台国のあった頃の中国(魏) 吉川英治『三国志』を読む
5. 飛鳥時代 池田理代子『聖徳太子』を読む
6. 大化の改新から 里中満智子『天上の虹』を読む
7. 奈良時代 手塚治虫『火の鳥』を読む
8. 平安時代 大和和紀『あさきゆめみし』を読む
9. 年中行事(正月について) 『枕草子』を読む
10. 年中行事(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
11. 年中行事(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
12. 年中行事(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
13. 鎌倉時代 平家滅亡 「平家物語」・小泉八雲「耳なし芳一」を読む
14. 鎌倉時代 義経逃亡 斎藤洋『白狐魔記・源平の風』を読む
15. 室町時代 三島由紀夫『金閣寺』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学習

取り上げる図書はすべて、図書館の指定図書コーナーでも閲覧できる。あらかじめ読んでおくことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会计学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明します。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することです。

さらに、この授業は、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」の知性と国際化と自立を身につけてもらうことを目標とします。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することです。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明します。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になります。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義します。

授業計画

1. 簿記の基礎
2. 仕訳①～商品売買
3. 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
4. 仕訳③～手形
5. 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
6. 仕訳⑤～その他の債権債務
7. 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
8. 仕訳⑦～租税公課と資本金
9. 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
10. 決算①～帳簿への記入
11. 決算②～試算表の作成
12. 決算③～伝票制度

13. 決算④～精算表と財務諸表
14. 決算⑤～帳簿の締め切り
15. まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学習

授業の始まる前には、必ず予習をしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

留意事項

電卓は必要なので持参してください。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
自然科学概論			11361	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領が示す小学校の理科の内容である物理・化学・生物・地学を「自然科学」という概念のもとで扱い、自然現象を客観的に観察し、問題を考察する力を育てることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

自然科学は、我々人類が長年にわたって自然現象を解明するために築き上げてきた学問であり、大きく物理・化学・生物・地学の分野に分けられる。本講義では、時空のしくみや素粒子の世界を記述する物理学と、原子の世界を説明する化学、生命の現象を調べる生物学、地震・気象など身近で起こっている現象を説明する地学を学習していく。

なお、学習の動機付けとして就職試験や公務員試験における理科の対策もおこなう。

授業計画

- 1.物理1－力学
- 2.物理2－熱学
- 3.物理3－電磁気学
- 4.物理4－電気回路
- 5.物理5－波動
- 6.物理6－原子核
- 7.化学1－ものの溶け方
- 8.化学2－ものの燃え方
- 9.化学3－水溶液の性質
- 10.生物1－顕微鏡の使い方
- 11.生物2－観察の方法
- 12.地学1－気象
- 13.地学2－地球と天体
- 14.総合練習問題
- 15.まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、事例を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学習

小学校、中学校の理科の基礎を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

後日指示。

留意事項

授業は小学理科のレベルからゆっくり進めるので、物理や化学などが苦手な人も安心して受講してほしい。

教員連絡先

higuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得し、家族関係の問題に科学的に接近できるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

- 1.家族とは
- 2.家族関係の基礎的概念 1
- 3.家族関係の基礎的概念 2
- 4.配偶者の選択
- 5.結婚と夫婦関係
- 6.離婚・再婚と家族関係
- 7.ライフコースと家族の危機
- 8.家族の内部構造
- 9.子どもの養育と家族関係
- 10.中年期の家族関係
- 11.高齢期の家族関係
- 12.家族に関する政策と法
- 13.家族と社会的ネットワーク
- 14.家族の変動
- 15.まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学習

テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論			11369	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清原 国臣	選択	2				

授業の到達目標

21世紀は世界のどの国も「福祉国家」を目標に、「地域福祉」へと拡大しつつある。勿論、日本も言うまでもない。日本の現代社会における「社会福祉の意義」と、歴史的経緯を理解し、多岐に亘った「医療・福祉・介護」の現状を見極めながら、福祉の全体像を把握する。また日々変遷する社会状況の中での制度の在り方や実施体系、それを利用する人々の位置付けや、援助技術を施す介護専門家としての実践理論等を修得する。殊にこのクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とE（倫理）を目指し、社会的責任の果たせる市民としての自覚を促す。

授業の概要

現在高齢社会が急速に進行する中で、日本の「社会福祉」に対する認識も益々高まってきた。授業では「社会福祉」の概論だけでなく、社会福祉における「個」と「社会」との関連を重視し、家族や地域、職場、施設での現実の生活にどう対応できるか、また如何に支援すべきかという視点を養ってもらおう。殊に社会保障制度の中で常に問われる「人」「物」「金」「情報」等が国家的施策として均等に推進されているか、内外の最新情報や資料を提供し、その動きを鋭く見極める専門家としての素地を身に付けてもらう。そうして社会福祉の充実に向けて主体的に人間関係を構築していける豊かな人材育成を目指す。

授業計画

1. 私たちの生活と社会福祉
2. 社会福祉の成り立ちと発展－欧米の社会福祉
3. 社会福祉の成り立ちと発展－日本の社会福祉
4. 社会福祉のしくみ
5. 低所得者の福祉
6. 子どもと家庭の福祉－子どもの人権と福祉
7. 子どもと家庭の福祉－子育て支援施策
8. 心身障害者の福祉－障害者福祉の理念
9. 心身障害者の福祉－障害者の福祉施策
10. 高齢者の保健医療福祉－老人福祉法
11. 高齢者の保健医療福祉－介護保険

12. 地域福祉、医療福祉、教育と福祉
13. 社会福祉に携わる人々
14. 社会福祉援助の方法－ソーシャルワークとは
15. 社会福祉援助の方法－ソーシャルワークの技術

授業の方法

毎時間ノート筆記を行い、セクションのまとめとして月末にミニテストを行う。

準備学習

できるだけ日常の新聞報道等で社会福祉に関する記事に目を通す。また、テキスト予習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う。

テキスト

小林育子・著、『保育者のための社会福祉』（萌文書林・2011・刊）

参考図書

適時、授業時に紹介する。

留意事項

授業に積極的に参加すること。小テストも評価の対象とする。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

人権問題の歴史と現状を踏まえて、人権教育の必要性を認識する。そして、様々な人権問題について具体的な事象とおして理解を深めることができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とIn（国際性）を目指します

授業の概要

本講義では、まず人権とは何か、人権教育はなぜ必要なのかを考察する。そして、人権意識の発展の歴史を踏まえた上で、様々な人権問題について理解する。また、身の周りにおける人権問題に関わりのある事例や、新聞報道などを取り上げ議論することを通して、自らの人権感覚を深めていきたい。

授業計画

1. はじめに 一人権・人権教育とは－
2. 世界における人権拡張の歴史
3. 日本における人権拡張の歴史
4. 同和問題と人権教育
5. 子どもの人権 子どもの権利条約－
6. 社会における人権問題① 女性の権利－
7. 社会における人権問題② 障害児(者)・高齢者の権利－
8. 社会における人権問題③ 在日外国人の権利－
9. 教育における人権問題① 教育権・学習権をめぐる問題－
10. 教育における人権問題② いじめ・不登校をめぐる問題－
11. 教育における人権問題③ 懲戒・体罰、校則をめぐる問題－
12. 学校教育における人権教育①
13. 学校教育における人権教育②
14. 社会教育における人権教育
15. まとめと人権教育の今日的課題

授業の方法

講義を中心にディスカッションや発表も取り入れる。

準備学習

自ら体験した人権教育について思い返しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点50%のうち、出席は30%、小テスト20%とする。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

日頃から、新聞・テレビ等の人権関連報道等に常に関心を持ち、授業に臨むこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領が示す小学校の社会科の内容を、日本史を中心に講義する。歴史を学ぶことによって現代のさまざまな問題について考える力をつけてもらいたい。この授業ではK（知性）に重点を置く。

授業の概要

時間が非常に限られているので、まず日本史の流れをおさえることを主眼とする。それとともに主要事項を確認していく。歴史はすべてのかかわるので、さまざまな問題に言及しながら授業を進めたい。政治、経済についても時間を割きたいと思う。また、内容の定着をはかるため、随時小テストを行う。常識を身につけるために、教職を目指す学生だけでなく、一般企業などを目指す学生にも受講してもらいたい。

授業計画

1. 縄文・弥生時代
2. 古墳時代と大和政権の成立
3. 律令制の成立
4. 平城京と平安京
5. 鎌倉時代
6. 室町時代と千石時代
7. 江戸時代(前期)
8. 江戸時代(後期)
9. 開国と明治維新
10. 日清戦争から第2次世界大戦
11. 戦後
12. 日本の議会制民主主義
13. 為替相場
14. 株価の変動
15. まとめ

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学習

次回の講義の内容を高校の日本史の教科書等で復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

随時プリントを配布する予定。

参考図書

とくに指定しない

留意事項

日本史を中心にかなり大まかに講義するので、時代の流れとともに主要事項をしっかり頭に入れて出席すること。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなって、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につけ、実践的能力を養う。

授業計画

1. 様々な家政学
2. 家政学の定義、目的、対象、方法
3. 家政学の発展過程と改革
4. 家庭生活と生活経営
5. 家庭経済・消費者問題
6. 家族関係
7. 食生活 1
8. 食生活 2
9. 衣生活 1
10. 衣生活 2
11. 住生活 1
12. 住生活 2
13. 生活情報
14. 生活環境
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

準備学習

高等学校までの家庭科を復習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

日本語 <日本語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	EC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用することは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

1. 「文章入門」書き言葉の決まり事を学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
2. 「敬語」尊敬語と謙譲語(その1)プリント配布。
3. 「敬語」尊敬語と謙譲語(その2) 「敬語表小テスト」
4. 「敬語」まちがいがやすい敬語 「敬語小テスト」
5. 「敬語」待遇表現(その1) 「敬語小テスト」
6. 「敬語」待遇表現(その2) 「敬語小テスト」
7. 「修辭法と慣用句」比喩法・変化法、慣用句ことわざ 「敬語まとめテスト」
8. 「文中の誤りを正す」推敲の仕方を学ぶ。「冠婚葬祭」の常識 「敬語総まとめテスト」
9. 「メールの書き方」プリント配布 「比喩法・変化法テスト」
10. 「履歴書とエントリーシート」 「慣用句・ことわざテスト」
11. 「手紙とはがき」一般的な形式と表現 「履歴書の書き方テスト」
12. 「手紙とはがき」礼状 「手紙の一般的な形式についての小テスト」
13. 「案内状の作成」種類と内容 「礼状を書く小テスト」
14. 「誤用文と推敲」修飾句の位置・副詞の呼応 「案内状作成についての小テスト」
15. 「文章の構成」「5年後の私」 「正しい叙述の照応についてのテスト」

授業の方法

演習中心の授業である。

準備学習

敬語は使わなければ身に付かない。日頃から意識して正しい敬語を使う努力をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典（電子辞書も可）を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

日本語 <日本語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を習得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感覚を磨くために、詩や格言等の学習を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. スピーチの仕方
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方 自己紹介の仕方
6. 話し方①
7. 話し方②
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写(毛筆習字)①
14. 書写(毛筆習字)②
15. まとめ

授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学習

テキストの第1章「会話表現基礎編」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。毎時間、国語辞典を持参する。
書写の持ち物：半紙、大筆、小筆、墨汁、硯、文鎮、下敷き、新聞紙等。その他必要な物は事前に連絡する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は公表する。

授業計画

1. <評論文> (1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
2. <評論文> (2) 映画評を書く。アウトラインのたてかたを学ぶ。
3. <評論文> (3) 文中の誤りを正す。推敲の仕方を学ぶ。
4. <評論文> (4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5. <評論文> (5) 書評を書く。序論・本論・結論の順に記述を進める。引用の規則を守る。
6. <新聞検索> 新聞記事の検索を行い、次回にレポートを書く資料準備を行う。
7. <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。特に自説の証明を学ぶ。客観的根拠を3例以上あげ、自説を証明する。
8. <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
9. <意見文・説得文> 新聞投稿を行う。結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
10. <小説> 語り手の位置を学ぶ。
11. <小説> テーマにそった短編小説を書く。
12. <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
13. <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14. <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。プレーンライティング法を学ぶ。
15. <エントリーシート> 「10年後の私」という題で自分について書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。

授業の方法

演習が中心の授業となる。新聞投稿などをおして、社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学習

漢字のテストを毎回行う。課題をあたえるので、復習をしておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

レポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典（電子辞書も可）を持参すること。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1	EC/PC		11501	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一／米田 里香／武田 春美	必修	2				

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を習得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用してさまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

まず、ハード、ソフト、ネットワークなどコンピュータの基礎知識を学習する。そして、OS、ワープロソフトの使い方を実習により習得し、さらには、インターネット、Eメールのプレゼンテーションソフトの簡単な利用方法を学ぶ。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験2、3級の過去問題演習もおこなう。

授業計画

1. コンピュータの基礎知識 1
 - (1) コンピュータのしくみ
2. コンピュータの基礎知識 1
 - (1) コンピュータのしくみ
3. コンピュータの基礎知識 2
 - (2) ハードウェア (3) ソフトウェア (OSの概要を含む)
4. コンピュータの基礎知識 3
 - (4) インターネットとネットワーク (5) EUCについて
5. 情報倫理と情報の利用
6. ウィンドウズ の操作
 - (1) 基本操作 (2) ファイル操作
7. 日本語入力
 - (1) 日本語入力システム (2) タッチタイピング
8. 簡単なビジネス文書作成 1
9. 簡単なビジネス文書作成 2
10. 日本語ワープロ技能標準試験 3級問題演習
11. 日本語ワープロ技能標準試験 2級問題演習
12. 電子メール・インターネットによる情報の受信と発信
13. プレゼンテーションソフトの基本
14. まとめ
15. 確認演習

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、実際に課題に取り組むことで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学習

1年次配当「情報活用の基礎知識」を同時に受講していることが望ましい

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

繰り返しで慣れる！Office演習ドリル全555題2007対応、ノア出版
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集、樋口勝一、ノア出版

留意事項

コンピュータを使った演習が中心である。

教員連絡先

higuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

情報<情報>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2	EC/PC	11505	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
武田 春美／米田 里香	必修	2			

授業の到達目標

現代ビジネス社会に必要なとされるパソコンとビジネスデータを活用し、問題解決や発表、経営上の意思決定ができる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

はじめに、データ処理に必要な数学を割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータ処理のために必要な数式を立てる練習をおこなう。また、ビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ。その後、表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化がおこなえるように指導する。なお、学習の動機付けとして、表計算技能標準試験の過去問練習もおこなう。

授業計画

1. ビジネスと割合 1
2. ビジネスと割合 2
3. 表計算基礎 (1)表作成 (2)関数 (3)グラフの利用方法
4. 表計算ソフトの操作 1 (1)表作成
5. 表計算ソフトの操作 2 (2)関数機能 1
6. 表計算ソフトの操作 3 (3)関数機能 2
7. 表計算ソフトの操作 4 (4)グラフ作成機能
8. 表計算ソフトの操作 5 (5)データベース機能
9. 表計算技能標準試験3級対策
10. 表計算技能標準試験2級対策
11. ビジネス・経営組織と情報
12. コンピュータと会計
13. 情報処理システムの開発
14. まとめ
15. 予備日

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもら

う。

準備学習

小学校の算数を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

『繰り返して慣れる！Office演習ドリル全555題 2007対応』、樋口勝一、ノア出版

『表計算技能標準試験過去問題集』、樋口勝一、ノア出版

留意事項

テキスト『繰り返して慣れる！Office演習ドリル』は情報リテラシー1と共通なので、情報リテラシー1の講義を受講した人は新たに購入する必要なし。

教員連絡先

higuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

情報<情報>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 1	①/②	11509	II	春	35
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 里香／武田 春美	選択	2			

授業の到達目標

ビジネス文書をワープロソフトで作成する能力を養成することと、入力技術だけでなく、ビジネス文書作法、コンピュータのしくみなどの理解を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

近年、我々の生活の中に、パソコンが急速に普及してきた。それにともない、ほとんどビジネス文書など公式文書の多くはパソコンを使って作成されるようになり、手書きのものはほとんど見られなくなっている。本講義では、ワープロソフトを使って、表、流れ図、案内文、地図の作成などの応用操作を学ぶ。なお、学習の動機付けとして日商PC検定3級文書作成の対策もおこなう。

授業計画

1. コンピュータのしくみ
2. ネットワーク
3. ネット社会の到来
4. ビジネス文書作法
5. 知識問題復習
6. ワードの基本操作確認 (1)書式設定
7. ワードの基本操作確認 (2)表作成 1
8. ワードの基本操作確認 (3)表作成 2
9. ワードの基本操作確認 (4)図形
10. ワードでのビジネス文書作成ポイント
11. 実践練習 1

12. 実践練習 2
13. 実践練習 3
14. まとめ
15. 予備日

準備学習

情報リテラシー1の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

『これでバッチリ！ドリルで学ぶ日商PC検定3級文書作成対策テキスト』、樋口勝一・米田里香著、ノア出版

『日本商工会議所 日商PC検定試験（文書作成）3級完全マスター』、FOM出版

留意事項

コンピュータを使った演習をする。

情報 <情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 2			11513	Ⅱ	秋	35
担当者名	区分	単位	特記事項			
米田 里香	選択	2				

授業の到達目標

ビジネス実務に必要なとされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

情報リテラシー 2 で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。
日商PC検定 3 級 (データ活用) の取得を目指す。

授業計画

1. エクセルの基本操作確認
2. エクセルの関数応用 1
3. エクセルの関数応用 2
4. エクセル応用操作 1 - データ集計
5. エクセル応用操作 2 - ピボットテーブル
6. エクセル応用操作 3 - グラフ
7. 総合復習
8. 日商PC検定 3 級データ活用対策
9. 日商PC検定 3 級データ活用対策
10. 日商PC検定 3 級データ活用対策
11. 日商PC検定 3 級データ活用対策
12. 日商PC検定 3 級データ活用対策
13. 日商PC検定 3 級データ活用対策
14. 日商PC検定 3 級データ活用対策
15. まとめ

授業の方法

日商PC検定 3 級 (データ活用) の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学習

エクセルの基本をもう一度学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

5 回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

「日商PC検定 3 級完全マスターデータ活用」FOM出版

留意事項

情報リテラシー 2 とオフィス情報処理 1 を受講していること。

外国語 <外国語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	a/b		11601	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子 / 千葉 奈乙江	選択	1				

授業の到達目標

英語の基本的な文法事項を確実に習得し、読む、聞く、書く、話すの四技能の実用能力を総合的に向上させることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養い、K(思いやり)を考える。

授業の概要

保育園での春夏秋冬の生活を描いたストーリーを読み、保育の現場に欠かせない語彙や表現を学んで内容を理解する。また説明したり、頼んだり、お礼を言ったり、注意したり、謝ったりというような保育者と子供や保護者との会話や連絡帳のやり取り、電話での対応などのタスクを通して園生活の具体的な場面でのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

授業計画

1. The School Year Begins
2. Arrival
3. Playtime in the Classroom
4. In the Sandbox
5. In the Playground, Grammar 1
6. Lunch Time, Grammar 1
7. Changing Clothes and Story Time
8. Nap Time
9. Blowing Bubbles, Grammar 2
10. A Sick Child, Grammar 2
11. Preparation for the Sports Day
12. The Sports Day
13. Going for a Walk, Grammar 3
14. Discovering Autumn, Grammar 3
15. Drawing & Letter Writing

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学習

中学校・高等学校で学習した文法事項や単語を復習しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

森田和子 『新保育の英語』 *English for Nursery Schools and Kindergartens*[Revised] 三修社

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。本文は必ず声に出して読む練習をし、分からない単語の意味を調べておく。指示されたところまでの練習問題は必ず準備して授業に臨むこと。英語辞書必携。座席指定。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	a/b	11605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／釜須 久夫	選択	1			

授業の到達目標

将来、保育士を目指す学生に必要とされる語彙と知識を学習する。保育園の一日の様々なシーンを英文で読みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストに沿って、保育園を初めて訪問するところから卒園する場面までの様々なシーンを一回1ユニットずつ読み進めてゆく。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしてゆく。

授業計画

1. UNIT 1 First Step to Childcare English
2. UNIT 2 Welcome to Minato Nursery School!
3. UNIT 3 Time and Numbers
4. UNIT 4 Directions
5. UNIT 5 Davy Meets his Classmate Takashi
6. UNIT 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up
7. UNIT 7 Jobs at Nursery School
8. UNIT 8 Lunchtime
9. UNIT 9 Toilet Dialog
10. UNIT 10 Fighting
11. UNIT 11 Injuries and Illnesses
12. UNIT 12 Telephone Calls
13. UNIT 13 Field Trip
14. UNIT 14 Baby Care

15. UNIT 15 Graduation Day

授業の方法

テキストに沿って毎回1ユニットずつ進めてゆく。

準備学習

必ず指定された個所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

『保育の英会話』赤松直子著 萌文書林

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp(平野)、alohasam@y7.dion.ne.jp (釜須)

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3	a/b	11609	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／入江 和子	選択	1			

授業の到達目標

英語の基本的な文法事項を確実に習得し、四技能の実用能力を総合的に向上させることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養い、K(思いやり)を考える。

授業の概要

文法事項のポイントを200語前後の文脈の中で確認し、次にさまざまな練習問題を通して断片的な文法知識を組織的に再構築し、要点が理解できているかを再確認する。

授業計画

1. Unit 1 Water, Please [現在時制]
2. Unit 2 The Magic of Disney [過去時制と肯定文]
3. Unit 3 Balancing Studies and a Part-Time Job [命令文]
4. Unit 4 Convenience Store [名刺]
5. Unit 5 Japanese Loan Words [代名詞]
6. Unit 6 Cherry Blossoms in Japan [形容詞と副詞]
7. Unit 7 Diet and Health [比較級と最上級]
8. Unit 8 Sensory Branding [状態動詞]
9. Unit 9 Time to Take a Nap [助動詞]
10. Unit 10 Artificial Intelligence [willとbe goin to]
11. Unit 11 Campus Life in the U.S. [動名詞と不定詞]
12. Unit 12 Cosmetic Surgery [現在進行形]
13. Unit 13 Great Inventions [過去進行形]
14. Unit 14 The Titanic [過去時制と否定]
15. Unit 15 Brain Training [現在完了]

準備学習

中学校・高等学校で学習した文法事項や単語を復習しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

Robert Hickling, 市川泰弘 『Get Reading! 一大学生のための読解演習』金星堂

参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

留意事項

毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。指示されたところまでは必ず単語を調べ、練習問題をして授業に臨むこと。英語辞書必携。座席指定。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 4	a/b	11613	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
千葉 奈乙江／平野 真理子	選択	1			

授業の到達目標

保育園での生活について英文を通して学習するなかで、将来、保育士を目指す学生に必要なとされる語彙や表現を習得することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要

保育園の一日における様々なシーンが各ユニットで紹介されているので、毎回一つのユニットを読み進めてゆく。身につけておくべきキーワードや事物の名称もイラストを通して学習する。また、毎回単語のテストを実施し、重要語句を確実に習得するようにする。

授業計画

1. introduction
UNIT 1
2. UNIT 2
3. UNIT 3
4. UNIT 4
5. UNIT 5
6. UNIT 6
7. UNIT 7
8. UNIT 8
9. UNIT 9
10. UNIT 10
11. UNIT 11

12. UNIT 12
13. UNIT 13
14. UNIT 14
15. UNIT 15

準備学習

必ず指定された箇所の予習をしてくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

保育の英語

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	a	11617	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	選択	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1:continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2:continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3:continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4:continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5:continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6:continued
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	b	11617	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	選択	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable the students to move from high-beginner and progress towards English at a pre-intermediate level. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Welcome
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 2: Lifestyle 2
6. Unit 2: continued
7. Unit 2: continued
8. Review
9. Unit 3: People 3
10. Unit 3: continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 4: Places
13. Unit 4: continued
14. Unit 4: continued
15. Review

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales and Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	a	11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	1			

授業の到達目標

日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writingのみならず、Culture, Critical Thinkingの観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentationを通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. The Beauty of the Seasons
3. Continued
4. The Importance of English
5. Continued
6. How the Internet Evolved
7. Continued
8. Travel in Japan
9. Continued
10. The Secret of Happiness
11. Continued
12. Secondhand Smoke
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the text before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency*: Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	b/c	11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/Angus HALL	選択	1			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts for information and write effective paragraphs. They will also have a greater sense of Internationality.

授業の概要

Students will advance from an beginning proficiency level to a pre-intermediate proficiency level in reading and writing.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names Reading 1
3. Unit 1: Reading 2
4. Unit 1: Writing
5. Unit 2: Work Reading 1
6. Unit 2: Reading 2
7. Unit 2: Writing
8. Review
9. Unit 3: Long Distance Reading 1
10. Unit 3: Reading 2
11. Unit 3: Writing
12. Unit 4: Positive Thinking Reading 1
13. Unit 4: Reading 2
14. Unit 4: Writing
15. Review

授業の方法

Students will work individually and in pairs and small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the text before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

留意事項

This course will be taught entirely in English.

教員連絡先

angushall@hotmail.com
howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	a	11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	選択	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from an elementary level of English and progress towards English at a pre-intermediate level. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs, groups and as a whole class.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Changes 7
3. Unit 7: continued
4. Unit 7: continued
5. Unit 8: Money 8
6. Unit 8: continued
7. Unit 8: continued
8. Review
9. Unit 9: Nature 9
10. Unit 9: continued
11. Unit 9: continued
12. Unit 10: Society 10.
13. Unit 10: continued
14. Unit 10: continued
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs, in groups and as a class.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	b	11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	選択	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs, groups and as a whole class.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Holidays
3. Unit 7: continued
4. Unit 8: Present Tenses
5. Unit 8: continued
6. Unit 9: Transport
7. Unit 9: continued
8. Review
9. Unit 10: Future Forms 1
10. Unit 10: Future Forms 2
11. Unit 11: Health
12. Unit 11: continued
13. Unit 12: Present Perfect 1
14. Unit 12: Present Perfect 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	a	11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	1			

授業の到達目標

これまで学んできた英語力をさらに磨く。日本および国際的なテーマの英文をCritical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writing のみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. What Color Tell about You
3. Continued
4. Free Music
5. Continued
6. Fast Food and Health
7. Continued
8. The Dangers of Credit Cards
9. Continued
10. Old Media and New Media
11. Continued
12. Women in College
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency*; Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	b/c		11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD/Angus HALL	選択	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will develop the necessary skills to read texts for information and write effective prose on a variety of topics.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Reading 1
3. Unit 1: Reading 2
4. Unit 1: Writing
5. Unit 2: Reading 1
6. Unit 2: Reading 2
7. Unit 2: Writing
8. Review
9. Unit 3: Reading 1
10. Unit 3: Reading 2
11. Unit 3: Writing
12. Unit 4: Reading 1
13. Unit 4: Reading 2
14. Unit 4: Writing
15. Prepare for exam

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups, and alone.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading Writing 2, McVeigh and Bixby, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp
angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 1			11633	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn (国際性)を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランス文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

1. オリエンテーション、教室で使う表現、alphabetの読み方、挨拶
2. 音の規則 1「あなたのお名前は？」「私は〇〇です」「どう綴りますか？」
3. 音の規則 2「お元気ですか？」「どこに住んでいるのですか？」
4. 「ご出身は？」「国籍は？」「ご職業は？」「どのような言語を話しますか？」
5. 自己紹介まとめ、数字、電話番号
6. 否定文「〇〇さんを紹介します」
7. 疑問文「〇〇で働いているのは誰でしょう？」「この人は誰でしょう？」
8. 動詞 étudier「〇〇さんは何を勉強していますか？」
9. 動詞 aimer, faire「映画が好きですか？」「週末何をするのが好きですか？」「よくそれをしますか？」
10. 動詞 avoir「これが私の家族です」「兄弟がいますか？」「年齢は？」
11. 家族の紹介まとめ
12. 疑問文「〇〇はフランス語でどう言いますか？」「これは何ですか？」
13. 「仕方がない」「カバンに何が入っているのですか？」「これは誰のカバンですか？」
14. 総復習
15. 映画鑑賞(フランス語)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

EN SCENE I (三修社)

参考図書

必要場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 1 とフランス語 2 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず 1 科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いついておかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 2			11637	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランスの文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

1. オリエンテーション、教室で使う表現、alphabetの読み方、挨拶
2. 音の規則 1「あなたのお名前は？」「私は〇〇です」「どう綴りますか？」
3. 音の規則 2「お元気ですか？」「どこに住んでいるのですか？」
4. 「ご出身は？」「国籍は？」「ご職業は？」「どのような言語を話しますか？」
5. 自己紹介まとめ、数字、電話番号
6. 否定文「〇〇さんを紹介しします」
7. 疑問文「〇〇で働いているのは誰でしょう？」「この人は誰でしょう？」
8. 動詞 étudier「〇〇さんは何を勉強していますか？」
9. 動詞 aimer, faire「映画が好きですか？」「よくそれをしますか？」
10. 動詞 avoir「これが私の家族です」「兄弟がいますか？」「年齢は？」
11. 家族紹介まとめ
12. 疑問文「〇〇はフランス語でどう言いますか？」「これは何ですか？」
13. 「仕方がない」「カバンに何が入っているのですか？」「これは誰のカバンですか？」
14. 総復習
15. 映画鑑賞(フランス語)

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

EN SCENE I（三修社）

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いついておかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 3			11641	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語1と2で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組みと同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 「今日は何曜日ですか？」「誕生日はいつですか？」「何時ですか？」
3. 「何時に〇〇しますか？」「1日に何時間勉強しますか？」
4. 複合過去「昨日は〇〇をしました」
5. 複合過去「昨日は〇〇へ行きました」
6. 複合過去総復習「今週末〇〇をしましたか？」「〇〇をしたことがありますか？」
7. 既習事項の総復習
8. 近接未来「休暇中、何をしますつもりですか？」
9. 不定詞を使った表現「〇〇では何ができますか？」
10. 「朝、何を食べますか？」「飲み物は何が好きですか？」
11. カフェやレストランで注文をする、映画鑑賞(フランス語)
12. 天気表現「どんな天気ですか？」
13. 天気予報「雨のとき何をしますか？」
14. 場所の表現「〇〇はどこですか？」
15. 「〇〇へ行くにはどうすればいいですか？」

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

EN SCENE I（三修社）

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該科目履修に関しては、フランス語1若しくはフランス語2を履修しているか、それと同様な能力を有することが必要である。また、フランス語3とフランス語4はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキスト付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けることが望ましい。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 4			11645	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 と 2 で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。このクラスではKAISEI パーソナリティのIn (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組むと同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 「今日は何曜日ですか?」「誕生日は何時ですか?」「何時ですか?」
3. 「何時に〇〇しますか?」「一日に何時間〇〇しますか?」
4. 複合過去 「昨日は〇〇しました」
5. 複合過去 「昨日は〇〇へ行きました」
6. 複合過去総復習 「今週末〇〇をしましたか?」「〇〇をしたことがありますか?」
7. 既習事項の総復習
8. 不定詞を使った表現 「休暇中、何をしますつもりですか?」
9. 不定詞を使った表現 「〇〇では何ができますか?」
10. 「朝、何を食べますか?」「飲み物は何が好きですか?」
11. カフェやレストランで注文する、映画鑑賞(フランス語)
12. 天気表現 「どんな天気ですか?」
13. 天気予報 「雨のとき何をしますか?」
14. 場所表現 「〇〇はどこですか?」
15. 「〇〇へ行くにはどうすればいいですか?」

授業の方法

数字、時間の聞き取りと理解、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

常日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

EN SCENE I (三修社)

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該科目履修に関しては、フランス語 1 若しくはフランス語 2 を履修しているか、それと同様な能力を有することが必要である。また、フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。聞き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキスト付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けることが望ましい。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 5			11649	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1～4 で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら同時に文化にも触れ、フランス語やフランスについての理解を深める。このクラスではKAISEI パーソナリティのIn (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に添って授業を進める。日常よく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、数え歌、数字や時間の読みと聞き取りなど、総合的に学習する。希望者には仏検指導(4級及び5級レベル)も行う。

授業計画

1. オリエンテーション「買い物と挨拶」冠詞・名詞の性と数
2. 「友だちを紹介する」主語人称代名詞・前置詞と定冠詞
3. 語彙と基本的な文法事項の確認、発音の基礎
4. 「第三者について話す」動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形
5. 「第三者について話す」否定文
6. 語彙と表現、基本的な文法事項の確認:形容詞の女性形と複数形の作り方、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
7. 「郵便局に行く」第一群規則動詞・指示形容詞
8. 「衣服を褒める」「一緒に昼食を取る」第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞
9. 語彙と基本的な文法事項の確認:疑問詞、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
10. 「タクシーに乗る(どこに行くか、どこから来たか)」不規則動詞の活用・近接未来、近接過去
11. 「タクシーに乗る(時間を尋ねる、どのように行くか)」命令法・序数
12. 基本的な文法事項の確認:前置詞、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
13. 「レストランに行く(誕生日を祝う)」直接目的補語人称代名詞・比較級
14. 「レストランに行く(注文する)」間接目的補語人称代名詞・最上級
15. 映画鑑賞(フランス語)、基本的な文法事項の確認:人称代名詞のまとめ・語順

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

常日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 5 と 6 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業で進行したところを自分で学習する必要がある。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 6			11653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1～4 で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら同時に文化にも触れ、フランス語やフランスについての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn (国際性)を養う。

授業の概要

以下の計画に添って授業を進める。日常生活でよく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、数え歌、数字や時間の読みと聞き取りなど、総合的に学習する。希望者には仏検指導 (4 級及び 5 級レベル) も行う。

授業計画

1. オリエンテーション「買い物と挨拶」冠詞・名詞の性と数
2. 「友だちを紹介する」主語人称代名詞・前置詞と定冠詞
3. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、発音の基礎
4. 「第三者について話す」動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形
5. 「第三者について話す」否定文
6. 語彙と表現、基本的文法事項の確認:形容詞の女性形と複数形の作り方、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
7. 「郵便局に行く」第一群規則動詞・指示形容詞
8. 「衣服を褒める」「一緒に昼食を取る」第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞
9. 語彙と表現、基本的文法事項の確認:疑問詞、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
10. 「タクシーに乗る(どこに行くか、どこから来たか)」不規則動詞・近接未来、近接過去
11. 「タクシーに乗る(時間を尋ねる、どのように行くか)」命令法・序数
12. 語彙と基本的文法事項の確認:前置詞、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
13. 「レストランに行く(誕生日を祝う)」直接目的補語人称代名詞・比較級
14. 「レストランに行く(注文する)」間接目的補語人称代名詞・最上級
15. 映画鑑賞(フランス語)、基本的文法事項の確認:人称代名詞のま

とめ・語順

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をもよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該科目を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 5 と 6 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業で進行したところを自分で学習する必要がある。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 7			11657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れフランスについてより一層の理解を深め、至ってはフランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn (国際性)を養う。

授業の概要

以下の計画に添って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題 (5 級及び 4 級レベル)、数え歌、数字や時間の読み・聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また時間の許す限り、個別にフランス関連の調べ学習をし発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション「インタビューする」代名動詞
2. 「スポーツクラブに登録する」不定法の表現・疑問形容詞
3. 語彙と表現、文法事項の確認:主語 on、指示形容詞 ça、まとめ
4. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
5. 「映画館にて」複合過去 1
6. 「映画の後で」複合過去 2
7. 語彙と表現、文法事項の確認:否定の表現、まとめ
8. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
9. 「家族との会話」半過去・関係代名詞
10. 「メール」受動態・接続詞を使った表現
11. 語彙と表現、文法事項の確認:複合過去と半過去の使い分け、まとめ
12. 「訪問計画」単純未来
13. 映画鑑賞(フランス語)
14. 「家族との夕食」ジェロンドイフ・感嘆文・代名詞 y, en
15. 「招待」「ヴァカンスの終わり」条件法と接続法、まとめ

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

フランス語 5～6 で学習したことを復習しておくこと。また平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をもよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 8			11661	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れフランスについてより一層の理解を深め、至ってはフランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。このクラスでは KAISEI パーソナリティの In (国際性) を養う。

授業の概要

以下の計画に添って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題 (5 級及び 4 級レベル)、数え歌、数字や時間の読み・聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また時間の許す限り、個別にフランス関連の調べ学習をし発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション「インタビューする」代名動詞
2. 「スポーツクラブに登録する」不定法の表現・疑問形容詞
3. 語彙と表現、文法事項の確認: 主語の on・指示形容詞 ça、まとめ
4. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
5. 「映画館にて」複合過去 1
6. 「映画の後で」複合過去 2
7. 語彙と表現、文法事項の確認: 否定の表現、まとめ
8. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
9. 「家族との会話」半過去・関係代名詞
10. 「メール」受動態・接続詞を使った表現
11. 語彙と表現、文法事項の確認: 複合過去と半過去の使い分け、まとめ
12. 「訪問計画」単純未来
13. 映画鑑賞(フランス語)
14. 「家族との夕食」ジェロンディフ・感嘆文・代名詞 y, en
15. 「招待」「ヴァカンスの終わり」条件法と接続法、まとめ

授業の方法

数字や時間、既習のフランス語文の読みと意味理解などの訓練、教員とのフランス語による会話、文法練習問題やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学習

フランス語 5 ～ 6 で学習したことを復習しておくこと、また平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点 50%、定期試験 50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1	①/②		11665	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

国際化社会になり、中国語は益々重要になっているので、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず、発音から始まり、次に重要な語彙の使い方や語順を説明し、さらにこれらを実用的に使えるように多くの短文を読み書きしていく。このクラスでは KAISEI パーソナリティの A(自律) と In(国際性) を養います。

授業の概要

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順をゆっくりに指導し、各単元で習ったことを身につけるために問題練習をさせる。

授業計画

1. 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2. 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音練習)
3. 日常よく使う挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4. 第一課 私は日本人です。(1) 単語、会話と文法の説明
5. 第一課 私は日本人です。(2) 応用会話と練習問題
6. 第二課 これは何ですか。(1) 単語、会話と文法の説明
7. 第二課 これは何ですか。(2) 応用会話と練習問題
8. 第三課 私は今日学校へ行きます。(1) 単語、会話と文法の説明
9. 第三課 私は今日学校へ行きます。(2) 応用会話と練習問題
10. 第四課 お会いできて、嬉しいです。(1) 単語、会話と文法の説明
11. 第四課 お会いできて、嬉しいです。(2) 応用会話と練習問題
12. 第五課 私達の学校は北京の西側にあります。(1) 単語、会話と文法の説明
13. 第五課 私達の学校は北京の西側にあります。(2) 応用会話と練習問題
14. 第六課 今日は昨日より暑いです。(1) 単語、会話と文法の説明
15. 第六課 今日は昨日より暑いです。(2) 応用会話と練習問題

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順と訳の他に、その応用と会話の練習もする。

準備学習

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

課題・評価方法

平常点 30%、定期試験 70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は、発音の仕方に注意を傾け、声を出して練習する。しかし、私語は慎んでほしい。授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴いて、重要な文章・語彙などを暗記するよう心がけてほしい。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2	①/②	11669	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
沈 竑	選択	1			

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 導入・発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 1. あなたは中国人ですか。
6. 1. あなたは中国人ですか。
7. 1. あなたは中国人ですか。
8. 2. これは何ですか。
9. 2. これは何ですか。
10. 2. これは何ですか。
11. 3. あなたはどこに行きますか。
12. 3. あなたはどこに行きますか。

13. 3. あなたはどこに行きますか。
14. 4. このバッグはいくらですか。
15. 4. このバッグはいくらですか。

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学習

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめての一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3		11673	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
坂口 文馨	選択	1			

授業の到達目標

本授業は、「中国語1」において基礎を学んだ者が、実用的な文章の読解力を磨き、それを会話や作文に応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の文の構造や表現の仕方を正しく理解し、できるだけそれを丸暗記した上で、実際に話したり書いたりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

本授業でも、重要な語彙の発音をよく練習したうえで、使い方や語順を説明し、実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中、友達同士や先生との会話の練習ができ、充実した授業を行うことができる。

授業計画

1. 第七課 彼女は二回北京へ行ったことがあります。(1)単語、会話と文法の説明
2. 第七課 彼女は二回北京へ行ったことがあります。(2)応用会話と練習問題
3. 第八課 あなたはごはんを食べましたか。(1)単語、会話と文法の説明
4. 第八課 あなたはごはんを食べましたか。(2)応用会話と練習問題
5. 第九課 私は車の運転ができません。(1)単語、会話と文法の説明
6. 第九課 私は車の運転ができません。(2)応用会話と練習問題
7. 第十課 彼は今会議中です。(1)単語、会話と文法の説明
8. 第十課 彼は今会議中です。(2)応用会話と練習問題
9. 第十一課 あなたはいつ来たのですか。(1)単語、会話と文法の説明
10. 第十一課 あなたはいつ来たのですか。(2)応用会話と練習問題
11. 第十二課 辞書を持ってきてもらいますか。(1)単語、会話と文法の説明
12. 第十二課 辞書を持ってきてもらいますか。(2)応用会話と練習問題
13. 第十三課 先生の言ったことを私は全部聞いて分かりました。
14. 第十四課 あなたは魚を食べるのが好きですか、それとも肉を食べるのが好きですか。

15. 第十五課 中国語でどういいますか。

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順と訳の他に、その応用と会話の練習もする。

準備学習

習った単元の単語と会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

- 1) 常にテープを聴き、文章を読むこと。
- 2) 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみようところがけること。
- 3) 分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 4) 私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4			11677	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

本授業は「中国語2」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 復習・5. あなたは夜用事がありますか。
2. 5. あなたは夜用事がありますか。
3. 5. あなたは夜用事がありますか。
4. 6. あなたは食事をしましたか。
5. 6. あなたは食事をしましたか。
6. 6. あなたは食事をしましたか。
7. 7. あなたの家族は何人ですか。
8. 7. あなたの家族は何人ですか。
9. 7. あなたの家族は何人ですか。
10. 8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
11. 8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
12. 8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
13. 9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。
14. 9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。

15. 9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学習

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語ははじめの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 5			11681	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読み、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにさせる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養います。

授業の概要

授業前に予習してもらい、授業後熟読した上、同じテーマについての自分の実際の状況で会話の文章を書く練習させる。添削された会話を発表してもらい、このように同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聞くことができ、話すこともできる。会話に求められる聞く力と話す力を養う。

授業計画

1. 第一課 発音の復習
2. 第二課 文法の復習(1)
3. 第二課 文法の復習(2)
4. 第三課 自己紹介(1)
5. 第三課 自己紹介(2)
6. 第四課 趣味(1)
7. 第四課 趣味(2)
8. 第五課 私の家(1)
9. 第五課 私の家(2)
10. 第六課 学校へ行く(1)
11. 第六課 学校へ行く(2)
12. 第七課 買い物(1)
13. 第七課 買い物(1)
14. 復習
15. 復習

授業の方法

新出単語の発音を読めるかどうかを確認した後、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるか

どうかを確認し会話を練習する。

準備学習

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 6			11685	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 導入・復習
2. 1. 中国に行こう！
3. 1. 中国に行こう！
4. 1. 中国に行こう！
5. 2. ジャスミン茶を飲もう！
6. 2. ジャスミン茶を飲もう！
7. 2. ジャスミン茶を飲もう！
8. 3. 友だちをつくろう！
9. 3. 友だちをつくろう！
10. 3. 友だちをつくろう！
11. 4. 長城に登ろう！
12. 4. 長城に登ろう！
13. 4. 長城に登ろう！
14. 5. 卓球を楽しもう！

15. 5. 卓球を楽しもう！

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学習

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 7			11689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

自信を持ってもっと読める、書ける、聞ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い、聞いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

内容に基づいてもっと多くの質問をし答えてもらうように、聞くことと話すことの練習をさせる。また、書いた作文を添削してもらった後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をし翻訳の力を養う。

授業計画

1. 第八課 料理を注文する(1)
2. 第八課 料理を注文する(2)
3. 第九課 道を探す(1)
4. 第九課 道を探す(2)
5. 第十課 電話をかける(1)
6. 第十課 電話をかける(2)
7. 第十一課 大学祭(1)
8. 第十一課 大学祭(2)
9. 第十二課 私の夢(1)
10. 第十二課 私の夢(2)
11. 第十三課 早く春休みになれ(1)
12. 第十三課 早く春休みになれ(2)
13. 第十四課 北京にて(1)
14. 第十四課 北京にて(2)
15. 第十五課 復習

授業の方法

新出単語の発音を読めるかどうかを確認した後、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を練習する。

準備学習

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。積極的に授業に参加し、もっともっと聞ける、話せるように努力すること。分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。私語に慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 8			11693	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 復習
2. 6. 漢字を覚えよう！
3. 6. 漢字を覚えよう！
4. 6. 漢字を覚えよう！
5. 7. 街を歩こう！
6. 7. 街を歩こう！
7. 7. 街を歩こう！
8. 8. 中国映画を見よう！
9. 8. 中国映画を見よう！
10. 8. 中国映画を見よう！
11. 9. チャイナドレスを買おう！
12. 9. チャイナドレスを買おう！
13. 9. チャイナドレスを買おう！
14. 10. 中華を食べよう！
15. 10. 中華を食べよう！

授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学習

教科書を予習・復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

現代人間学部 英語キャリア学科
専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語及び英語の音声の特徴を学ぶ／日本語話者の英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

演習Iでは日本語音声を中心に、音についての基本的な事項を実践的に学ぶ。さらにその基本的な知識を基に、さまざまな音声の現象を観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる方法を学ぶ。

授業計画

1. 音声とは何か
2. 音声学とは何か
3. 分節音 1) 単音
4. 分節音 2) 母音
5. 分節音 3) 母音
6. 分節音 4) 子音
7. 分節音 5) 子音
8. 復習
9. 日本語話者の英語を観察する 1)
10. 日本語話者の英語を観察する 2)
11. 日本語話者の英語を観察する 3)
12. 日本語話者の英語を観察する 4)
13. 日本語話者の英語を観察する 5)
14. まとめ 1)
15. まとめ 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学習

発音を客観的に観察する目と耳を準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週（金）までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

鹿島央著、『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』、スリーエーネットワーク。
神崎正哉著、『新TOEIC TEST出る順で学ぶボキャブラリー990』、講談社。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会言語学の演習である。多言語社会に焦点をあて、ダイグロッシア（二言語変種使い分け）、コードスイッチング、ピジンとクレオールなど、多言語社会における言語の選択や言語変異について学ぶ。
毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員でそのテーマについて討論を行う。

授業計画

1. Introduction
2. What do sociolinguists study? (1)
3. What do sociolinguists study? (2)
4. What do sociolinguists study? (3)
5. Code choice, domains of language use
6. Diglossia (1)
7. Diglossia (2)
8. Code-switching or code-mixing (1)
9. Code-switching or code-mixing (2)
10. レポート・論文の書き方
11. Vernacular and standard languages (1)
12. Vernacular and standard languages (2)
13. Lingua Francas
14. Pidgins and creoles (1)
15. Pidgins and creoles (2)

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを中心とする。

準備学習

参考図書の『社会言語学入門』（東照二著）の第2章（6を除く）

に目を通しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Pearson Education ESL)

参考図書

東 照二著『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語及び英語の音声の特徴を学ぶ／日本語話者の英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

演習Ⅱに引き続き、日本語を中心に必要に応じて英語と比較しながら音声を対象とした研究を行う。さらに研究したことについてレポートにまとめる方法を学ぶ。発表や討論を通して自分で考え、それを自分のことばで表現する力を伸ばしてほしい。また卒業論文執筆のためのテーマを探し、文献を収集する方法を学ぶ。

授業計画

1. 課題発表
2. 音節 1)
3. 音節 2)
4. リズム 1)
5. リズム 2)
6. 復習・発表
7. アクセント 1)
8. アクセント 2)
9. アクセント 3)
10. アクセント 4)
11. 学習者の問題点
12. 文献調査 1)
13. 文献調査 2)
14. まとめ 1)
15. まとめ 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学習

普段から日本語話者、英語話者の発音を客観的に観察すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週（金）までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

鹿島央著、『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』、スリーエーネットワーク。
神崎正哉著、『新TOEIC TEST出る順で学ぶボキャブラリー990』、講談社。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語変種やそれらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰでは、多言語社会における言語の選択と言語変異についてみてきたが、演習Ⅱでは、単一言語社会における言語変異に焦点をあてる。地域方言と社会方言、ことばと性差・年齢差、ことばと民族、社会ネットワークなどのテーマを取り上げる。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員で討論を行う。また、演習Ⅱの最後に、各々の研究について発表を行う。

授業計画

1. Introduction
2. National and official languages
3. Regional and social dialects (1)
4. Regional and social dialects (2)
5. Regional and social dialects (3)
6. Regional and social dialects (4)
7. Gender and age (1)
8. Gender and age (2)
9. Gender and age (3)
10. Gender and age (4)
11. Ethnicity and social networks (1)
12. Ethnicity and social networks (2)
13. Ethnicity and social networks (3)
14. Ethnicity and social networks (4)
15. 個人研究発表

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを中心とする。

準備学習

参考図書『社会言語学入門』（東照二著）の第3章に目を通しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

Janet Holmes. *An Introduction to Sociolinguistics*. Fourth edition. (Pearson Education ESL)

参考図書

東 照二著『社会言語学入門（改訂版）—生きて言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ／日本語話者の英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる／各自の卒業論文のテーマに沿った調査を進める
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱに引き続き、日本語音声を中心に、音についての基本的な事項について研究する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる。さらに卒業論文執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集をする。

授業計画

- 比較して考える 1)
- 比較して考える 2)
- 比較して考える 3)
- 日本語話者の英語を観察する 1)
- 日本語話者の英語を観察する 2)
- 日本語話者の英語を観察する 3)
- 日本語話者の英語を観察する 4)
- 日本語話者の英語を観察する 5)
- 復習
- アクセント 1)
- アクセント 2)
- アクセント 3)
- アクセント 4)
- まとめ 1)
- まとめ 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学習

発音を客観的に観察する目と耳を準備しておくこと。日本語話者の英語の特徴について観察しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

- 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 欠席日の提出物は、当該週（金）までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

町田健編、猪塚元・猪塚恵美子著、『日本語音声学のしくみ』、研究社。
TEX加藤、『新TOEIC TEST出る単特急 金のフレーズ』、朝日新聞出版。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会言語学及びその周辺のテーマを扱う。ことばと力や仲間意識との関係、異文化間コミュニケーション、言語政策等について学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、討論を行う。また、演習Ⅲの最後に、各々の卒業研究について発表を行う。

授業計画

- 卒業研究について
- ポライトネス・ストラテジー(1)
- ポライトネス・ストラテジー(2)
- 力と仲間意識(1)
- 力と仲間意識(2)
- セクシスト・ランゲージ(1)
- セクシスト・ランゲージ(2)
- 異文化間コミュニケーション(1)
- 異文化間コミュニケーション(2)
- 異文化間コミュニケーション(3)
- 言語政策(1)
- 言語政策(2)
- 研究発表(1)
- 研究発表(2)
- 研究発表(3)

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを中心とする。

準備学習

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ論文の書き方を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東 照二著『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

参考図書

中尾俊夫他著『社会言語学概論—日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』（くろしお出版）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）
真田信治他著『社会言語学』（おうふう）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）

留意事項

- 平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- 毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習IV	a		13113	IV	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ／日本語音声または英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる／各自の卒業論文のテーマに沿った調査を進める
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

日本語音声を中心に、音についての基本的な事項について研究する。文献その他から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語の特徴について分析・考察をする。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する練習をする。

授業計画

1. 発音の変化 1)
2. 発音の変化 2)
3. 発音の変化 3)
4. 調査と分析 1)
5. 調査と分析 2)
6. 調査と分析 3)
7. 調査と分析 4)
8. 調査と分析 5)
9. 復習 1)
10. 復習 2)
11. 卒業研究に関する発表 1)
12. 卒業研究に関する発表 2)
13. 卒業研究に関する発表 3)
14. まとめ 1)
15. まとめ 2)

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学習

日本語話者の英語について発表する準備をしておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週（金）までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

町田健編、猪塚元・猪塚恵美子著、『日本語音声学のしくみ』、研究社、TEX加藤、『新TOEIC TEST出る単特急 金のフレーズ』、朝日新聞出版。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習IV	b		13113	IV	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する関心を高め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を育てるとともに、学問への探究心を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

演習I～IIIで扱ったテーマを復習し、さらに詳しく学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、討論を行う。演習IVの後半では、各々の卒業研究についての発表を行う。

授業計画

1. 卒業研究について
2. 外来語
3. 若者ことば
4. 男女の会話スタイル
5. ポライトネス・ストラテジー
6. スピーチ・アコモデーション
7. 言語態度
8. 異文化間コミュニケーション
9. 卒業研究について
10. 研究発表 1 (1)
11. 研究発表 1 (2)
12. 研究発表 2 (1)
13. 研究発表 2 (2)
14. 研究発表 3 (1)
15. 研究発表 3 (2)

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを中心とする。

準備学習

演習I～IIIで学んだことをよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東 照二著『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

参考図書

中尾俊夫他著『社会言語学概論—日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』（くろしお出版）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）
真田信治他著『社会言語学』（おうふう）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication I	a	13201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from an elementary level of English and progress towards English at a pre-intermediate level. They will develop a sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Welcome 1. 1
3. Unit 1. 3
4. Unit 1. 4
5. Unit 2: Lifestyle: 2. 1
6. Unit 2. 3
7. Unit 2. 4
8. Review
9. Unit 3: People 3. 1
10. Unit 3. 3
11. Unit 3. 4
12. Unit 4: Places 4. 1
13. Unit 4. 3
14. Unit 4. 4
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication I	b	13201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Jobs and Occupations
3. Countries Around the World
4. Family
5. Feelings
6. Clothes and Colours
7. Food and Drink
8. Review
9. Time
10. Special days and Events
11. Daily Activities
12. Daily Activities
13. Hotels and Restaurants
14. Transport
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Starter, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication I	c	13201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Jobs and Occupations
3. Countries Around the World
4. Family
5. Feelings
6. Clothes and Colours
7. Food and Drink
8. Review
9. Time
10. Special days and Events
11. Daily Activities
12. Daily Activities
13. Hotels and Restaurants
14. Transport
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Starter, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication II	a	13205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7-Holidays
3. Unit 7, cont.
4. Unit 8-The Present
5. Unit 8, cont.
6. Unit 9-Transport
7. Unit 9, cont.
8. Review
9. Unit 10-The Future
10. Unit 10, cont.
11. Unit 11-Health
12. Unit 11, cont.
13. Unit 12-Present Perfect 1
14. Unit 12-Present Perfect 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 1-6) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication II	b	13205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7-Holidays
3. Unit 7, cont.
4. Unit 8-The Present
5. Unit 8, cont.
6. Unit 9-Transport
7. Unit 9, cont.
8. Review
9. Unit 10-The Future
10. Unit 10, cont.
11. Unit 11-Health
12. Unit 11, cont.
13. Unit 12-Present Perfect 1
14. Unit 12-Present Perfect 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 1-6) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication II	c	13205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from a basic level of English and progress towards English at an elementary level. They will deepen their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 5: Routines
3. Unit 5: continued
4. Unit 5: continued
5. Unit 6: Journeys 6
6. Unit 6: continued
7. Unit 6: continued
8. Review
9. Unit 7: Past:
10. Unit 7: continued
11. Unit 7: continued
12. Unit 8: Places
13. Unit 8: continued
14. Unit 8: continued
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and small groups.

準備学習

Review the material you learned from Oral Communication I.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Starter, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

haward@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing I	a	13210	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1:How did you get your name?
3. Unit 1:continued
4. Unit 2:What is a good job?
5. Unit 2:continued
6. Unit 3:Why do people immigrate to other countries?
7. Unit 3:continued
8. Review
9. Unit 4:What are the benefits of positive thinking?
10. Unit 4:continued
11. Unit 5:Why is vacation important?
12. Unit 5:continued
13. The Topic Sentence
14. Effective letter writing
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing I	b/c	13210	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/千葉 奈乙江	必修	1			

授業の到達目標

At the end of this course it is expected that the students will be able to write coherent sentences and paragraphs and will have developed their competencies in the various reading styles.They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1:People
3. Unit 1:continued
4. Unit 1: Continued
5. Unit 2:Friendship
6. Unit 2: continued
7. Unit 2:continued
8. Review
9. Unit 3:Education
10. Unit 3:continued
11. Unit 3:continued
12. Unit 4:Food
13. Unit 4: continued
14. Unit 4: continued
15. Review

授業の方法

Students will do individual, pair, and group work activities provided by the course textbook.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing Intro, Bixby and McVeigh, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing II	a		13214	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	必修	1				

授業の到達目標

At the end of this course it is expected that the students will have further developed their abilities to write coherent sentences and paragraphs and in using the various reading styles. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to continue to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6: Who makes you laugh?
3. Unit 6:continued
4. Unit 7: How does music make you feel?
5. Unit 7:continued
6. Effective paragraph writing 1
7. Effective paragraph writing 2
8. Review
9. Unit 8: Is it ever OK to lie?
10. Unit 8:continued
11. Unit 9: How are children and adults different?
12. Unit 9:continued
13. Unit 10: What are you afraid of?
14. Unit 10:continued
15. Review

授業の方法

Students will work in pairs and groups as well as individually.

準備学習

Familiarize yourself with Units 1 to 5, before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing II	b/c		13214	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL/千葉 奈乙江	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this class is to continue to develop students abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6: Who makes you laugh?
3. Unit 6:continued
4. Unit 7: How does music make you feel?
5. Unit 7:continued
6. Effective paragraph writing 1
7. Effective paragraph writing 2
8. Review
9. Unit 8: Is it ever OK to lie?
10. Unit 8:continued
11. Unit 9: How are children and adults different?
12. Unit 9:continued
13. Unit 10: What are you afraid of?
14. Unit 10:continued
15. Review

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook, especially Units 1 to 5, before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q:Skills for Success Reading and Writing Introduction, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar I	a/b/c	13225	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子／服部 幸正／平野 真理子	必修	1			

授業の到達目標

英語の話し方や書き方の一般的なまきを学ぶことにより、自分の考え等を正確かつ適切な英語で表現するとともに、話し手や書き手の意向等を的確に把握することができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語のコミュニケーション能力を向上させるには、文法規則の習得が不可欠である。授業ではまず、英語の基礎をしっかりと固めるために、中学校・高等学校で習った文法事項を一から復習する。次に、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを学ぶ。

授業計画

1. Section 1 be動詞とhave
2. Section 1 be動詞とhave
3. Section 2 現在時制
4. Section 2 現在時制
5. Section 3 未来を表す表現
6. Section 3 未来を表す表現
7. Section 4 過去時制
8. Section 4 過去時制
9. Section 5 完了形
10. Section 5 完了形
11. Section 5 完了形
12. Section 5 完了形
13. Section 6 助動詞
14. Section 6 助動詞
15. Section 6 助動詞

授業の方法

文法事項の解説と練習問題の解答を中心とするが、コミュニケーション活動も多く取り入れる。

準備学習

中学校・高等学校で習った文法事項をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートA：動詞と時制（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度、及びTOEICの評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習用教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp（小野）、hirano@kaisei.ac.jp（平野）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar II	a/b/c	13229	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
服部 幸正／平野 真理子／小野 礼子	必修	1			

授業の到達目標

英語の話し方や書き方の一般的なまきを学ぶことにより、自分の考え等を正確かつ適切な英語で表現するとともに、話し手や書き手の意向等を的確に把握することができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語のコミュニケーション能力を向上させるには、文法規則の習得が不可欠である。授業ではまず、英語の基礎をしっかりと固めるために、中学校・高等学校で習った文法事項を一から復習する。次に、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを学ぶ。

授業計画

1. パートA Section 7 受動態
2. パートA Section 7 受動態
3. パートA Section 8 疑問文と否定文
4. パートA Section 8 疑問文と否定文
5. パートA Section 9 不定詞と-ing形
6. パートA Section 9 不定詞と-ing形
7. パートA Section 10 動詞を用いた様々な表現
8. パートA Section 10 動詞を用いた様々な表現
9. パートB Section 1 冠詞
10. パートB Section 1 冠詞
11. パートB Section 2 限定詞
12. パートB Section 2 限定詞
13. パートB Section 2 限定詞
14. パートB Section 3 人称代名詞
15. パートB Section 4 名詞

準備学習

Grammar Iの復習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートA：動詞と時制（旺文社）
- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度、及びTOEICの評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習用教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp（小野）、hirano@kaisei.ac.jp（平野）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation I	a/b	13233	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子/L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

Study the aspects of English rhythm—word stress, sentence stress, and sentence focus—and learn how to pronounce the sounds of English more clearly.

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養います。

授業の概要

This course will help the students learn how to pronounce the sounds of English more clearly so they can be understood and will also help them understand what other people say to them in English. In order to achieve the goal, the students will listen to the classmates as well as the material and the instructor's English and practice saying simple sentences with the right rhythm and melody. The students will also learn ways to guess the pronunciation of a written word. All of this will help them to communicate more easily and more clearly in English.

授業計画

1. Introduction
2. Syllables
3. Vowels and Word Stress 1)
4. Vowels and Word Stress 2)
5. Vowels and Word Stress 3)
6. Vowels and Word Stress 4)
7. Sentence Stress 1)
8. Sentence Stress 2)
9. Review
10. Sentence Focus 1)
11. Sentence Focus 2)
12. Sentence Focus 3)
13. Sentence Focus 4)
14. Summary 1)
15. Summary 2)

授業の方法

Mainly practical listening and speaking exercises

準備学習

Be ready to look up the words in the dictionary whenever necessary.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 1) As continual efforts are essential, four points are subtracted per absence.
- 2) When you are absent, it is your responsibility to check whether there is any assignment given.

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, CUP.

留意事項

You need to repeatedly listen to and read out the materials in order to improve your English. Do not be shy.

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp
howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation II	a/b	13237	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/石原 敬子	必修	1			

授業の到達目標

Study the aspects of English consonants and other features of English sounds for better communication

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養います。

授業の概要

This course will help the students learn how to pronounce the sounds of English more clearly so they can be understood and will also help them understand what other people say to them in English. In order to achieve the goal, the students will listen to the classmates as well as the material and the instructor's English and practice saying simple sentences with the right rhythm and melody. The students will also learn ways to guess the pronunciation of a written word. All of this will help them to communicate more easily and more clearly in English.

授業計画

1. Review from Pronunciation I
2. Consonants 1)
3. Consonants 2)
4. Consonants 3)
5. Consonants 4)
6. Consonants 5)
7. Review
8. Preparation for the English Festival 1)
9. Thought Groups 1)
10. Thought Groups 2)
11. Intonation 1)
12. Intonation 2), Prep. for the English Festival 2)
13. Intonation 3), Prep. for the English Festival 3)
14. Summary 1), Prep. for the English Festival 4)
15. Summary 2), Prep. for the English Festival 5)

準備学習

Be ready to look up the words in the dictionary whenever necessary.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 1) As continual efforts are essential, four points are subtracted per absence.
- 2) When you are absent, it is your responsibility to check whether there is any assignment given.

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension*, CUP.

留意事項

You need to repeatedly listen to and read out the materials in order to improve your English. Do not be shy.

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp
howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication III	a	13241	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs and small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication III	b	13241	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable the students to move from starter and progress towards English at a high-beginner level. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Welcome:
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 2: Lifestyle 2
6. Unit 2: continued
7. Unit 2: continued
8. Review
9. Unit 3: People 3
10. Unit 3: continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 4: Places 4
13. Unit 4: continued
14. Unit 4: continued
15. Review

授業の方法

Students will communicate in English through pair and group work.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication IV	a	13245	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable the students to move from high-beginner and progress towards English at a pre-intermediate level. They will also have developed their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Changes
3. Unit 7: continued
4. Unit 7: continued
5. Unit 8: Money
6. Unit 8: continued
7. Unit 8: continued
8. Review
9. Unit 9: Nature 9
10. Unit 9: continued
11. Unit 9: continued
12. Unit 10: Society 10
13. Unit 10: continued
14. Unit 10: continued
15. Review

授業の方法

Students will communicate in English through pair and group work.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication IV	b	13245	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Holidays
3. Unit 7: continued
4. Unit 8: Present Tenses
5. Unit 8: continued
6. Unit 9: Transport
7. Unit 9: continued
8. Review
9. Unit 10: Future Forms 1
10. Unit 10: Future Forms 2
11. Unit 11: Health
12. Unit 11: continued
13. Unit 12: Present Perfect 1
14. Unit 12: Present Perfect 2
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing III	a		13250	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	必修	2				

授業の到達目標

日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writing のみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. The Beauty of the Seasons
3. Continued
4. The Importance of English
5. Continued
6. How the Internet Evolved
7. Continued
8. Travel in Japan
9. Continued
10. The Secret of Happiness
11. Continued
12. Secondhand Smoke
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学習

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency*: Nan'un-do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing III	b/c		13250	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L/Shawn M. HOWARD / Angus HALL	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The purpose of this course is for students to move from a beginning proficiency level of reading/writing to a pre-intermediate level.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Names
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 2: Work
6. Unit 2: continued
7. Unit 2: continued
8. Review
9. Unit 3: Long Distance
10. Unit3:continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 4: Positive Thinking
13. Unit 4: continued
14. Unit 4:continued
15. Review

授業の方法

Students will engage in individual, pair, and group activities provided by the textbook.

準備学習

Students should review the material they learned in Reading/Writing II.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 1, Lynn, Oxford

教員連絡先

angushall@hotmail.com

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/WritingIV	a	13254	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	必修	2			

授業の到達目標

Reading/WritingIIIで学んだ英語力をさらに磨く。日本および国際的なテーマの英文を Critical Thinking の観点から読み、それらを要約したり、また内容に基づいて自分の意見が発表できるような実践的英語能力の習得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性、国際性)を学ぶ。

授業の概要

英語学習を単に語学学習にとどめず、発信型英語能力を養うために、Reading/Writing のみならず、Culture, Critical Thinking の観点から、現代における世界の文化の諸相を読み解き、同時に Debate, Presentation を通して各自の意見交換を行う。

授業計画

1. Introduction
2. What Colors Tell about You
3. Continued
4. Free Music
5. Continued
6. Fast Food and Health
7. Continued
8. The Dangers of Credit Cards
9. Continued
10. Old Media and New Media
11. Continued
12. Women in College
13. Continued
14. Review
15. Conclusion

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学習

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Takashi Shimaoka et al., *Life Topics: A Critical-Thinking Approach to English Proficiency Nan'un-do*

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/WritingIV	b/c	13254	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L/Shawn M. HOWARD / Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to read a variety of texts for different kinds of information and will be able to write effective prose about a variety of different topics.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Reading 1
3. Unit 1: Reading 2
4. Unit 1: Writing
5. Unit 2: Reading 1
6. Unit 2: Reading 2
7. Unit 2: Writing
8. Review
9. Unit 3: Reading 1
10. Unit 3: Reading 2
11. Unit 3: Writing
12. Unit 4: Reading 1
13. Unit 4: Reading 2
14. Unit 4: Writing
15. Review

授業の方法

Students will read and write about a variety of different topics.

準備学習

Familiarize yourself with the material before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success: Reading and Writing 2, Bixby and McVeigh

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp
angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar III	a/b	13265	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／惣谷 美智子	必修	2			

授業の到達目標

実際のコミュニケーションにおいて、文法の知識を有効に用いて自分の考え等を正確かつ適切に表現するとともに、話し手や書き手の意向等を正しく理解することができるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性、国際性）を養う。

授業の概要

中学校・高等学校で習った文法事項を復習する。また、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを解説と練習を通して学ぶ。

授業計画

1. Section 5 形容詞と副詞
2. Section 5 形容詞と副詞
3. Section 5 形容詞と副詞
4. Section 6 接続詞
5. Section 6 接続詞
6. Section 7 ifを使った文、仮定法
7. Section 7 ifを使った文、仮定法
8. Section 8 関係代名詞
9. Section 8 関係代名詞
10. Section 8 関係代名詞
11. Section 9 話法
12. Section 9 話法
13. Section 10 前置詞
14. Section 10 前置詞
15. Section 11 話し言葉の文法

授業の方法

講義の他に発表を多く取り入れる。

準備学習

中学校・高等学校で習った文法事項をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp（惣谷）、hirano@kaisei.ac.jp（平野）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation III	a/b	13269	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子／L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

Practice and learn the aspects of English consonants and other features of English sounds for better communication
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養います。

授業の概要

This course will help the students learn how to pronounce the sounds of English more clearly so they can be understood and will also help them understand what other people say to them in English. The main focus will be put on the consonants and the melody of English; stress, rhythm and intonation. In order to achieve the goal, the students will repeatedly listen to the classmates, material and the instructor's English and practice reading sentences. All of this will help them to communicate more easily and more clearly in English.

授業計画

1. Review and Introduction
2. Consonants 1)
3. Consonants 2)
4. Consonants 3)
5. Consonants 4)
6. Consonants 5)
7. Review
8. Thought Groups 1)
9. Thought Groups 2)
10. Project 1)
11. Project 2)
12. Project 3)
13. Project 4)
14. Summary 1)
15. Summary 2)

授業の方法

Mainly practical listening and speaking practice

準備学習

Understanding the basic aspects of the sounds of English

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) As continual efforts are essential, four points are subtracted per absence. 2) When you are absent, it is your responsibility to check whether there is any assignment given.

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech*, CUP.

留意事項

You need to repeatedly listen to and read out the materials in order to improve your English. Do not be shy.

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp
howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語 I	a/b	13270	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子／平野 真理子	必修	1			

授業の到達目標

世界各地の観光地について、英文で読み進める。観光スポットの名称や歴史的背景だけではなく、観光に関する語彙や慣用表現も確実に習得することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要

世界各地の観光地の場所や歴史的背景を学習しながら、英語でキーワードが書けるように毎回小テストを実施する。また現地の人とのインタビューを通じ、各国の英語(World Englishes)事情を知り、その特徴について学習しながら文化的、言語的に理解を深めてゆく。並行して観光英検3級の対策も行う。

授業計画

1. Chapter 1 INDIA
2. Chapter 2 PHILIPPINES
3. Chapter 3 THAILAND
4. Chapter 4 VIETNAM
5. Chapter 5 KOREA
6. Chapter 6 FRANCE
7. Chapter 7 ITALY
8. Chapter 8 DENMARK
9. Chapter 9 PORTUGAL
10. Chapter 10 TURKEY
11. Chapter 11 EGYPT
12. Chapter 12 SOUTH AFRICA
13. Chapter 13 BRAZIL

14. Chapter 14 PERU
15. Chapter 15 GUATEMALA

準備学習

毎回必ず指示された箇所の予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする

テキスト

World Adventures, KINSEIDO
第24回・25回観光英語検定試験解説書

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語 II	a/b	13271	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／入江 和子	必修	1			

授業の到達目標

観光分野に必要な知識と言える各地の世界遺産について、英文で読み進める。各地の名称や歴史的背景だけではなく、観光に関する語彙や慣用表現も確実に習得することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストを読み進めながら、各地の世界遺産に関して学ぶ。DVDを通じて実際の世界遺産を目にすることでより理解が深まり、興味が増すと言える。毎回の授業では、読む、聞く、話す、書く、の4技能の習得を目指す。

授業計画

1. introduction
2. UNIT 1 Statue of Liberty, USA
3. UNIT 2 Forbidden City, China
4. UNIT 3 Bath, England
5. UNIT 4 Canadian Rockies, Canada
6. UNIT 5 The Pyramids, Egypt
7. UNIT 6 Ayutthaya, Thailand
8. UNIT 7 Edinburgh Castle, Scotland
9. UNIT 8 Machu Picchu, Peru
10. UNIT 9 Taj Mahal, India
11. UNIT 10 Te Wahipounamu, New Zealand
12. UNIT 11 Shirakawa-go, Japan
13. UNIT 12 Cappadocia, Turkey
14. UNIT 13 Blue Mountains, Australia

15. UNIT 14 Persepolis, Iran

授業の方法

毎回の授業では、テキストに沿って一章ずつ進めてゆく。

準備学習

毎回必ず指示された箇所の予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする

テキスト

World Heritage on DVD, NAN'UN-DO

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp (平野)

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石丸 脩子	必修	2				

授業の到達目標

ホスピタリティは「もてなし」「気配り」「歓待」という言葉で説明される。それは人間精神にかかわるもので、単なるマナーや知識、技能ではなく、人に幸せを与えるもので、その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするという人間愛が基本にある。このクラスではkAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を目指します。

授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の意味、語源とそのキリスト教の起源について学ぶ。次にこの概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きる私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、茶道という局面から学ぶ。最後に現代のホスピタリティ産業の代表であるディズニーランドにおけるホスピタリティの実践を検討する。

授業計画

- 1.ホスピタリティの多様な意味
- 2.ホスピタリティの語源と聖書における起源
- 3.聖書に見られるホスピタリティ精神
- 4.古代西洋、キリスト教、イスラム教のホスピタリティ文化
- 5.古代東洋のホスピタリティ文化—儒教とヒンドゥー教
- 6.私はホスピタリティをどのように生きるか
- 7.日常生活におけるホスピタリティ—親と子の関係
- 8.「おくりびと」に見るホスピタリティ
- 9.日本のホスピタリティ文化 「もてなし」の語源
- 10.日本のホスピタリティ文化 茶道
- 11.日本のホスピタリティ文化 もてなし文化の歴史
- 12.日本の慣習とホスピタリティ 慶事におけるホスピタリティ
- 13.日本の慣習とホスピタリティ 葬儀および祭りにおけるホスピタリティ
- 14.ディズニーランドにおけるホスピタリティ
- 15.ホスピタリティ精神論のまとめ

授業の方法

講義形式と授業中に小グループで話し合うなど、作業を行う。DVDも2回見る。

準備学習

旧約聖書の創世記18章を読んでくる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の通常欠席につき、5点減点する。

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考図書

ヘンリ・J. M. ナウウェン『差し伸べられる手』（女子パウロ会、2006年）
服部勝人『ホスピタリティ学のすすめ』（丸善株式会社、2008年）
壺江隆『ホスピタリティと観光産業』（文理閣、2008年）

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）とを養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

- 1.落語（前座の役割「寿限無」「芝浜」）
- 2.落語（児童文学としての落語・桂枝雀「くっしやみ講釈」「まんじゅうこわい」）
- 3.落語（海外へ：英語落語の可能性・桂枝雀「鷺取り」）
- 4.歌舞伎（江戸荒事 市川団十郎の「勸進帳」）
- 5.歌舞伎（現代歌舞伎：野田秀樹による新しい脚本 市川染五郎・中村勘九郎の「研辰の討たれ」）
- 6.歌舞伎（日本作品を海外へ：和事歌舞伎の新演出 故中村勘九郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演）
- 7.歌舞伎（海外作品を日本へ：NINAGAWA歌舞伎シェイクスピア「十二夜」）
- 8.文楽（大阪と文楽）
- 9.文楽（鑑賞教室の予習）
- 10.文楽（鑑賞教室「日高川入相花王（ひだかがわいりあいざくら）」「絵本太功記」）
- 11.文楽（人形浄瑠璃における太夫、語り）の役割：芸芸員に聞く）
- 12.能楽（狂言：野村萬斎「附子」）
- 13.能楽（大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言 東と西の芸風の違いをみる 「樺縛」「未広がり」）
- 14.能楽（能：清明「陰陽師」と丑の刻詣り）
- 15.能楽（能：シテ方・ワキ方・狂言方「鉄輪」）

授業の方法

講義が中心となるが、その他に劇場で実際に古典芸能を鑑賞する。

また、現役の演者の方との対話形式の講義も行う。

準備学習

歴史において、それぞれがどの時代にどのように発展したかを確認しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

6月8日（土曜日）の国立文楽劇場での文楽鑑賞教室への参加は絶対条件である。（指定日に参加できないときは、別日に個人で鑑賞することになる。）

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

6月8日（土曜日）の国立文楽劇場（大阪市中央区日本橋）へ文楽鑑賞に行く。（14時開演予定。約2時間半。全員参加。）

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

日本語から英語、あるいは英語から日本語への翻訳・通訳のプロセスを通して、2言語間に特徴的な表現や発想を具体的に比較、対照しながら、翻訳・通訳の理論と実践を学ぶ。授業では、単なる語彙の置き換えではなく、多文化間コミュニケーションとしての翻訳・通訳の理論と実践的スキルの練磨を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要

翻訳論では、翻訳はクリエイティブな作業であるという認識のもと、従来の「英文和訳」と「翻訳」の違い、また翻訳する場合、必要になる発想の転換のしかたを具体的に学ぶ。講義の実践として授業計画に沿ってさまざまな課題の演習を行う。

授業計画

1. introduction
2. Lesson 1&2
3. Lesson 3
4. Lesson 4
5. Lesson 5
6. Lesson 6
7. Lesson 7
8. Lesson 8
9. Lesson 9
10. Lesson 10
11. Lesson 11
12. Lesson 12
13. Lesson 13
14. Lesson 14
15. Lesson 15

授業の方法

毎回の授業では、各章のテーマに沿って学生一人一人の意見を聞きながら進めてゆく。解答は一つではないため、しっかりと考えてもらうことに重点が置かれる。

準備学習

授業で、次回までの課題を指示するので、必ず準備学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性をもった授業であるので、必ず毎回出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

The Art of Translation, Nan'un-do

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に指示する。

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Small Group Communication			13305	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	2				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to become communicative in discussing a range of issues at an intermediate level of English, and to develop students'sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to engage with a variety of issues and work in small groups to respond to various points of view and communicate their own opinions coherently.

授業計画

1. First Impressions
2. Traffic Jam
3. Who Needs the Local Language?
4. Getting Ahead
5. Forever Single
6. What Are Friends For?
7. What's For Dinner?
8. Cyber Bullying
9. Taking Care of Father
10. Why Go to School?
11. An International Relationship
12. Too Little, Too Late
13. Ben and Mike
14. Government Control
15. Living Together

授業の方法

Students will discuss textbook topics in weekly discussion groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before beginning the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Impact Issues 2 (New Edition), Day/Shauls/Yamanaka, Pearson/Longman

参考図書

To be announced as and when required

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 1	a	13309	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from pre-intermediate and progress towards English at an intermediate level. Students will also develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Identity 1
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 1: continued
6. Unit 2: Tales 2
7. Unit 2: continued
8. Unit 2: continued
9. Unit 3: Contact 3
10. Unit 3: continued
11. Unit 3: continued
12. Unit 3: continued
13. Unit 4: Jobs 4
14. Unit 4: continued
15. Unit 4: continued

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 1	b	13309	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 2	a	13313	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Identity
3. Identity
4. Giving Advice
5. Tales
6. Tales
7. Contact
8. Review
9. Contact
10. Jobs
11. Jobs
12. Solutions
13. Solutions
14. Words related to Questions, Adjectives
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 2	b	13313	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to continue to hone their skills at the pre-intermediate level. They will also continue to develop a sense of Internationality.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Unit 6: Fitness
2. Unit 6: continued
3. Unit 6: continued
4. Unit 7: Changes 7
5. Unit 7: continued
6. Unit 7: continued
7. Unit 8: Money: 8
8. Unit 8: continued
9. Unit 8: continued
10. Unit 9: Nature 9
11. Unit 9: continued
12. Unit 9: continued
13. Unit 10: Society: 10
14. Unit 10: continued
15. Unit 10: continued

授業の方法

Students will complete textbook activities through pair and group work.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 1	a		13317	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	必修	2				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is for students to be able to comprehend English texts at an intermediate reading level. Students will develop a sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to be able to skim and scan for specific information, identify the main idea of a text, and discuss topics pertaining to the text. They will hone their skills through interaction with articles about various topics.

授業計画

- Chapter 1 Reality TV Part 1
- Chapter 1: Part 2
- Chapter 2: Violence in Sports Part 1
- Chapter 2: Part 2
- Chapter 3: Advertising: Part 1
- Chapter 3: Part 2
- CNN Video Activities
- Review
- Chapter 4: Fashion:Part 1
- Chapter 4: Part 2
- Chapter 5: Work: Part 1
- Chapter 5: Part 2
- Chapter 6: Internet Dating: Part 1
- Chapter 6: Part 2
- Review

授業の方法

Students will participate in individual, pair, and group activities.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before

taking the course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than 1/3 of the class without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Hot Topics 2, Pavlik, Heinle Cengage Learning

参考図書

To be announced as and when required

留意事項

Active participation in this class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 1	b		13317	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Maidhc Ó CATHAIL	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to understand English texts at an intermediate level. They will be able to skim and scan for specific information, identify the main idea of a text, and discuss topics pertaining to the text. They will hone their skills through interaction with articles about various topics.

授業計画

- Introduction
- Chapter1 Pampered Pets Part1
- Chapter1 Part2
- Chapter2 Silly Sports Part1
- Chapter2 Part2
- Chapter3 Modern Marriage Part1
- Chapter3 Part2
- Midterm Review
- Chapter4 Shopping Part1
- Chapter4 Part2
- Chapter5 Las Vegas Part1
- Chapter5 Part2
- Chapter6 Shoplifting Part1
- Chapter6 Part2
- Review for Final Exam

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than 1/3 of the class without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Hot Topics1,Pavlik, Cengage Learning

参考図書

To be announced as and when required

留意事項

Active participation in this class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 2	a		13321	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Maidhc Ó CATHAIL	必修	2				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is for students to be able to comprehend English texts at an intermediate reading level. Students will continue to develop a sense of Internationality.

授業の概要

Students will be able to be able to skim and scan for specific information, identify the main idea of a text, and discuss topics pertaining to the text. They will hone their skills through interaction with articles about various topics.

授業計画

1. Introduction
2. Chapter 7 Anger Part 1
3. Chapter 7 Part 2
4. Chapter 8 Physics Part 1
5. Chapter 8 Part 2
6. Chapter 9 Beauty Part 1
7. Chapter 9 Part 2
8. Chapter 10 Lying Part 1
9. Chapter 10 Part 2
10. Chapter 11 Intelligence Part 1
11. Chapter 11 Part 2
12. Chapter 12 Graffiti Part 1
13. Chapter 12 Part 2
14. Chapter 13 Child Labor Part 1
15. Chapter 13 Part 2

授業の方法

Students will read articles about various topics and discuss them.

準備学習

Review the material covered in Chapters 1 through 6 before taking this course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than 1/3 of the class without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Hot Topics 2, Pavlik, Heinle Cengage Learning

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in this class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 2	b		13321	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	必修	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to read a variety of texts and discuss the topics related to those texts. They will continue to develop a sense of Internationality as well.

授業の概要

Students will be able to discuss a variety of topics related to written texts and they will be able to read texts for main ideas and details.

授業計画

1. Chapter 7: Gluttony Part 1
2. Chapter 7: Part 2
3. Chapter 8: Get-Rich-Quick Scams: Part 1
4. Chapter 8: Part 2
5. Chapter 9: Sports Doping: Part 1
6. Chapter 9: Part 2
7. Chapter 10: White-Collar Crime: Part 1
8. Chapter 10: Part 2
9. Chapter 11: The Homeless: Part 1
10. Chapter 11: Part 2
11. Chapter 12: Beauty Contests: Part 1
12. Chapter 12: Part 2
13. Chapter 13: Drug Trends: Part 1
14. Chapter 13: Part 2
15. Review

授業の方法

Students will read and discuss controversial topics pertaining to

the textbook.

準備学習

Review the material from chapters 1 to 6 in the textbook before beginning this course.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Hot Topics 1, Pavlik, Heinle Cengage Learning

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 1	a	13325	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

Upon completion of the course, students will have an understanding of a typical academic process writing course taught in most American universities. They will also develop a sense of Internationality.

授業の概要

The objective of this course is to introduce students to a typical writing process taught in most American universities. Students will familiarize themselves with the academic writing process and produce several types of academic writing.

授業計画

1. Unit 1: Introduction to Paragraphs
2. Unit 1: continued
3. Unit 1: continued
4. Unit 1: continued
5. Unit 1: continued
6. Original Student Writing
7. Timed Writing
8. Review
9. Unit 2: Five Elements of Good Writing
10. Unit 2: continued
11. Unit 2: Continued
12. Unit 2: Continued
13. Unit 3: Types of Paragraphs
14. Unit 3: Comparison Paragraphs
15. Review for final exam

授業の方法

Students will analyze model paragraphs and write original paragraphs using the models as guides.

準備学習

Familiarize yourself with the first two chapters of the textbook.

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays, Folse, Solomon, and Clabeaux, Heinle Cengage Learning

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course is taught entirely in English.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 1	b	13325	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The objective of this course is to introduce students to a typical writing process taught in most American universities. Students will familiarize themselves with the academic writing process and produce several types of academic writing.

授業計画

1. Chapter 3 A Favorite Place
2. Chapter 3 continued
3. Chapter 4 An Exceptional Person
4. Chapter 4 continued
5. Chapter 5 Trends and Fads
6. Chapter 5 continued
7. Chapter 6 White Lies
8. Chapter 6 continued
9. Chapter 7 Explanations and Excuses
10. Chapter 7 continued
11. Chapter 8 Problems
12. Chapter 8 continued
13. Chapter 9 Strange Stories
14. Chapter 9 continued
15. Review for final exam

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学習

Review the first two chapters of the textbook.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Writing Essays: From Paragraph to Essay by Dorothy E. Zemach and Lisa A. Ghulldu, Macmillan

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course is taught entirely in English.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 2	a	13329	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The objective of this course is to initially review the structure of paragraphs before studying descriptive, compare-contrast, cause-effect, classification, and argument essays.

授業計画

1. Cause-effect Paragraphs
2. Cause-Effect Essay
3. Cause-Effect Essay
4. Cause-Effect Essay
5. Cause-Effect Essay
6. Classification Paragraphs
7. Classification Essay
8. Classification Essay
9. Classification Essay
10. Classification Essay
11. Argument Paragraphs
12. Argument Essay
13. Argument Essay
14. Argument Essay
15. Argument Essay

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学習

Review the material covered in Academic Writing 1

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays, Folse/Solomon/Clabeaux, Heinle Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 2	b	13329	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

At the end of this course, it is expected that students will be able to write short essays at intermediate level.They will continue to develop a sense of Internationality.

授業の概要

The objective of this course is to initially review the structure of paragraphs before studying descriptive, compare-contrast, cause-effect, classification, and argument essays.

授業計画

1. Unit 8: The Structure of an Essay
2. Unit 8: continued
3. Unit 8: continued
4. Unit 9: Outlining an Essay
5. Unit 9: continued
6. Unit 9: continued
7. Unit 10: Introductions and Conclusions
8. Unit 10: continued
9. Unit 10: continued
10. Unit 11: Unity and Coherence
11. Unit 11: continued
12. Unit 11: continued
13. Unit 12: Essays for Examinations
14. Unit 12: continued
15. Unit 12: continued

授業の方法

Students will do group, pair, and individual work to produce effective essays.

準備学習

Review the material covered in Academic Writing 1

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Writing Essays: From Paragraph to Essay Zemach and Ghulldu, Macmillan

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

howard@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Public Speaking and Oral Interpretation			13333	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Through classroom activities in which students actively use their language skills, especially listening and speaking, students will learn how to give a speech in English. Students will also practice critical thinking skills, share information, and explore speech techniques.

授業計画

1. The Three Messages in Speech and The Physical Message
2. Informative Speech Presentations
3. Gestures and Layout Speech
4. Layout Speech Presentation and Voice Inflection
5. Voice Inflection and Demonstration Speech
6. The Story Message
7. The Introduction
8. The Body
9. The Body continued
10. The Body
11. The Conclusion
12. The Conclusion continued
13. The Visual Message
14. The Visual Message continued
15. Review for final presentation

授業の方法

Students will be working individually and making presentations to small groups.

準備学習

There are no prerequisites for this course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan

留意事項

This course will be taught entirely in English.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 3	a/b		13337	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL/Maidhc Ó CATHAIL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The goal of the course is to continue teaching reading skills and general English usage by reading the New York Times #1 bestseller "young adult level" book, Three Cups of Tea. This text has been taught in many American junior high school English classes as well as in adult English language programs designed to prepare international students for study in American colleges and universities. By listening to the accompanying CD while reading the book, students will be able to improve reading and listening skills at the same time.

授業計画

1. Introduction
2. Discuss Chapters 1 & 2
3. Discuss Chapters 3 & 4
4. Discuss Chapters 5 & 6
5. Discuss Chapters 7 & 8
6. Discuss Chapters 9 & 10
7. Review
8. Midterm Exam
9. Discuss Chapters 11 & 12
10. Discuss Chapters 13 & 14
11. Discuss Chapters 15 & 16
12. Discuss Chapters 17 & 18
13. Discuss Chapters 19 & 20
14. Discuss Chapters 21 & 22
15. Prepare for Final Exam

授業の方法

Students will be working individually and in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

(Young Adult Version) Three Cups of Tea: One Man's Journey to Change the World, One Child At A Time By Greg Mortenson & David Oliver Relin; Adapted By Sarah Thomson

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 3	a/b	13341	IV	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Maidhc Ó CATHAIL/Angus HALL	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The objective of this course is to further develop students' abilities in the academic writing process. Students will produce several types of academic writing, including comparison and cause and effect essays.

授業計画

1. Introduction: Unit 1 Exploring the Essay 1
2. Unit 1: Exploring the Essay 2
3. Unit 1: The Five-Paragraph Essay
4. Writing Comparison Essays 1
5. Writing Cause and Effect Essays 1
6. Writing Argumentative Essays
7. Writing the Introduction
8. Writing the Main Body and Conclusion of an Essay
9. Review
10. Unit 2: Narrative Essays 1: Introduction
11. Unit 2: Narrative Essays 2
12. Unit 3: Comparison Essays 2
13. Unit 3: Comparison Essays 3: Development
14. Unit 4: Cause-Effect Essays 2:
15. Unit 4: Cause-Effect Essays 3: Development

授業の方法

Students will mostly be working individually and in pairs.

準備学習

Review the first chapter of the text book.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Great Writing 4 Great Essays: Folse, Muchmore-Vokoun, Solomon, Heinle Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

This course is taught entirely in English.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Debating and Persuasion	a/b	13345	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Autonomy.

授業の概要

The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyse these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Conspiracy Theories
3. Do We Need Royals?
4. Bad Manners in Public
5. Bullying
6. Gambling
7. Alcohol and drugs
8. Review
9. Sexual harassment
10. Smacking Kids
11. The Death Penalty
12. Stalkers
13. Religion
14. Racism
15. Review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばと社会			13405	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

多言語社会に暮らす人々は、日常どのようにして言語を使い分けるのか、共通の言語をもたない人同士がコミュニケーションを図ろうとすると、どのようなことばが生まれるのか、ことばの標準変種と非標準変種に対して人々はどのような価値観をもつのか、ことばと地域差・社会階級差・性差・年齢差は、どのように関係しているのかなどについて学ぶ。

授業計画

1. 社会言語学とは何か
2. 言語の選択(1): 多言語社会、ダイグロッシア
3. 言語の選択(2): ドメイン
4. 言語の選択(3): 二言語話者とコードスイッチング
5. 言語の選択(4): ビジンとクレオール(1)
6. 言語の選択(5): ビジンとクレオール(2)
7. 言語のバリエーション(1): ウィリアム・ラボフの古典的研究
8. 言語のバリエーション(2): ことばの標準変種と非標準変種
9. 言語のバリエーション(3): 地域方言とはなにか
10. 言語のバリエーション(4): 国際英語と英語の国際化
11. 言語のバリエーション(5): 社会方言とはなにか(1)
12. 言語のバリエーション(6): 社会方言とはなにか(2)
13. 言語のバリエーション(7): 黒人英語
14. 言語のバリエーション(8): ジェンダーと言語
15. 言語のバリエーション(9): 年齢と言語

授業の方法

教員・学生間のコミュニケーションを通してワークシートを完成させたり、自分の考え等を発表したりする。

準備学習

テキスト第1章「社会言語学とは何か」の1及び2を読んでおく

と。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東 照二著 『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、ワークシート、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・授業終了時に提出するワークシートの場合、当該授業終了時に提出されたもののみを評価の対象とする。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

現代社会は多様な文化を持つ人たちとの国際交流社会と言える。しかし時として文化情報の不足のため考え方や感じ方の違いが異文化間の相互理解を難しくしている。こうした文化摩擦をさけるための異文化理解の基礎と異文化間コミュニケーションの留意点を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

この授業では西洋文化、特に欧米の文化理解を中心にして「目に見える文化」から「見えない文化」、つまり習慣や行動の仕方の背景にある価値観などの由来をテキストを中心に解説する。よく誤解を生む「しぐさ」やジェスチャーなども取り上げる。また後半の講義時間内では欧米の主要国について担当グループを決め、国別の発表をしながら国際理解を促進する。なお毎回の授業にあたりテキストの内容を十分予習しておくことが望まれる。

授業計画

1. 講義概要。異文化理解とカルチャー・ショック
2. 文化摩擦を生む原因、異文化理解の知識 その1 文化とは何か
3. 異文化理解の知識 その2 価値観の理解
4. 異文化間コミュニケーション
5. 衣食住の文化(国別の担当グループ決めあり)
6. 人間関係の文化
7. 遊びと仕事の文化
8. 世界史の中の英語と文化 その1
9. 世界史の中の英語と文化 その2
10. 文化の基礎 その1
11. 文化の基礎 その2
12. 日本文化の将来
13. 英語授業外の活動と国際理解・国別グループ発表①
14. 異文化教育の手法と国際理解・国別グループ発表②
15. 異文化教育の評価と国際理解・国別グループ発表③

授業の方法

主要国についてグループに分け異文化理解の課題を討議し発表する時間を取り入れる。

準備学習

毎回授業で取り上げる範囲のページを事前にテキスト精読の事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する

テキスト

『異文化理解のストラテジー』 佐野正之・水落一朗・鈴木龍一著 大修館書店

参考図書

『しぐさの比較文化』リージャー・プロズナハン著 岡田 妙/斉藤紀代子 訳 大修館書店
『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』久米昭元・長谷川典子著 有斐閣選書
『実例で見る日米コミュニケーション・ギャップ』西田ひろ子 大修館書店

留意事項

出席と授業態度、国別の担当グループについてのチームワークと発表も重視する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学入門			13413	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
入江 和子	必修	2				

授業の到達目標

ギリシア・ラテン文学、およびキリスト教に深いかかわりを持つイギリス文学と、歴史的に若いアメリカ文学の特色を知るとともに、代表的作家の主要作品を鑑賞して英米文学作品についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

文学を生み出してきたイギリスとアメリカの現代に至る歴史的、文化的背景を概観し、詩、演劇、小説、随筆を通して表出される豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学の魅力を体験していく。

授業計画

1. 序論：ギリシア・ラテン文学とキリスト教
2. 古英語・中英語の文学
3. ルネサンスの散文と詩
4. シェイクスピア
5. シェイクスピア
6. 小説の誕生と成長
7. 小説の誕生と成長
8. ロマン主義時代の詩
9. ヴィクトリア朝時代の小説
10. ヴィクトリア朝時代の小説
11. 20世紀の詩と小説
12. アメリカ・ロマンティシズム時代の文学
13. アメリカ・ロマンティシズム時代の文学
14. アメリカ・リアリズム時代の文学
15. アメリカ・リアリズム時代の文学

授業の方法

講義を中心に、レポート提出や課題発表を多く取り入れる。

準備学習

英米作家の文学作品に親しんでおく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

講義要項に沿って行う。

テキスト

内田能嗣『イギリス文学史』 大阪教育図書 他にハンドアウトを配布する。

参考図書

寺門泰彦編著他『アメリカ文学案内』朝日出版、野町二著他『イギリス文学案内』朝日出版、中村邦生他編著『楽しく読めるイギリス文学』ミネルヴァ書房、高田賢一他編著『楽しく読めるアメリカ文学』ミネルヴァ書房、大岡信也編『世界文学のすすめ』岩波文庫、高津春繁他著『ギリシア・ローマ古典文学案内』岩波文庫、小川正廣著『アエネーイスー神話が語るヨーロッパ世界の原点』岩波書店

留意事項

課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。クラスでは全作品を一緒に読む時間がないため、各自積極的に多くの作品を鑑賞するよう心がけてもらいたい。また課題は必ず準備して授業に臨むこと。座席指定

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの意味・文化			13417	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
服部 幸正	必修	2				

授業の到達目標

国際化とかグローバル化という波が我々日本人の生活にも押し寄せていることをみなさんも実感していることと思う。授業では「ことばの意味・文化」の視点から、異文化理解へのアプローチの一端を学び、他文化への関心を深める一助としたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を考える。

授業の概要

英文のテキストを使って授業をする。しかし、英文講読のクラスではないので、英文の読解力強化や向上が第一の目的ではない。目的はテキストの著者が「ことばの意味・文化」について、何を主張しようとしているのかを読み取り、その内容を議論することである。教師主体の講義形式ではなく学生主体の演習形式で授業を行う。

授業計画

1. Language Supports Culture
2. Expressing Our Cultural Identity
3. Language Takes Us Beyond Our Culture
4. Social Harmony
5. Soothing Language
6. Language Complicates Culture
7. Social Discrimination And Language
8. Language Threatens Culture
9. The Threat Of English
10. Linguistic Arrogance
11. Linguistic Imperialism
12. Language And Culture In The 21st Century
13. Language For Everyone
14. Balancing Language(s) And Culture(s)
15. English Education In The 21st Century

授業の方法

学生主体の演習形式の授業方法をとるので、クラスでは各人指示された自分の責任を果たしてほしい。これはKAISEIパーソナリティE

(倫理)を養うことにもなる。

準備学習

日本語と日本文化についての本を読むことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席して授業に参加することを評価する。

テキスト

LANGUAGE and CULTURE in the 21st CENTURY by Joan McConnell SEIBIDO

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Japanese Culture			13425	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

Students will learn how to talk about various aspects of Japanese culture in English and in particular within the context of explaining it to a host family in a foreign country or to a foreign person visiting Japan.

授業計画

1. Introduction
2. A uniform society
3. Japanese universities
4. My hometown
5. Japanese food
6. Japanese manners
7. Explaining Japanese objects
8. Review
9. Visiting temples and shrines
10. Craze culture
11. Contemporary Japanese men
12. The traditional Japanese house
13. Japanese movies and TV
14. Japanese Traditional Culture 1
15. Final Review

授業の方法

Students will mostly be working individually and in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

This is Japan, Simon Capper, Macmillan

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	選択	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光とは」「観光の展開（観光史）」「観光の背景（観光文化）」

観光交流時代を迎えて、国際的に「観光」の認識が高まっている。この授業では「観光立国」を目指すわが国の現状理解と、観光史・観光文化地理など「観光学」に関する基本的なことを学習する。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養います。

授業の概要

この授業では、国際人として訪日する外国人観光客にも対応できるわが国の「観光事情」をさまざまな角度から歴史的、文化的に学ぶこととする。内容は、「物見遊山」から「観光旅行」に関わるわが国の観光事情の流れを学ぶこと、「観光sightseeing」から「観光tourism」への認識をさらに深めることで、「国際観光交流時代」に生きる基礎学力を高める。

授業計画

1. 観光とは
2. 国内観光交流の現状
3. 国際観光交流の現状
4. 「交流」の発展と観光
5. 「旅」「宿」の発展と観光
6. 「めぐり」と「もうで」(周遊型観光の発展)
7. 「まち」のにぎわいと観光
8. 「遊覧」と観光 I
9. 「遊覧」と観光 II
10. 「遊覧」と観光 III
11. 「温泉」と観光
12. 「食」と観光
13. 「みやげ」と観光
14. 国際交流時代の観光
15. 「観光概論」のまとめ

授業の方法

テキストに添って進める。OHCを使用して板書、ビデオ学習、小

レポートを課す。

準備学習

テキストに従って進めるので、事前によく読んでおくことと成果が上がる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点（出席・課題評価・小レポート）が50%あるので、欠席が多いとこの評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価が得られなくなる可能性があるので充分注意しておくこと

テキスト

「観光・旅の文化」北川宗忠著 ミネルヴァ書房

参考図書

「観光・旅行用語辞典」北川宗忠編著 ミネルヴァ書房

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

観光先進国フランスを学ぶことにより日本の観光行政、観光資源・宿泊・交通・見本市・国際会議場・エンタテインメントなどの各インフラの問題点を探る。
国際観光機関や国土交通省の観光のデータをもとにフランス、イタリア、スペイン、アメリカなどの先進事例を研究し日本の現状と今後の歩むべき方向を考える。

授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養います。視座をフランスに定め日本の観光資源・観光行政・観光産業を俯瞰する。
世界観光機構(UNWTO)、OECDなどの客観的データを基に日本の観光政策、国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound, inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義を理解する。

授業計画

1. 国際観光交流論概要、シラバス概要、教科書、評価方法
2. 観光立国の実現、日本の観光政策、現状と今後の方向
3. フランスの政府観光局から学ぶ 観光庁とJNTO
4. 欧米人からみた日本の魅力
5. バカンス観、先進国の余暇事情、日本の余暇事情
6. 交流とはなにか。国内、海外、交流の形態、交流の意義日本の観光政策
7. ホスピタリティ(おもてなし)のあり方
8. 交流の場、日本の国際交流、過去のとりくみ
9. マルチメディアとツーリズム、日本の国際交流、現状と今後の方向
10. 国際観光交流と観光産業、イベント・コンベンション事業、Two-way tourism
11. 国際観光交流と観光産業、旅行業、宿泊業、輸送業、国際会議場
12. ケーススタディ、世界の国際交流 クラブメッド
13. ケーススタディ、世界の国際交流 フランスのキャンピング
14. ケーススタディ、世界の国際交流 音楽祭、映画祭、フェスティバル
15. 国際観光交流論のまとめ

授業の方法

教科書は最初に一読しておくことが必須。国際性を養うため海外から日本を見るスタンスでシラバスの各テーマについて考える。

準備学習

各種メディアを通じて日ごろから世界や日本の動きなど情報収集すると楽しく学ぶことができる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト

観光大国フランスーゆとりとバカンスの仕組みー(現代図書) 教室で直接販売する。割引価格2000円

参考図書

〔平成23年度版観光白書〕国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

留意事項

みなさんの見聞きした情報を歓迎する。双方向のやりある授業を目指す。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーション I			13428	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣／岩橋 博子	選択	1				

授業の到達目標

- ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
- ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
- ・手話で自己紹介が出来るようにする
- ・簡単な会話が出来るようにする

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
- ・手話で自己紹介する。
- ・基本的な会話手話を習得する。
- ・レクリエーション

授業計画

1. オリエンテーション
「聞こえないこととは」「コミュニケーションとは」/手話表現/指文字
2. 実技(伝え合ってみよう)
3. DVD映画「ゆずり葉」鑑賞
4. 実技(名前)
5. 聴覚障害者の課題1
6. 実技(趣味)
7. 実技(仕事)
8. 聴覚障害者の課題2
9. 実技(家族)
10. 実技(地図1)
11. 聴覚障害者の課題3
12. 実技(地図2)
13. 実技(自己紹介しましょう)
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

- ・講義・実技・DVD
- ・校外学習
- ・レポート

準備学習

- ・単語学習
- ・DVD
- ・資料精読

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

- ①「新・手話教室入門」
- ②DVDで学ぶ手話の本(全国手話検定試験5級対応)

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			13429	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
若生 茂嗣／岩橋 博子	選択	1				

授業の到達目標

- ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
- ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
- ・手話で会話が出来るようにする。
- ・講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流が出来るようにする
- ・全国手話検定5級取得

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・手話の基本的な会話を習得する。
- ・障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・レクリエーション

授業計画

1. 春学期の復習(夏休みの報告)
2. 実技(1日のこと)
3. 実技(1ヶ月のこと)
4. 聴覚障害者の課題4
5. 実技(1年のこと)
6. 実技(行事のお知らせ)
7. 聴覚障害者の課題5
8. 実技(会話してみましよう1)
9. 実技(会話してみましよう2)
10. 聴覚障害者の課題
11. 実技(会話してみましよう3)
12. 実技(応用編1)
13. 実技(応用編2)
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

- ・講義・実技・DVD
- ・聴覚障害者との交流・校外学習
- ・レポート

準備学習

- ・単語学習
- ・DVD
- ・資料を読む

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

- ①「新・手話教室入門」
- ②DVDで学ぶ手話の本（全国手話検定試験5級対応）

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

近代になり産業文明の発達と同時に自然環境にも影響を与え、さらに地球規模での温暖化が進行している。この授業では地球環境保全への世界での取り組みの歴史を考え、近年世界各地で環境を保全する「持続可能なツーリズム」が実践されていることを理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず現在の地球温暖化傾向の原因を理解しながら、これまでの世界的な環境保全運動と国連会議で採択された「持続可能な開発」即ちサステイナブル・デベロップメントの基本概念を理解する。これを受けて世界各地で環境保全と観光の視点から新たなツーリズム、即ちエコツーリズムに代表される持続可能なツーリズムが実践されている。その代表的な国別の事例をグループ別に課題研究し発表する。

授業計画

1. 科目概要:オリエンテーション
2. 地球温暖化と京都議定書
3. 近代観光の発達とマストツーリズム
4. 地球環境保全へのながれ、その1
5. 地球環境保全へのながれ、その2
6. 地球サミットと環境保護関連の条約
7. アメリカの自然保護と国立公園制度
8. エコツーリズムとエコツアー
9. 日本におけるエコツーリズム
10. イギリスのナショナルトラスト運動
11. 環境ツーリズムの先進事例研究 その1
12. 環境ツーリズムの先進事例研究 その2
13. 環境ツーリズムの先進事例発表 その3
14. 環境ツーリズムの先進事例発表 その4
15. 環境ツーリズムの先進事例 まとめ

授業の方法

先進事例は学生が国別グループごとに課題研究し発表を行う。

準備学習

エコツーリズムや地球温暖化についてポスト京都議定書の動向などの新聞報道にも注目しておく事。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。欠席した授業内容は友人と確認しておくこと。

テキスト

特に指定しない。随時プリントを配布する。講義内容によりDVDなどで映像でも紹介する。

参考図書

『観光学入門』 岡本伸之著 有斐閣アルマ、『ナショナル・トラスト(新版)』 木原啓吉著 三省堂、『エコツーリズムってなに?』 小林寛子著 河出書房新社、『アメリカの環境保護運動』 岡島成之著 岩波新書

留意事項

課題研究日・発表担当日は欠席をしない事。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

観光の全体像を理解し観光事業におけるリレーションを把握する。将来観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。全体像を理解した上で、より専門知識の習得を目指す。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指します。

授業の概要

観光とは何か。その成り立ちと観光を具体的に解説する。観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道、そして行政をリレーションを学びます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テーマパーク事業
9. テーマパーク事業
10. 旅行事業
11. 旅行事業
12. ホテル・旅館事業
13. ホテル・旅館事業
14. 航空運送事業・鉄道事業

15.まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に取り組み発表し、学生によるディスカッションを行う。

準備学習

旅行関連の雑誌等を図書館で読むこと。テキストを事前に読むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

テキスト

「現代の観光事業」 ミネルヴァ書房

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

現在、世界には960以上の「世界遺産」が登録されている。我国も一昨年2つの世界遺産が追加認定され現在登録数は16になった。この授業では世界遺産の概念から登録までの過程、世界遺産の種類別の地理的分布と現状を危機遺産を含め考察する。その上で観光資源としての世界遺産のあり方とは何かを見出して行く。世界遺産検定受験も念頭に置く。またこのクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

近年になり世界中で環境と開発の両立が求められ、1992年のリオ・デ・ジャネイロで開かれた国連の「地球サミット」以来、観光の分野に於いても「持続可能な観光」の方針が打ち出された。一方では世界遺産登録後の観光客の増加が深刻な環境問題を起こしている例もある。今や国際観光の中心的存在である世界遺産をいかに保全し、同時に観光との両立をはかっているのか、日本と世界の主要な世界遺産を観光資源として捉え現状を把握していく。対象となる世界遺産をグループで研究し発表する時間を設ける。

授業計画

1. 講義のオリエンテーション、国際観光の現状
2. 観光の中の世界遺産 (日本の例・世界の例)
3. 世界遺産条約と世界遺産登録
4. 世界遺産の現状
5. 日本の世界遺産の概要
6. 日本の世界遺産(自然遺産)
7. 日本の世界遺産(文化遺産)
8. 世界の顕著な世界遺産を調べる その1
9. 世界の顕著な世界遺産を調べる その2
10. 世界の顕著な世界遺産の発表 その1
11. 世界の顕著な世界遺産の発表 その2
12. 危機遺産と課題を調べる
13. 危機遺産と課題の発表
14. 世界遺産とエコツーリズムの関係
15. 観光と世界遺産のまとめ

授業の方法

グループでの課題研究と発表を多く取り入れる。

準備学習

世界遺産についてのニュース、新聞記事などに日頃から注目し、観光との関わりを常に考えておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

理由のない欠席は1回につき5点減点する。その他は学則に準じる。

テキスト

テキストについては授業中に指示する。

参考図書

『ユネスコ世界遺産年報(各年次)』、平凡社

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光文化地理論			13433	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光と文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、太平洋の島、中東、アフリカに分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時にインターネットの関連サイトで地図や写真などのビジュアルから現地情報を学習する。

授業計画

1. 「世界の地勢」1.大陸と大洋 2.各地域の地勢
2. 「アジア」韓国 台湾 中国
3. 「アジア」香港 マカオ フィリピン
4. 「アジア」ベトナム カンボジア マレーシア
5. 「アジア」シンガポール インドネシア タイ インド ネパール
6. 「ヨーロッパ」イギリス オランダ ベルギー
7. 「ヨーロッパ」北欧4国 ドイツ
8. 「ヨーロッパ」スイス オーストリア フランス
9. 「ヨーロッパ」イタリア スペイン ポルトガル ギリシャ
10. 「ヨーロッパ」チェコ ハンガリー ポーランド ロシア連邦
11. 「南北アメリカ」アメリカ ハワイ
12. 「南北アメリカ」カナダ メキシコ キューバ パハマ ベルギー ブラジル アルゼンチン
13. 「オセアニア 太平洋の島」オーストラリア ニューージーランド グアム サイパン 南太平洋の島々
14. 「中東 アフリカ」トルコ イスラエル エジプト ケニア タンザニア
15. 「総括」世界の都市・観光 祭り イベント 伝統工芸

授業の方法

学習内容とリンクして、インターネットの関連サイトで地図や写真などのビジュアルを通して現地情報を学習する。

準備学習

事前に指示された箇所を予習してくる。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は減点の対象とする。

テキスト

『すぐ役に立つ海外地理ベーシック4000』ジェイティービー能力開発

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

alohasam@y7.dion.ne.jp

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

この授業では観光ビジネスの中核をなす3つの業界である旅行業界、ホテル業界、航空業界での実務に必要な基本用語、業界の常識などを解説する。観光立国を目指すこれからの日本の観光業界で活躍するための基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

3つの業界を2名の教員が担当し解説する。それぞれの業界の仕組み、基本用語、業務の流れ、業界の常識などを中心に学習する。内容によりテキストやDVDなどの映像も使用し理解を深めながら業界の全体像を把握する。

授業計画

1. 講義概要とオリエンテーション。評価の方法、出欠の取り扱い、試験について。
2. 旅行業界の実務（国内旅行 その1）
3. 旅行業界の実務（国内旅行 その2）
4. 旅行業界の実務（海外旅行 その1）
5. 旅行業界の実務（海外旅行 その2）
6. ホテルの実務・フロント業務
7. ホテルの実務・フロント業務
8. ホテルの実務・フロントサービス業務
9. ホテルの実務・ハウスキーピング業務
10. ホテルの実務・ハウスキーピング業務・まとめ
11. 航空業界の仕組み
12. 航空業界の特徴および基礎知識
13. 航空業界の実務とサービス
14. 航空業界の実務と営業戦略
15. 航空業界の動向と世界の空

授業の方法

二人の教員が3つの業界を分担しそれぞれ解説する。学生は課題に対してグループで討論し、発表する時間を取り入れる。

準備学習

旅行業界・ホテル業界・航空業界の最新ニュースや新聞記事に日頃から注意をし関心をもつこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

理由のない欠席は1回に付き5点減点する。また1つの業界での授業において3回の欠席は履修単位を与えない。その他、学則に準じる。

テキスト

旅行業界・航空業界は適宜プリントを配布する。ホテル業界については『ホテルの基本サービス・フロント編』・『ホテルの基本サービス・ハウスキーピング編』（日本ホテル協会発行）をテキストとする。

参考図書

『観光概論』・『旅行業概説』・『観光学基礎』（いずれもJT B能力開発J H R S発行）、『よくわかる航空業界』（日本実業出版社）

留意事項

観光ビジネス実務士資格を取得するための必修科目の一つ。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門Ⅰ			13435	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	2				

授業の到達目標

韓国語入門Ⅰでは、初めて韓国語を学習する学生が、ハングル（韓国語を表現する文字）及び韓国語の文型と語彙を習い、それを活用して簡単な日常会話が可能になることを授業の目標とする。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語についての基本的な説明
2. ハングルの基本母音について
3. ハングルの基本子音について
4. ハングルの合成母音(複合母音)について
5. ハングルのパッチムについて
6. ハングルの基本のまとめ
7. 辞典の引き方、発音変化について、『中間テスト』
8. 会話中心の基本表現-1:『～は、～です。』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-2:『～が、～ですか?』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-3:『～ではありません。～ではありませんか?』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-4:『います/あります。いません/ありません。』表現を中心に
12. 会話中心の基本表現-5:『～します/しますか? 何?』表現

を中心に

13. 会話中心の基本表現-6:『～体(します/しますか?)』、『～体(あります/ありません)』表現を中心に
14. 場面会話演習
15. 授業のまとめ

授業の方法

出席重視。シラバスに示した授業計画の実施を目標

準備学習

テキストの予習

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級 / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（復習反復は重要）。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門Ⅱ			13436	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	2				

授業の到達目標

韓国語入門Ⅱでは、同入門Ⅰで学習した内容を踏まえた上で、更に韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高め、日常会話の幅を広げることを授業の目標とする。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養います。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「学習表現の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語入門Ⅰの復習および会話中心の基本表現-7:『～です/ます』表現を中心に(1/2)
2. 会話中心の基本表現-7:『～です/ます』表現を中心に(2/2)
3. 会話中心の基本表現-8:『～体:～です/ます』、『～しに』表現を中心に
4. 会話中心の基本表現-9:『～体:～です』、『漢数詞』表現を中心に
5. 会話中心の基本表現-10:『いくつ』、『〇時△分』表現を中心に
6. 会話中心の基本表現-11:『敬語』、『～体敬語』、『敬語の特殊例』表現を中心に
7. 会話中心の基本表現-12:『用言の否定』、『～するといいです』表現を中心に
8. 『中間テスト』、会話中心の基本表現-13:『過去』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-14:『～しましょう/～しよう/何の～』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-15:『～しています/～してください(1)』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-16:『～できる/～できない』表現を中心に
12. 会話中心の基本表現-17:『～したい/～してください(2)』表現を中心に
13. 会話中心の基本表現-18:『～してもいい/～しないでください』表現を中心に

14. 会話中心の基本表現-19:『～しなければならない』、『意志をこめる』表現を中心に
15. 会話中心の基本表現-20:『～と思います/～するつもりです』表現を中心、『授業のまとめ』

授業の方法

出席重視。シラバスに示した授業計画の実施を目標

準備学習

韓国語入門Ⅰ、テキストの予習

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級 / 木内明 著 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（復習反復は重要）。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	EC	13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子／福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とIn（国際性）とを養う。（箕野 聡子）

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（福智 佳代子）

授業の概要

（日本児童文学）近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。（箕野 聡子）

（西洋児童文学）児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。絵とことばを巧みに組み合わせた絵本、リズムカルなことばの詩・ナーサリーライム（マザーグース）、児童が主人公として体験できる夢と冒険の世界を描いた作品を取り上げる。（福智 佳代子）

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
5. 千葉省三「拾った神様」と映画「憑神」(箕野)
6. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
7. 棕鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」(箕野)
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム（マザーグース）の世界（福智）
10. 「ブラウン・ベア」とエリック・カールの絵本の世界（福智）
11. プレゼンテーション「読み聞かせ」と「童歌遊び」とその意義（福智）
12. 「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活の自然と日常の世界（福智）
13. 「トムソーヤとハックルベリ・フィン」マーク・トウェインの冒険の世界（福智）
14. 「星の王子様」サン・テグジュペリと「ガリバー旅行記」J.スウィフト（福智）
15. 「はてしない物語」ミヒャエル・エンデのファンタジーの世界（福智）

授業の方法

作品の講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。（箕野 聡子）
児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。（福智 佳代子）

準備学習

作品をあらかじめ読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』（創文社）（箕野）

本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）（福智）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasei.ac.jp(箕野 聡子)

fukuchi@kasei.ac.jp(福智 佳代子)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Cross-cultural Communication			13505	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The aim of the course is to introduce a number of themes related to cross-cultural communication and to explore how different cultures behave and respond to different signals.

授業計画

1. Introduction
2. What does "culture" mean?
3. Cultural rules for acceptable behaviour
4. Stereotyping
5. Media and Culture
6. Nonverbal communication
7. Cultural perspectives of time
8. Review
9. Verbal communication norms
10. Subcultures
11. Status
12. What is a family?
13. Gender as culture
14. Our connected world
15. Final review

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

This is Culture, Kjiura/Goodmacher, Nan`Un-Do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@hotmail.com

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English/American Culture			13513	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will have the opportunity to develop their sense of Internationality.

授業の概要

The course will focus on the United Kingdom and its people and culture. Students will learn through in-class activities and independent research. Reflection upon and comparisons with other countries and cultures will be encouraged.

授業計画

1. An Introduction to the UK
2. The Royal Family
3. The British Empire
4. The British Commonwealth and Britain and the U.S.A.
5. British Comedy
6. Films 1
7. A Multicultural Nation
8. Popular Music 1
9. Films 2
10. Food and Drink
11. Leisure
12. Education
13. Popular Music 2
14. The British Media
15. The Government and International Relations

授業の方法

Students will mostly be working in pairs in small groups.

準備学習

Read about the UK in English or Japanese from newspapers, news websites or other books in the library.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Window on Britain Level 2, Richard MacAndrew, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

教員連絡先

angushall@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

対立概念とは、たとえばフランスの文学者ロラン・バルトの言葉を借りれば、「意味のスペクタクル」を展開しうる重要なものであるが、講義においては、「小説」という、もっともポピュラーな文学形態に巧妙に仕組まれた、そうした対比の構造を通して、文学を読み解く方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性、国際性）とE（倫理）を考える。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『分別と多感』を取り上げて研究する。この小説は、「分別」(sense)をもつ理性的な姉と、「多感」(sensitivity)気質で、感受性の強い妹という、好対照をなす姉妹の恋愛を核にしているが、授業では文学を通して古くて新しいテーマである「理性」と「感情」の対立について、また、自己に誠実に、真摯に生きるとはどういうことなのか等について考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDも用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

1. 総論
2. 「対立」の時代的文化的背景
3. Jane Austen and *Sense and Sensibility*
4. Introduction
5. The language of Jane Austen's time
6. People and places
7. Love or money?
8. The London season
9. Rapid Reading (1) 研究発表
10. Rapid Reading (2) 研究発表
11. Rapid Reading (3) 研究発表
12. Rapid Reading (4) 研究発表
13. オースティンの心理的リアリズム
14. 『分別と多感』の意味
15. まとめ 文学における「対立」の構図

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学習

講義では、レポート課題もあるので、日ごろから自己表現、日本語表現力を磨いておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen, *Sense and Sensibility* CD付.London: Mary Glasgrov Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

Sense and Sensibility (『分別と多感』)の翻訳書として、現在、入手可能なものは、以下の2点がある。
ジェイン・オースティン『知性と感性』工藤政司訳(近代文芸社)
ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』真野明裕訳(キネマ旬報社)
その他の参考図書については、授業で随時、指示する。

留意事項

授業で取り上げる『分別と多感』は、上の「参考図書」に記したような翻訳書があるので、できれば予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会			13525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

「ジェンダー論」の目標と同様に、ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができるようにする。国内外の社会事象とその中に生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

1. 文化と歴史の中の女性
2. 女性のライフコース
3. 女性と教育
4. 女性と労働・女性のキャリア形成
5. 女性と結婚・離婚
6. 女性と出産・子育て
7. ワークライフバランス
8. 女性と暴力
9. 女性とメディア・表現
10. 女性と階層
11. 女性と加齢
12. 女性と病
13. 女性とケア
14. 女性と社会参画・社会政策
15. 女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学習

テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
American Studies in U.S.A.			13529	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

雄大なロッキー山脈のふもとにある緑豊かなアメリカのコロラド州立大学。細かくレベル別に分けられたクラスで英語を徹底的に学ぶ。同時に、寮生活やさまざまなアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。通常授業の中に以下のような内容を含む。

- ・ Conversation Partner : Native speaker の学生をクラスに招き、ディスカッションを行う。
- ・ 卒業プロジェクト : グループごとに題材を決め、図書館や街でのリサーチをもとに発表する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Australian Studies in Australia			13537	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

亜熱帯気候で冬でも暖かく過ごしやすく、かつ大自然が身近にあるオーストラリアの都市ブリスベンにあるグリフィス大学への短期留学により、英語を集中的に学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。希望者を対象に、授業のない金曜の午後にパーティ、ダンスレッスン、スポーツ、美術館訪問などのアクティビティが予定される。また、週末にもビーチ、テーマパークやハイキングへ行く遠足がある。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者によって決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Canadian Studies in Canada			13539	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

留学先はカナダ人の将来住みたい街第一位に選ばれ続けている、ブリティッシュ・コロンビア州バーノンにあるオカナガン・カレッジ。この大学は語学教育に実績があり、初級から上級まですべてのレベルで学習ができる。またボランティア活動など他大学にはないユニークなプログラムも含まれている。のどかな住宅地バーノンにて、カナダ人ファミリー宅に滞在し、カナダの大自然を体験しながら学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通じて実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週15時間の授業、5時間のオーラルプレゼンテーション、5時間のランゲージラボでの自習（インストラクターの補佐あり）、5時間のボランティアワーク。滞在中2回のフィールドトリップ（例：乗馬、農場・産業見学、ハイキング、ホッケー観戦など）が含まれている。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における

能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English I	EC		13605	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

実社会で役に立つビジネス・イングリッシュの基本を学ぶ。

授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養います。英語のビジネスレターの読み書き、封筒の宛名の書き方、社内連絡のメモ・FAX, e-mail、サンプルレターのファイリングと活用方法、レジュメ、カバーレターの書き方、など基本的なことを学ぶ。またあわせて社会、企業での常識、習慣、ビジネスで使われる日本語についても学ぶ。

基本的な実例を学んだ後で演習（英文和訳、和文英訳）を行う。

授業計画

1. 講義概要、評価方法、教科書、シラバス（講義計画）、ビジネスイングリッシュとは何か。
2. ビジネスレターの構成、レイアウト、レターヘッド、インサイドアドレス、本文とパラグラフなど
3. 社内メモ、レイアウト、構成要素、ヘッディング、ガイドヘッディング、略号、決まり事。
4. Eメール、社内LAN、社内文書と対外文書、学校英語と実用英語の違い（丁寧表現）
5. レター1（面会の申し込み）、演習
6. レター2（ホテルの予約）、演習
7. レター3（帰国後の礼状）、演習
8. 社内通信文、レター4（紹介）、演習
9. レター5（招待）、演習
10. レター6（昇進祝い）、演習
11. レター7（お悔やみ）、演習
12. 社内メモ（人事異動）と演習
13. 社内メモ（社内会議の招集）と演習
14. レジュメとカバーレターの書き方
15. まとめ

授業の方法

標準レター（サンプル）の解説後、英訳、英作の演習を行うので予

習、復習をすること。わからないことは自由に質問すること。

準備学習

予習・復習を心がけること。基本的な表現は考えなくてもすぐででくするように努力すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない場合以外の欠席は認めない。普段の授業に重きを置いているので、遅刻、欠席、不真面目は減点の対象となる。

テキスト

始めて学ぶビジネス英語 成美堂 田中武雄著

参考図書

「国際秘書英語」 亀山和夫、成美堂「国際ビジネスコミュニケーション入門」 亀山和夫、八尾晃共著、成美堂「英文履歴書の書き方」 有元美津世 ザ・ジャパンタイムズ

留意事項

英語だけでなく社会で使われる正しい日本語も勉強するので目についた印刷物の表現について普段から関心をもつこと。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English II	EC		13609	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養います。Business English Iは入門編であるが、Business English IIは貿易実務の解説ならびに貿易通信文の作成の演習を行う。入社後、会社で役立つ実践英語の学習方法を修得する。

授業の概要

Business English Iに引き続き行うのでI、II継続受講が望ましい。教科書はI、IIが一冊に収まっている。授業内容としてはIの基本をベースに貿易通信文の作成、貿易実務の基本について学ぶ。あわせて職場の常識などを企業在籍の経験談を加えながら指導する。

授業計画

1. 講義概要、シラバス概要、評価方法、貿易と貿易通信文の基本
2. 取引関係の創設、取引先の選定、取引先の斡旋依頼
3. 信用照会、銀行、商業興信所、貿易に係る企業の役割
4. 取引の申し込み
5. 取引申し込みの承諾、一般取引条件協定書の交換
6. 売買契約の成立、一般取引条件協定書の交換
7. オファー
8. カウンター・オファー
9. オファーの受諾
10. 売買契約の履行、信用状
11. 信用状開設手配の通知
12. 信用状の条件変更
13. 船積
14. 船積通知
15. まとめ

授業の方法

標準レターの解説のあと演習（和訳、英作）を行うので予習、復習が必要。
授業中にわからないことは自由に質問できる。

準備学習

進むペースが速い（シラバス通り）ので予習・復習が必要。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト

「初めて学ぶビジネス英語」田中武雄著、成美堂

参考図書

「貿易実務の基本がわかる本」木村雅晴ほか、ぱる出版「最新ビジネス英語」成美堂、「国際ビジネスコミュニケーション」成美堂、「商業英語（国際ビジネスコミュニケーション）問題集」日本商工会議所

留意事項

国際企業、貿易商社、貿易、海上火災保険、銀行などに就職する学生に最適

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	III	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樫本 雄三	選択	2				

授業の到達目標

経済活動や学術研究などで用いられる文書や資料の和訳および英訳ができるようになるための、訳文作成技術を習得し関連知識を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とI（国際性）を目指す。

授業の概要

新聞、雑誌、ウェブサイトなどから、話題になっているビジネス関連記事を選び、和文英訳および英文和訳の演習を行う。翻訳に必要な背景知識の調査および習得も行う。

授業計画

1. 実務翻訳の特徴
2. 英文和訳の基本技術/自然な文章表現
3. 世界経済/欧州危機/財政の崖
4. エナジーハーベスト/非在来型天然ガス
5. 製造業の国内回帰/新興国経済
6. 高速移動通信/仮想移動体通信事業者
7. 北極海航路/国際物流
8. ライティングの3C/シンプリファイド・イングリッシュ
9. 和文英訳の基本技術/英文作成時のよくある間違い
10. 英文マニュアルの表現
11. AR(拡張現実)技術/バーチャル試着システム
12. アグリビジネス/農地獲得競争
13. クリーンディーゼル車/エコカー
14. コモディティ化/電子機器製造受託サービス
15. 宇宙ビジネス/国際宇宙ステーション

授業の方法

翻訳技術の習得－訳文作成実習－内容の検討－試訳の解説－背景知識の取得

準備学習

パソコンを用いた文書作成およびインターネット検索ができること。電子メールが使えること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞や英文雑誌の記事を教材にする。

参考図書

The Elements of Style, Strunk and White, Longman Publishers
技術英文の書き方 55のルール、片岡英樹、創元社
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社

留意事項

毎回課題を出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先

yzkashimoto@hop.ocn.ne.jp

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際マネジメントと英語			13625	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティの国際性を養います。グローバル化に伴い日本の国際企業の職場では外国人スタッフと仕事をしたり、海外支店の外国人スタッフと連絡が日常業務になったりしている。現在の企業はバイリンガル人材が求めている。この授業を通じて国際企業でも勤務できる語学能力と社会常識を学ぶ。

授業の概要

授業は英語で行う。CDを利用してTOEIC教材（750-800点目標）を使用する。

授業計画

1. 講義概要、シラバス説明、教科書について、評価方法
2. Airport Security
3. Weekend Activities
4. Ecology
5. Housing and Property
6. Health and Welfare
7. Communications
8. Careers and Employment
9. Office Procedures and Protocol
10. Current Events and Public Affairs
11. Marketing and Sales Campaigns
12. Complaints and Troubleshooting
13. Innovations and Technology
14. Interoffice Communications
15. Social Functions

授業の方法

TOEIC、STEP受検対策の実践的授業。CDを聞き4技能の向上を図る。

準備学習

教科書にはCDが付いているので予習、復習が望ましい。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業出席に重点をおいているので欠席すると大きな減点になる。試験での取り返しはできない。

テキスト

TOEIC Test: On Target Book2 (TOEIC TEST:オンターゲット2) 南雲堂

留意事項

教科書にはCDが付いているので自宅でも何回も聴くこと。

教員連絡先

aokimikio@aol.com

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ	EC		13629	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

企業等で実際に就業体験をすることで自分の学問・研究の一層の理解を深め、将来の職業選択に備えて、自らの適性、能力について実践的に考える機会とし、就職活動における志望業種・職種のスムーズな決定と就職後の職業への適応力をつけることを目的とする。尚、本科目において修得した単位は、「専門科目」における「国際ビジネス科目」の単位に参入される。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自立）を養う。

授業の概要

本学インターンシップには、以下に示す通り、日本国内インターンシップとアメリカインターンシップがある。

1. 日本国内企業インターンシップ.....就業体験原則5日以上
 2. アメリカ・インターンシップ
 - ①アメリカ国内企業（日本企業）インターンシップ.....就業体験2週間以上（夏季休暇中又は春季休暇中）
 - ②アメリカ「アシスタント・ティーチャー」プログラムインターンシップ.....就業体験2週間以上（2～3月中）
- 尚、場合によっては、TH学科のインターンシップ先に参加できる可能性もある。

授業計画

1. オリエンテーション:インターンシップの目的と手続き
2. 事前研修:業種別受け入れ企業の説明
3. 事前研修:学生と受け入れ企業のマッチング
4. マナー講座①
5. マナー講座②
6. マナー講座③
7. 事前発表(企業研究レポート提出)
8. インターンシップ(実習) 尚、受け入れ機関により実習時期と実習期間は異なる)
9. インターンシップ(実習)
10. インターンシップ(実習)
11. インターンシップ(実習)
12. インターンシップ(実習)

13. インターンシップ(実習)
14. 事後報告発表(3年次対象)
15. 事後報告発表(2年次対象)及び事後レポート提出

授業の方法

関係部署、関係者との連携による実践

準備学習

普段より新聞雑誌など、希望職種関連記事などに目を通しておくことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

留意事項

4月下旬に行われる第一回EC/TH合同インターンシップ説明会には3年次生全員の出席が望ましい。インターンシップは学生の熱意と準備、引受先があって初めて成立するため、真摯な気持ちをもって臨むことが大切である。またインターンシップ参加者は、説明会、キャリアセンターの開催するマナー講座、企業研究、事後報告発表会に必ず参加し、義務づけられたレポートは必ず提出しなければならない。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

ヨーロッパや近隣のアジア諸国は、小学校から外国語教育を必修化している。2011年度に日本全国の小学校で義務教育として小学校外国語（英語）活動が開始されて、本年度で3年目を迎える。本講義では、今や、多言語・多文化社会から複言語・複文化社会と言われる世界の中での外国語教育の現状と児童期からの外国語教育のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

授業では、これら諸問題に関する適切な文献を読んで、多言語多文化社会における他言語教育の意義と目的を考える。次に、教育現場での実践のあり方をふまえて、児童期からの学習者の特性、児童英語教育のあり方そのもの、児童の特性を活かした授業法の理論と実際を討議できるように指導する。

授業計画

1. ガイダンス
『世界の言語政策事情と日本の小学校英語活動の現状』
2. 小学校英語教育と国際理解
3. 児童期における第2言語教育(1)
『ことばの習得VS.ことばの学習』
4. 児童期における第2言語教育(2)
『イマージョン・プログラムとバイリンガル教育』臨界期
5. 児童期における第2言語教育(3)
『ディベート これからの児童英語教育』
6. 児童の特性を活かした授業法(1)『歌』
7. 児童の特性を活かした授業法(2)『チャンツ・ライム』
8. 児童の特性を活かした授業法(3)
『TPR』(Total Physical Response)
9. 児童の特性を活かした授業法(4)『ゲーム』を活用した授業法
10. 児童の特性を活かした授業法(5)『まとめとプレゼンテーション』
11. 児童が楽しむ英語活動(1)『絵本・物語』が育むことばの力』
12. 児童が楽しむ英語活動(2)『スキット、ロールプレイング、ごっこ遊び』を楽しむ活動
13. 児童が楽しむ英語活動(3)『タスク型英語活動、プロジェクト型英語活動』

14. 児童が楽しむ英語活動(4)『まとめとプレゼンテーション』
15. 児童英語教育のゴールと4技能の到達点
ポर्टフォリオ作成

授業の方法

理論を理解し、ディベート、プレゼンテーションなどで、主体的・創造的に理論を実践に活かす方法を発信する。

準備学習

各回の課題について調べ、レポートを仕上げる。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。必ず出席し、討議に参加すること

テキスト

ハンドアウト配布

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I			13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KaiseiパーソナリティのK(思いやり)、I(知性、国際性)、E(倫理)を学ぶ。

授業の概要

教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」という現実から最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができなければならない。

それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとって重要課題になるが、そのためにこの授業では、教師が一方向的に講義するのではなく、学生に問題提起し、資料を提供し、それに基づいて積極的に考え、実践してもらう予定である。

授業計画

1. Introduction
2. 英語教育の基本問題
3. 英語教育の目的
4. 英語の指導目標
5. 英語教育の環境的要因
6. 学習者の要因
7. 教師の役割とよい教師の条件
8. 言語習得の理論上の諸問題
9. 英語スキルの習得と指導
10. 発音の指導
11. 文字と綴り字の指導
12. 語彙の指導
13. 文法の指導
14. リスニングの指導
15. まとめ

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学習

必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』研究社

参考図書

授業時に随時、指示、紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ			13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力に関する知識を深め、指導法の基礎知識を学ぶ。後半は語彙指導・文法のレッスンプランを立て、模擬授業を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性、国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

教師は、生徒が各自もっている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが、重要課題となるが、そうした各教育現場に応じた柔軟な適応能力を養うためには、知識の詰め込みだけでは十分ではない。この授業では、教師から学生への一方的な知識の伝授ではなく、以下の授業計画のリストにある各項目に関して、それぞれに研究テーマを課し、授業中の口頭発表、レポート提出を通して、学生が自発的に英語教育における諸問題に取り組む双方向的な授業を予定している。

授業計画

1. 英語スキルの習得と指導
2. ライティングの指導
3. オーラル・コミュニケーションの指導
4. 指導法の諸問題
5. 英語指導の原理
6. 教材研究と授業の準備
7. 授業案の作成と授業の進め方
8. テストと評価
9. 教育機器の活用
10. ネイティブ・スピーカーの活用
11. 教育実習に向けて
12. Lesson Plan
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学習

必ず予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』（研究社）

参考図書

授業時に、随時、指示および紹介する。

留意事項

- ① 課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。
- ② 課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
服部 幸正	選択	2				

授業の到達目標

英語を学習したり教えたりするために、英語についての知識を蓄えることが大切である。つまり、英語の構造やしきみはどのような規則と約束ごとから成り立っているかを知ることである。この授業では、みなさんが今までに蓄積してきた英語の知識を再整理し、さらに深めてもらうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を考え、学生間の協力を勧めてK（思いやり）を養いたい。

授業の概要

英語という“ことば”の諸相について「英語学」の分野で取り扱われる研究領域全般にわたって、次の授業計画に従って講義形式で解説・説明する。

授業計画

1. 英語はいつどのようにイギリスで使われ始めたか：英語の起原
2. 時代の経過と共に英語自体がどのように変容していったか：古期英語 中期英語 近代英語 現代英語
3. 世界の各地に拡散した英語には、それぞれどのような特徴が見られるか：アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、New Englishesなど
4. 英語の構造はどのように分析され説明されて来たか：英語の統語論
5. (1) ラテン語文法に基づく規範的伝統文法の考え方
6. (2) アメリカ構造言語学に基づく構造文法の考え方
7. (3) チョムスキー理論に基づく変形成文法の考え方
8. 以上の他に英語学で取り扱われる研究領域にはどのようなものがあるか。
9. (1) 音韻論の研究領域
10. (2) 形態論の研究領域
11. (3) 意味論の研究領域
12. (4) 語用論の研究領域
13. (5) 文体論の研究領域
14. 200年以上にわたる日本の英語教育はどのように展開されて来たか。
15. 21世紀の日本にとって英語の学習がなぜ必要であり大切なものか。

授業の方法

板書を多用した講義形式の授業である。

準備学習

英語学で使われる専門用語を「英語学辞典」などで調べたことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点は授業への出席状況を中心に評価する。

テキスト

プリント

参考図書

図書館の「英語学辞典」を活用すること。

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

yyhattori1106@yahoo.co.jp

展開科目〈英語教育科目(児童・中高)〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語音声学		13717	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	選択	2			

授業の到達目標

自然な英語の音声を観察し、分析する／自然な英語に見られる音声変化を観察し、理解する／英語らしいリズム等を実践する／TOEIC 頻出語彙・フレーズを音でインプットする。
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn (国際性) を養う。

授業の概要

Pronunciation I～IIIの授業で取り上げた英語の強勢、リズム、子音・母音、イントネーションなどの音声的特徴をより具体的、専門的に扱う。自然な英語が実際にはどのように聞こえるのかを観察し、頭で理解している音声と実際に聞こえる音声とが異なることを、理論・実践両面から確認する。あわせて、日本語の音声との共通点にも着目する。英語の発音を自分で分析できるようになること、またより相手に伝わりやすい英語の発話ができるようになることを目標とする。

授業計画

1. 導入
2. 文の区切り(ポーズ、チャンク)
3. 綴りと発音1)
4. 綴りと発音2)
5. 綴りと発音3)
6. 綴りと発音4)
7. 綴りと発音5)
8. 復習
9. 音の脱落1)
10. 音の脱落2)
11. 語の連結1)
12. 語の連結2)
13. 音の変化1)
14. 音の変化2)
15. まとめ

授業の方法

実践練習と理論的説明とで進める。

準備学習

英語の音と日本語の音が異なることを認識していること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする(遅刻も適宜減点する)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。

テキスト

『新TOEICテスト書き込みドリル〔フレーズ言いまわし編〕』(早川幸治著・桐原書店)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

発音に関する研究は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、クラスへの積極的参加はもちろん、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目(児童・中高)〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	EC	13721	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達過程を学習し、母語の習得過程から第二言語習得の効果的なあり方とは何かを考える。母語は自然に失敗することなく獲得されるが、第二言語は努力して学習しても、母語同様に習得するのが困難な場合が多く見受けられる。本授業では、赤ちゃん、子どものことばの発達過程を分析し、効果的な第二言語習得とは何かを考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

本授業前半においては、コミュニケーションの手段として使われる「ことば」とは何かについて、動物の伝達手段や赤ちゃんがことばを獲得していく母語習得の「学習」から、ことばの発達過程を考える。後半では、母語習得の「学習」と第2言語習得など「学習」のメカニズムの考察から、効果的な外国語学習法について考える。

授業計画

1. 動物の「ことば」
2. ことばの起源とことばの獲得
3. 赤ちゃんの「ことば」
4. ごっこ遊びと「ことば」の発達
5. 絵本・童話が育てる子どもの「ことば」と感性
6. ことばの習得と臨界期
7. ことばの発達 まとめとプレゼンテーション
8. 言語と言語学習
9. 母語習得と第2言語学習
10. 言語習得のメカニズム
11. ことばの獲得とことばの喪失「言語の意義」
12. 言語学習に影響を与える要因
13. 外国語学習に成功する学習者「個人差」
14. 外国語学習に成功する学習者「動機付け」
15. ことばの発達と効果的な外国語学習法 「まとめ」

授業の方法

理論を理解した上で、ことばの発達と学習の実際をパワーポイントで主体的に紹介する。

準備学習

テキストの指定されたページは読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。

テキスト

「教育支援の心理学」鈴木真雄、宇田光、谷口篤、石田靖彦、藤井恭子

参考図書

「外国語学習の科学」白井恭弘

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	EC	13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

2011年度より全国の小学校で英語活動が始まり、本年度で3年目になる。さらに3年生あるいは1年生から導入しようという動きもあり、すでに低学年から始めている市町村などもある。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、ワークショップ形式で、
1. 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方を考え
2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズ、ごっこ遊びなどの授業法を体験し
3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い、
指導者として「授業ができる」実践力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
2. 小学校英語活動と『身近にある異文化共生』
3. 小学校英語活動『年間カリキュラム作成』
4. ワークショップ(1)「チャンツ」を取り入れた授業法
5. ワークショップ(2)「チャンツ」プレゼンテーション
6. ワークショップ(3)「TPR」(身体で表現する活動)を取り入れた授業法
7. ワークショップ(4)「TPR」プレゼンテーション
8. ワークショップ(5)「ゲーム」を取り入れた授業法
9. ワークショップ(6)「ゲーム」プレゼンテーション
10. ワークショップ(7)「スキット」を取り入れた授業法
11. ワークショップ(8)「スキット」プレゼンテーション
12. 活動案作成 (1) 作成のポイント
13. 活動案作成 (2) 教材製作 発表準備
14. プレゼンテーション『模擬授業』
15. まとめと評価

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学習

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

参考図書 「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	EC	13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業作り・模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、
1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方と、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業法を考え、
3. 授業案作成と模擬授業、授業体験を通じて、
学生自身が将来の児童英語指導者としての資質を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「園児、低学年・中学年・高学年対象活動案作成」
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成 発表準備」
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「活動案発表と模擬授業」
4. 小学校英語活動観察実習(1)
5. 実習授業活動案作成(1)「教材研究」
6. 実習授業活動案作成(2)「教具・絵カード、ワークシート作成」
7. 実習授業活動案作成(3)「振り返りカード作成と評価の観点」
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 小学校英語活動体験実習(2)
10. 実習授業活動案作成(4)「教材研究」
11. 実習授業活動案作成(5)「教具・絵カード、ワークシート作成」
12. 実習授業活動案作成(6)「振り返りカード作成と評価の観点」
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 小学校英語活動体験実習(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学習

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）		13733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	1			

授業の到達目標

2011年度より小学校で外国語活動が義務教育化され、ようやく日本でも小学校英語活動が始まった。児童英語教育・キッズ・イングリッシュの最終段階として、幼稚園や小学校で児童英語教育を、実習として体験する。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した児童英語教育の理論と授業法、発達段階にふさわしい授業運営を、出前授業の形で、幼稚園・小学校現場で実習し、授業体験する。この体験から、理論を踏まえた授業の実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語教育学とは何かを体系的に考える。

実習計画

- ①ティームで授業案・教材教具を作成し、実習授業準備を行う。
- ②作成した授業案で自身が授業できるように、マイクロティーチングなどで練習する。
- ③実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。
- ④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

1. 小学校英語活動実習授業計画作成と教材研究
2. 第1回 小学校英語活動実習授業活動案作成
3. 第1回 小学校英語活動実習授業準備
4. 第1回 小学校英語活動実習体験模擬授業
5. 第1回 小学校英語活動実習体験
6. 第2回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
7. 第2回 小学校英語活動実習体験模擬授業
8. 第2回 小学校英語活動実習体験
9. 第3回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
10. 第3回 小学校英語活動実習体験模擬授業
11. 第3回 小学校英語活動実習体験
12. 第4回 実習授業活動案作成及び実習授業準備
13. 第4回 小学校英語活動実習体験模擬授業
14. 第4回 小学校英語活動実習体験
15. まとめと授業評価

授業の方法

理論、ワークショップでの授業法体験を活かし、自らが活動案を作成、実際小学校現場での英語活動を支援する

準備学習

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行っておく。

課題・評価方法

授業案、模擬授業、作成した教材教具、実習授業などを総合的に評価する

欠席について

参加型授業であるので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂
アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅲ		13737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	2			

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語教育の第1目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業と討論等を通して考える。

授業計画

1. 英語教育の目標と学習指導要領
2. 第1言語習得と第2言語習得
3. 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法～ダイレクト・メソッド
4. 主な外国語教授法の流れ(2) オーディオ・リンガル・メソッド
5. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(1)
6. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(2)
7. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(3)
8. 授業の構成、教材研究と授業の準備、学習指導案の作成と授業の進め方
9. 授業の工夫(1): 文法・文型の導入と展開活動
10. 授業の工夫(2): 語彙の導入、テキストの内容の導入と展開活動
11. 模擬授業の準備
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業のまとめ

授業の方法

講義、ワークショップ、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

準備学習

- ・Grammar I～IIIを徹底的に復習するなどして、文法力を向上させておくこと。
- ・中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

JACET教育問題研究会『新しい時代の英語科教育の基礎と実践—成長する英語教師を目指して—』（三修社）
土屋澄男（編著）他『新編 英語科教育法入門』（研究社）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目(児童・中高)〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅳ		13741	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	2			

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

英語科教育法Ⅰ～Ⅲで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等について討論を行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

授業計画

1. 学習指導要領における各科目の目標と内容
2. 模擬授業の準備(1)
3. 模擬授業の準備(2)
4. 模擬授業の準備(3)
5. 模擬授業の準備(4)
6. 評価とテスト(1)
7. 評価とテスト(2)
8. 模擬授業と授業観察(1)
9. 模擬授業と授業観察(2)
10. 模擬授業と授業観察(3)
11. 模擬授業と授業観察(4)
12. 模擬授業と授業観察(5)
13. 模擬授業と授業観察(6)
14. 模擬授業と授業観察(7)
15. 模擬授業の総括、教育実習に向けて

授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業を中心とする。各活動の後にはディスカッションを行う。

準備学習

- ・中学・高等学校の学習指導要領をよく読んでおくこと。

- ・英語科教育法Ⅰ～Ⅲの復習をよくしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

JACET教育問題研究会『新しい時代の英語科教育の基礎と実践—成長する英語教師を目指して—』(三修社)
土屋澄男(編著)他『新編 英語科教育法入門』(研究社)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、出席状況、日頃の学習態度を規準にして行う。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語教育科目(児童・中高)〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法		13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

外国語教育は、2011年度から小学校で必修化されている。小学校、中学、高校、大学では、どんな授業法で英語教育がなされているのか、発達の流れに沿って、外国語「教授法」について学習する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに使えない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か? 本授業では、外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法とは何か、学習者側においては効果的な外国語学習法とは何かを考える。

授業計画

1. 外国語授業法の歴史
2. 教授法の理論的背景と現代的意義(1)[Grammar-translation Method]
3. 教授法の理論的背景と現代的意義(2)[Oral Method][Oral Approach]
4. ディベート
5. 教授法の理論的背景と現代的意義(3)[Natural Approach]
6. 教授法の理論的背景と現代的意義(4)[Communicative Approach]
7. 教授法の理論的背景と現代的意義(5)[Task-Based Language Teaching]
8. 教授法の理論的背景と現代的意義(6)[CLILL]
9. ディベート
10. 英語教師の資質と能力「効果的な外国語教授法における指導者要因」
11. 学習者の特質「効果的な外国語学習者における学習者要因」
12. 小中連携 授業案作成
13. 模擬授業と評価(2)
14. 指導・授業・評価の一体化
15. まとめ「効果的な外国語学習法を考える」

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

準備学習

テキストは読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、模擬授業などプレゼンテーションを行い、評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

英語科教育のフロンティア —充実した実践を目指して— 青木昭六
ISBN978-4-905493-03-7

参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC入門 1			13801	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
土橋 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEICテスト400点到達を目指す。TOEIC攻略に必要な英語力（特にTOEIC必須単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につけることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

TOEICテスト400点到達を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。テストに出やすい文法事項の確認から始め、頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。リスニング、リーディング両パートとも学習を進めるが、特にスコアを伸ばしやすいリスニングと、その力を付けるための音読に力を入れる。目標スコア達成のため、授業では原則として小テストを毎回実施する。なお偶数年度と奇数年度はテキスト並びに授業計画を変更するので、2年連続の受講が可能である。

授業計画

1. ガイダンス、動作表現 (Part 1 対策) / メニュー
2. 人や物を指す表現 (Part 1 対策) / 招待状 / 単語テスト 1
3. 位置・状態を表す表現 (Part 1 対策) / 評価 / 単語テスト 2
4. 状態を表す受動態 (Part 1 対策) / グラフ / 単語テスト 3
5. 疑問詞を使った疑問文 (Part 2 対策) / 一覧表 / 単語テスト 4
6. Yes/No疑問文 (Part 2 対策) / 予定表 / 単語テスト 5
7. 否定疑問文・付加疑問文 (Part 2 対策) / 注文書・申込書 / 単語テスト 6
8. 提案・依頼・申し出の表現 (Part 2 対策) / 送り状 / 単語テスト 7
9. 選択疑問文とステートメント (Part 2 対策) / 指示文 / 単語テスト 8
10. 大意把握 (Part 2 対策) / 広告 / 単語テスト 9
11. 店での会話 (Part 2 対策) / 掲示 / 単語テスト 10
12. 電話での会話 (Part 2 対策) / 告知 / 単語テスト 11
13. Part 3 対策 / Part 5 対策 / 単語テスト 12
14. Part 3 対策 / Part 5 対策 / 単語テスト 13
15. Part 4 対策 / Part 6 対策 / 単語テスト 14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心

準備学習

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

新TOEIC (R) テスト書き込みドリル【リスニング編】、新TOEIC(R) テスト書き込みドリル【リーディング編】（以上2冊 桐原書店刊）、TOEICテストにできる単語600語（中経出版刊）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属のCDも用いて確実に復習をすること。・英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に講師の許可を得、指示に従うこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC入門 2			13805	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
土橋 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEIC 500点到達を目指す。TOEIC攻略に必要な英語力（特にTOEIC必須単語と読解力）の養成と問題への取り組み方、学習のコツを身につけることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

TOEIC入門1で習得した知識を元にし、さらにレベルの高いリスニング、リーディング問題に取り組み、問題形式に慣れる。またテキスト内で網羅されないPart 5、Part 6についてもプリント教材を使用して問題演習を重ねる。授業では小テストを原則として毎回実施する。なお偶数年度と奇数年度はテキスト並びに授業計画を変更するので、2年連続の受講も可能である。

授業計画

1. オフィスでの会話 1-1 (Part 3 対策) / 求人広告
2. オフィスでの会話 1-2 (Part 3 対策) / Eメール-1 / 単語テスト 15
3. オフィスでの会話 2-1 (Part 3 対策) / Eメール-2 / 単語テスト 16
4. オフィスでの会話 2-2 (Part 3 対策) / ビジネスレター / 単語テスト 17
5. 留守番電話のメッセージ (Part 4 対策) / 社内回覧-1 / 単語テスト 18
6. スピーチ、トーク (Part 4 対策) / 社内回覧-2 / 単語テスト 19
7. アナウンス-1 (Part 4 対策) / 記事 / 単語テスト 20
8. アナウンス-2 (Part 4 対策) / 注文書とEメール-1 / 単語テスト 21
9. ガイドツアー (Part 4 対策) / 注文書とEメール-2 / 単語テスト 22
10. 広告 (Part 4 対策) / 予定表とFax / 単語テスト 23
11. リスニングセクション総合演習-1 / 求人広告とビジネスレター-1 / 単語テスト 24
12. リスニングセクション総合演習-2 / 求人広告とビジネスレター-2 / 単語テスト 25
13. Part 1 対策 / Part 5 対策 / 単語テスト 26

14. Part 2 対策 / Part 5、6 対策 / 単語テスト 27
15. Part 3 対策 / Part 6 対策 / 単語テスト 28

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心

準備学習

・小テストの準備をしっかりと行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

新TOEIC (R) テスト書き込みドリル【リスニング編】、新TOEIC (R) テスト書き込みドリル【リーディング編】（以上2冊 桐原書店刊）、TOEIC (R) テストにできる単語600語（中経出版刊）※3冊とも春学期から継続使用する

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキストに付属のCDも用いて確実に復習をすること。・英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に講師の許可を得、指示に従うこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（初等）			13809	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

保育・教育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職・保育職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義と教師（保育者）の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師（保育者）への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育とは何か……人間形成と教師（保育者）の役割
3. 教職の意義
4. 教職の歴史
5. 保育・初等中等教育と教員
6. 教師（保育者）に求められる資質と能力
7. 保育士の制度的位置づけ、教員の身分及び服務義務
8. 教員の職務について（1）
9. 教員の職務について（2）
10. 教育課程とは
11. 障害を受けている子どもの教育と課題
12. 開かれた保育所・幼稚園・学校づくり・地域社会との連携
13. 子どもと保護者・保育・教育の現状と課題

14. 優れた教師・魅力的な教師（保育者）を目指して
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

広岡義之編『新しい教職概論・教育原理』関西学院大学出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学	EC		13813	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を目指す。

授業の概要

不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいのかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的課題をとりあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

1. 子どもの問題行動の理解と援助ー不登校
2. 子どもの問題行動の理解と援助ーいじめ
3. 子どもの問題行動の理解と援助ー虐待
4. 子どもの問題行動の理解と援助ー摂食障害・対人恐怖
5. 教師と児童生徒の人間関係
6. 家庭的背景の理解
7. 学級への適応
8. 発達観と教育
9. 人格の形成
10. 自己理解を育てる
11. 感情を育てる
12. 社会性と道徳性
13. 教育評価と学習指導
14. 発達障害の理解ーADHD、学習障害
15. 発達障害の理解ー自閉症、アスペルガー症候群

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学習

これまで受けてきた家庭教育と学校教育について考えをまとめておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『こころの発達と教育臨床』澤田瑞也 ほか著 2001年、培風館

参考図書

随時紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評定は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 1	a		13817	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
土橋 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC 600点以上を取得するために必要な英語力（特にTOEIC必須単語と速読力）の習得、また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける技術の習得を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

公式問題集Vol.4を使用して問題練習を重ね、実際のTOEICテストに出題される問題のレベルに慣れていく。解ける問題とそうでない問題を選別する練習（TOEICは200問全てに100%の力を注ぐ必要はない）、知らない単語に行きあたっても文章の流れに沿って意味を推測する練習などを行うことによってTOEICに対する意識を根底から変え、目標スコアを目指す。授業では小テストを原則として毎回実施する。なお偶数年度と奇数年度はテキスト並びに授業計画を変更するので、2年連続の受講が可能である。

授業計画

1. ガイダンス、【TEST 1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
2. Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 1
3. Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト 2
4. Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト 3
5. Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 4
6. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 5
7. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 6
8. 【TEST 2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 7
9. Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 8
10. Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト 9
11. Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト 10
12. Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 11
13. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 12
14. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 13
15. Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 14

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心

準備学習

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC (R)テスト新公式問題集Vol.4、新TOEIC (R)テスト出る順で学ぶポキャプラリー990（講談社刊）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属のCDも用いて確実に復習すること ・英和辞書（紙版、電子辞書）を持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に許可を得、指示に従うこと

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 1	b		13817	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

今日TOEICの重要性はますます増えてきているため、スコアを伸ばすスキルを身に付けることが必要となってきている。このクラスではTOEICのテストで問題慣れし、課題や弱点を把握することを目指す。基本的な文法事項を再確認し、語彙力をつけながら、総合的に出題形式に慣れることに重点を置く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストのユニットに沿って進めてゆく。毎回のユニットでは頻出ジャンルに則して全7パートのうち、3つか4つのパートに焦点が当てられている。該当パートのポイントを説明し、実践問題を解いたのちに解説をする。授業で学習した語彙は、毎週小テストに出題されるため、確実に語彙力を伸ばすことができる。

授業計画

1. introduction
2. UNIT 1 Shopping
3. UNIT 2 Daily Life
4. UNIT 3 Transportation
5. UNIT 4 Jobs
6. UNIT 5 Meals
7. UNIT 6 Communication
8. Review 1
9. UNIT 7 Fun
10. UNIT 8 Office Work
11. UNIT 9 Meeting
12. UNIT 10 Travel
13. UNIT 11 Finance

14. UNIT 12 Business

15. Review 2

授業の方法

テキストに沿って進めてゆく。

準備学習

必ず指定された箇所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき、2点減点とする

テキスト

First Time Trainer for the TOEIC TEST, CENGAGE Learning

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 2	a		13821	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
土橋 有香	選択	2				

授業の到達目標

TOEIC 700点以上を取得するために必要な英語力（特にTOEIC必須単語と速読力）の習得、また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける技術の習得を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

評判の高い「TOEICテスト究極の模試600問」を使用して問題練習を重ねる。試験中の時間管理の仕方、解くべき問題の見極めに気を配ることを意識しながら目標スコアを目指す。授業では小テストを原則として毎回実施する。なお偶数年度と奇数年度はテキスト並びに授業計画を変更するので、2年連続の受講が可能である。

授業計画

- 1.【TEST 1 使用】Part 3 対策、Part 5 対策
2. Part 4 対策、Part 5 対策／単語テスト 1 5
3. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 1 6
4. Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 1 7
5. Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 1 8
6. Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 1 9
- 7.【TEST 2 使用】Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト 2 0
8. Part 4 対策、Part 5 対策／単語テスト 2 1
9. Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト 2 2
10. Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト 2 3
11. Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 2 4
12. Part 7（2つの文書）対策／単語テスト 2 5
13. Test 1、Test 2 総復習／単語テスト 2 6
- 14.【TEST 3 使用】Listening全パート／単語テスト 2 7
15. Reading全パート／単語テスト 2 8

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの作業が中心

準備学習

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

TOEIC (R)テスト究極の模試600問（アルク刊）、新TOEIC (R)テスト出る順で学ぶボキャブラリー990（講談社刊）※単語集は春学期から継続使用

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属のCDも用いて確実に復習すること ・英和辞書（紙版、電子辞書）を持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に許可を得、指示に従うこと

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 2	b		13821	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

今日TOEICの重要性はますます増えてきているため、スコアを伸ばすスキルを身に付けることが必要となってきた。TOEIC 1に続き、このクラスではTOEICのテストで問題慣れし、課題や弱点を把握することを目指す。基本的な文法事項を再確認し、語彙力をつけながら、総合的に出題形式に慣れることに重点を置く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

テキストのLessonに沿って進めてゆく。毎回の授業ではListeningとReading各パートの注意事項の解説に重点がおかれる。授業で学習した語彙は、毎週小テストに出題されるため、確実に語彙力を伸ばすことができる。

授業計画

1. introduction
2. Lesson 1,2
3. Lesson 3,4
4. Lesson 5,6
5. Lesson 7,8
6. Lesson 9,10
7. Lesson 11,12
8. Review
9. Lesson 13,14
10. Lesson 15,16
11. Lesson 17,18
12. Lesson 19,20
13. Lesson 21,22
14. Lesson 23,24

15. Review

授業の方法

テキストに沿って、毎回Listening、Readingのパートを進めてゆく。

準備学習

必ず指定された箇所を予習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Navigator for the TOEIC Test, Nan'un·Do

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEFL			13825	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

TOEFLの得点アップを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養う。

授業の概要

特に英文読解とリスニングに焦点をあて基礎固めをする。試験ではかなりの長文を限られた時間内に読むことが要求されるため、辞書なしで長文を読み、大意を掴む練習を重ねる。リスニングに関しては、試験によく出される単語を中心にボキャブラリーを増やしていく。

授業計画

1. introduction : Skim & Scan Part 1
Listening 1
2. Skim & Scan Part 2
Listening 2
3. Chapter 1 Part 1
Listening 3
4. Chapter 1 Part 2
Listening 4
5. Chapter 2 Part 1
Listening 5
6. Chapter 2 Part 2
Listening 6
7. Chapter 3 Part 1
Listening 7
8. Chapter 3 Part 2
Listening 8
9. Chapter 4 Part 1
Listening 9
10. Chapter 4 Part 2
Listening 10
11. Chapter 5 Part 1
Listening 11
12. Chapter 5 Part 2
Listening 12

13. Chapter 6 Part 1
Listening 13
14. Chapter 6 Part 2
Listening 14
15. Review
Listening 15

授業の方法

リーディング、リスニングともテキストに沿って進めてゆく。

準備学習

必ず指定された箇所を予習してくる。予習をしていない場合は授業に出席することはできない。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Technical Skills for Extensive and Intensive Reading, EIHOSHA
TOEFL Short Listening Course, SEIBIDO

教員連絡先

hirano@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等		13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を歴史的な背景をふまえて、理解するとともに「道徳の時間の指導」のために必要な基本的事項の習得する。そして、実際にねらいにそった資料を選び、簡単な指導案を作成することができる。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA(自律)とE(倫理)を目指します。

授業の概要

日本の道徳教育の変遷について概観し、そこから今日求められている道徳教育のあり方を考察するとともに、道徳教育の本質及び目標、外国の道徳教育の実情とわが国の道徳教育の比較などを取り上げ、道徳教育の理解を深める。そして、実際に「道徳の時間の指導」のために必要な、指導案の作成及び指導方法や評価についても取り上げ検討する。

授業計画

1. はじめに 一 道徳・道徳教育とは一
2. 道徳教育の歴史① 一 明治の道徳教育一
3. 道徳教育の歴史② 一 大正・昭和戦前の道徳教育一
4. 道徳教育の歴史③ 一 戦戦後の道徳教育一
5. 道徳教育の本質と目標
6. 道徳教育の内容
7. 道徳教育の全体構想と計画
8. 道徳の時間の指導① 一 年間指導計画の作成一
9. 道徳の時間の指導② 一 学習指導案の作成(その1)一
10. 道徳の時間の指導③ 一 学習指導案の作成(その2)一
11. 道徳の時間の指導④ 一 学習指導案の作成(その3)一
12. 道徳の時間の指導⑤ 一 学習指導の方法一
13. 道徳教育の評価
14. 諸外国の道徳教育
15. まとめと道徳教育の今日的課題

授業の方法

講義を中心にディスカッションや発表も取り入れる。

準備学習

自ら体験した道徳教育について思い返しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点50%のうち、出席は30%、小テスト20%とする。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領解説 道徳編」(日本文教出版)
文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総則編」(東山書房)

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

教師をめざす学生として、新聞・テレビ等の教育関連報道に関心をもち、授業に臨むこと。

現代人間学部 観光ホスピタリティ学科
専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		15105	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

現在の航空業界の全体像を理解していく。演習では各自課題を見つけその課題の発表を行い全員で討議できるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

テキストを参考に現在の航空産業の仕組みや問題点を理解する。その中から世界の代表的な航空会社や成長してきた格安航空会社、世界の空港、航空業界のホスピタリティなど航空業界の問題を各自の課題の中心にしなが、異文化理解やホスピタリティ産業全体に関するテーマも含め、各人が発表を行う。課題テーマの見つけ方と発表演習を中心にする。

授業計画

1. 演習概要の説明。オーストラリア研修でのゼミ課題発表
2. オーストラリア研修でのゼミ課題発表の検討
3. テキストと課題・テーマの見つけ方、発表について
4. 各自の課題の発表演習
5. 各自の課題の発表演習
6. 各自の課題の発表演習
7. 各自の課題の発表演習
8. 参考文献と論文の書き方
9. 各自の課題の発表演習
10. 各自の課題の発表演習
11. 各自の課題の発表演習
12. 各自の課題の発表演習
13. 各自の課題の発表演習
14. 夏期休暇中の各自のテーマ設定について
15. まとめ

授業の方法

各自でテーマ・課題を見つながら要約と発表演習を中心にする。

準備学習

世界の航空各社・LCCの動向や空港問題、オープンスカイ政策や

ホスピタリティ産業全体についてのニュースなど毎日注目しておく。テキストは基本的に各自が事前に読む。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点減点し正当な理由以外の欠席は認めない。

テキスト

『図解これからの航空ビジネス早わかり』 戸崎 肇（2010）中経出版

参考図書

『航空産業入門』（株）ANA総合研究所編（2008）東洋経済新報社

留意事項

発表当日は必ず出席の事。ゼミでは自発性、積極性、協調性などが重要事項になり、担当課題の発表とそれに対する参加者の意見発表などを評価する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		15105	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

宿泊業、料飲業、プライダル業などホスピタリティ産業における「過去・現在・未来」を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」＝問題解決能力・調査能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を目標とし、総合的人間力育成を図る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)を養います。

授業の概要

演習は共通テーマ・個別テーマを設ける。受講生は調査、考察、発表を行う。演習を通して4年次の卒業研究のテーマを見つける予備段階とする。尚、前期・後期を通じてフィールドワーク（ホテルイベント見学等、土曜日・日曜日になることもある）も行う。

授業計画

1. ガイダンス
2. テーマの設定
3. テーマの設定
4. 発表と質疑応答
5. 発表と質疑応答
6. 発表と質疑応答
7. 発表と質疑応答
8. 発表と質疑応答
9. 発表と質疑応答
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 発表と質疑応答
13. 発表と質疑応答
14. 発表と質疑応答
15. まとめ

授業の方法

各自の研究発表を中心に行います。

準備学習

日頃より新聞をよく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は認めない。積極的な参加を求める。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング（ピアソン・エデュケーション）/コトラーのマーケティング講義（ダイヤモンド社）/ジェフリーロビンソン著「THE HOTEL」

留意事項

演習では積極的な授業参加が求められる。パワーポイントが使えるようにすること。フィールドワークが土曜日、日曜日に実施されることもある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		15105	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	必修	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光」「ホスピタリティ」「観光事業」
 学科のねらいである「tourism」「hospitality」に関する「調査」「研究」、これらに関わる実学研修の実施。

授業の概要

目標達成のため「演習Ⅰ」では、
 1. 観光・ホスピタリティに関する基本用語の理解
 2. サービス産業の現状把握
 3. 学外研修の実施
 4. 夏期宿泊研修に関わる準備調査・研究
 これらに関して、各自に課題を設定「調べ」「まとめ」「話す」ことを重要視し、各自のレベルアップを図る。

授業計画

1. 「演習Ⅰ」の心構え ガイダンス
2. 基礎研究Ⅰ
3. 基礎研究Ⅱ
4. 「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」の発表・討論①
5. 「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」の発表・討論②
6. 「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」の発表・討論③
7. 基礎研究Ⅲ
8. 「基礎研究Ⅲ」の発表・討論①
9. 「基礎研究Ⅲ」の発表・討論②
10. 「基礎研究Ⅲ」の発表・討論③
11. 「基礎研究Ⅲ」の発表・討論④
12. 基礎研究Ⅳ
13. 実地調査・研究Ⅰ
14. 実地調査・研究Ⅱ
15. 実地調査・研究Ⅲ

授業の方法

到達目標に添った基本的な講義と個人研究課題に添った各自の「調べる」「まとめる」「話す」のレベルアップと「討論」の実施。

準備学習

図書館利用などを図り、「調べる」力を養成する。

課題・評価方法

出席評価：30%、研究・発表評価：50%、コミュニケーション評価：20%

欠席について

大学の規定に従う。原則欠席を認めない。

テキスト

「観光・旅行用語辞典」北川宗忠編、ミネルヴァ書房

参考図書

「観光・旅の文化」北川宗忠著、ミネルヴァ書房
 「観光 交流新時代」北川宗忠著、サンライズ出版
 「現代の観光事業」北川宗忠編、ミネルヴァ書房

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		15109	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰの現在の世界の航空業界全般の流れの知識をベースにして、演習Ⅱでは特に自分が興味を持った分野についてさらにテーマを設定し演習発表できるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

航空業界、ホスピタリティ産業、異文化理解に関する事項を中心に各自の興味のあるテーマを設定し発表していく。演習発表を通して4年次の卒業研究のテーマを見つける予備段階に位置づける。なお演習の一環として、都合がつく限り関空など学外調査・見学なども途中で実施する予定である。（学外調査・見学は都合により土曜日や日曜日になることもある）。

授業計画

1. 各自の夏期課題テーマの発表(その1)
2. 各自の夏期課題テーマの発表(その2)
3. 各自の研究計画のアウトライン設定
4. 卒業研究論文の書き方・参考文献収集について
5. 各自の個人テーマの絞込みについて
6. 各自のテーマ課題演習
7. 各自のテーマ課題演習
8. 各自のテーマ課題演習
9. 各自のテーマ課題演習
10. 各自のテーマ課題演習
11. 各自のテーマ課題演習
12. 各自のテーマ課題演習
13. 各自の研究計画の調整と確認
14. 各自の研究計画の調整と確認
15. まとめ

授業の方法

各自の研究計画のアウトラインを設定しテーマを絞込み、テーマ課題演習の発表を中心にする。

準備学習

世界の航空各社・LCCの動向や空港問題、オープンスカイ政策やホスピタリティ産業全体のニュースを毎日注目しておく。テキストは各自で読む。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は1回5点減点し正当な理由以外の欠席は認めない。

テキスト

特に指定しない。各自のテーマに沿って随時紹介する。

参考図書

『航空産業入門』（株）ANA総合研究所（2008）東洋経済新報社
 『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎（2010）同文館出版

留意事項

発表当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性、積極性、協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		15109	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

宿泊業、料飲業、プライダム業などホスピタリティ産業における「過去・現在・未来」を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」＝問題解決能力・調査能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を目標とし、総合的人間力育成を図る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)を養います。

授業の概要

演習は共通テーマ・個別テーマを設ける。受講生は調査、考察、発表を行う。演習を通して4年次の卒業研究のテーマを見つける予備段階とする。高、前期・後期を通じてフィールドワーク（ホテルイベント見学等、土曜日・日曜日になることもある）も行う。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発表と質疑応答
3. 発表と質疑応答
4. 発表と質疑応答
5. 発表と質疑応答
6. 発表と質疑応答
7. 発表と質疑応答
8. 発表と質疑応答
9. 発表と質疑応答
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 発表と質疑応答
13. 発表と質疑応答
14. 発表と質疑応答
15. まとめ

授業の方法

各自の研究発表を中心に行います。

準備学習

日頃より新聞をよく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は認めない。積極的な参加を求める。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング（ピアソン・エデュケーション）/コトラーのマーケティング講義（ダイヤモンド社）/ジェフリーロビンソン著「THE HOTEL」

留意事項

演習では積極的な授業参加が求められる。フィールドワークが土曜日、日曜日に実施されることもある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		15109	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	必修	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光」「ホスピタリティ」「観光事業」
 学科のねらいである「tourism」「hospitality」の「調査」「研究」「発表」力の向上を図る。

授業の概要

目的達成のため、

1. 観光・ホスピタリティに関する用語の理解、関連用語の理解
2. 夏期学外宿泊研修に関わる調査・研究のまとめ
3. 2の発表・討論の実施
4. 学外実学調査・研究の実施
5. 「調べる」「まとめる」「発表する」ことにより、各自のレベル発表を図る

授業計画

1. 「演習Ⅱ」の心構え ガイダンス
2. 夏期宿泊研修の総まとめ①
3. 夏期宿泊研修の総まとめ②
4. 夏期宿泊研修の発表・討論①
5. 夏期宿泊研修の発表・討論②
6. 個人課題研究の発表①
7. 個人課題研究の発表②
8. 個人研究課題の発表③
9. 個人研究課題の発表④
10. 学外実地研修の実施
11. 学外実地研修のまとめ
12. 学外実地研修の発表
13. 卒業研究作成について

14. 卒業研究「個人研究課題」の設定
15. 「演習Ⅱ」のまとめ

授業の方法

共同研究と個人研究のそれぞれを通じて「調べ」「まとめ」「発表」「討論」の形で、各自のレベルアップを図る。

準備学習

最善の発表が出来るよう「調べ」「まとめ」の準備を充分にする。

課題・評価方法

出席評価：30%、研究・発表：50%、コミュニケーション力：20%

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究の作成に向けて各自のテーマを決定し、文献、資料収集、調査などを毎回積み重ねながら、各自の最終の方向性を確立することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

前半で各自の研究テーマが絞り込めるよう、参考論文などの文献、資料の調査、収集を図りながら行程表を作成する。後半で各自のテーマにそって現状を経過発表し、最終的な方向性を確立していく。

授業計画

1. 演習Ⅲのガイダンス
2. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
3. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
4. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
5. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料調査と課題の発見
6. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料調査と課題の発見
7. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料調査と課題の発見
8. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料調査と課題の発見
9. 各自の研究テーマの参考論文、文献、資料調査と課題の発見
10. 各自の研究テーマの方向性についての確認と質疑応答
11. 各自の研究テーマの方向性についての確認と質疑応答
12. 各自の研究テーマの方向性についての確認と質疑応答
13. 各自の卒業最終テーマ決定
14. 夏期休業中における研究テーマの準備について
15. まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについての発表演習・質疑応答を中心にする。

準備学習

各自の研究テーマにそったトピックについて文献・資料・新聞記事を精読する

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学則に準じる。

テキスト

各自の研究テーマに沿って指示、推薦をする。

参考図書

各自の研究テーマに沿って指示、推薦をする。

留意事項

主体的に各自がテーマを設定し、参考文献、資料の収集を早め始めること。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとして、ホスピタリティ産業の戦略的マーケティングを考えていく。受講生がこれまで取り上げたテーマをより探求する。（演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ研究課題の全体像を描く）このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)を養います。

授業の概要

個人テーマを中心に資料収集、レポートの作成、プレゼンテーションに取り組む。研究の進捗状況を踏まえ、積極的にフィールドワークを行い、ホスピタリティ産業の現状を認識する。

授業計画

1. ガイダンス及び研究計画の立案
2. 研究計画のスケジュールの発表
3. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
4. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
5. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
6. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
7. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
8. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
9. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
10. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
11. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
12. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
13. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
14. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
15. まとめ

授業の方法

各自の研究発表を中心に行います。

準備学習

新聞・雑誌などから情報収集を行う事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は認めない。積極的な参加を求める。

参考図書

適宜紹介

留意事項

積極的な授業参加を求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c	15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	必修	2			

授業の到達目標

観光とは、ただ視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

観光を考える上で欠かせない「文化」についての研究を行う。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

発表・グループディスカッションが中心の授業となる。

準備学習

毎回、自分の発表分のレジュメを用意する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時紹介する。

参考図書

随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a	15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
有村 理	必修	2			

授業の到達目標

各自が行程表にそって卒業研究を完成させるように指導する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるよう指導する。各自が研究テーマの経過発表をしながらゼミ生相互に情報も共有し、テーマに対するアプローチの方法などをお互いに参考にし、各自が主体的に卒業研究の完成に取り組んでいくことが望まれる。

授業計画

1. 演習Ⅳのガイダンス
2. 各自の研究テーマの経過発表と構成内容の確認
3. 各自の研究テーマの経過発表と構成内容の確認
4. 各自の研究テーマの経過発表と構成内容の確認
5. 各自の研究テーマの経過発表と構成内容の確認
6. 各自の研究テーマの中間発表と構成内容の確認
7. 各自の研究テーマの中間発表と構成内容の確認
8. 各自の研究テーマの構成内容の最終確認
9. 各自の研究テーマの構成内容の最終確認
10. 各自の研究テーマの構成内容の最終確認
11. 卒研暫定提出・構成内容確認と講評
12. 卒研の最終修正
13. 卒研の最終修正
14. 卒研の発表
15. 卒研の発表とまとめ

授業の方法

各自の卒研テーマの構成内容の発表と確認を交え、最終の卒業研究を完成させる。

準備学習

各自の行程表にそって研究テーマに関する参考文献・資料・新聞などを精読する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学則に準じる。

参考図書

各自の研究テーマにそって適宜指示する。

留意事項

主体的に卒業研究テーマの完成に取り組むこと。参考文献と資料は早めに準備し精読していくこと。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとして、ホスピタリティ産業の戦略的マーケティングを考えていく。受講生がこれまで取り上げたテーマをより探求する。(演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ研究課題の全体像を描く。このクラスはKAISEIパーソナリティのA(自律)を養います。

授業の概要

卒業研究を前提に個別テーマに取り組む。研究の進捗状況を発表し、検討会をおこなう。

授業計画

1. ガイダンス・研究テーマについて
2. 研究テーマについて
3. 個別研究の進捗状況の発表
4. 個別研究の進捗状況の発表
5. 個別研究の進捗状況の発表
6. 個別研究の進捗状況の発表
7. 個別研究の進捗状況の発表
8. 個別研究の進捗状況の発表
9. 個別研究の進捗状況の発表
10. 個別研究の進捗状況の発表
11. 個別研究の進捗状況の発表
12. 個別研究の進捗状況の発表
13. 個別研究の進捗状況の発表
14. 個別研究の進捗状況の発表
15. まとめ

授業の方法

各自の研究発表を中心に行います。

準備学習

新聞・雑誌などで情報収集

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は認めない。

参考図書

適宜紹介

留意事項

積極的な参加を求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)とを養う。

授業の概要

観光を考える上で欠かせない「文化」についての研究を行う。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

発表・グループディスカッションが中心の授業となる。

準備学習

毎回、自分の発表分のレジュメを用意する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目／基礎科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光とホスピタリティ			15201	I	集中	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

サービス業に従事することを目指す者として身につけたいホスピタリティ・マインドとマナーを学習する。また、観光関連事業の各業種別の実務の基本を学び、「夢」を「現実」にするパワーを体得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を目指す。

授業の概要

1964年の海外旅行の自由化から、間もなく50年。経済の動向、戦乱、テロ、伝染病等の様々な出来事に翻弄されながらも成長を続けてきた観光業界。それは、まさにホスピタリティ・マインドの成せる技であった。観光業界での30余年にわたる経験に基づいて観光とホスピタリティの相関関係を論じていく。

授業計画

1. ガイダンス・第一印象の重要性
2. 演習としての自己紹介、第一印象についてのまとめ
3. 日本人ならではのホスピタリティ・マインドと国際感覚の両方をみがく
4. 「ホスピタリティ」「サービス」の概念
5. ホスピタリティサービス産業の種類、歴史、特性、現状、将来
6. 旅行会社における業務(1)
7. 旅行会社における業務(2)
8. ホテル、旅館における業務
9. 運輸機関における業務
10. 冠婚葬祭関係の業務
11. ホスピタリティ・マインドの育て方
12. 美しい日本語を使う重要性と、外国語を学ぶ意義
13. トラブル、クレーム処理、危機管理能力の育て方と自己の精神力維持法
14. 国際社会における日本、日本におけるホスピタリティサービス産業
15. まとめ

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学習

日帰りでも良いので、機会があるごとに観光にでかけること。その際に、関連事業に携わる人々を観察すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席と積極的な授業参加を求める。欠席は1回につき5点の減点とする。

テキスト

特に使用しない。

参考図書

授業において紹介する。

留意事項

サービス業において時間励行は非常に大切なことなので、遅刻しないように最大限の努力をすること。出席と講義における学習態度と意欲を重視する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp, ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			15341	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

文化を比較することは、その文化を背景とする社会を比較することであり、その社会を構成する人とその暮らしを比較することである。本講義では、文化という抽象的な概念の比較を、身近な生活の比較をすることで、現代国際社会の多民族・多文化社会における「異文化理解」とは何か、「共生」とは何かを考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

日本は、古来、外来文化を受け入れ独自のものに変容させてきた。授業では、まず、異文化交流の歴史的な視点を、生活の中に根付いている食文化やルイス・フロイスの日欧の比較から考える。次に、複言語・複文化主義が目標とされるEUやアジア諸国などとの比較から、現代社会における多民族・多文化共生の視点から、自文化と異文化を考える。授業では、講義内容を参考に、学生自身が、自文化と異文化を比較し紹介するパワーポイントを作成、自文化を大事にする自尊の感情と多文化社会の中での共生を発信する。

授業計画

1. 異文化理解「世界の中の日本文化と日本の中の世界文化」
2. 比較文化史から見る日本と世界「ルイス・フロイスが見た16世紀の日本」
3. 「食」文化比較(1)「小麦文化と米文化」
4. 「食」文化比較(2)「食事の仕方の日欧比較」
5. 「食」文化比較(3)旅行案内パワーポイント作成「世界の食」
6. 「衣」文化比較(1)民族服と気候・風土の「昔」と「今」
7. 「衣」文化比較(2)日本と西欧の「香り」
8. 「住」文化比較(1)世界の建物と日本の建物
9. 「住」文化比較(2)日本の庭・世界の庭
10. 「音楽」文化比較
11. 「遊び」文化比較「日本の遊び世界の遊び」
12. 「伝統芸能」文化比較「獅子舞」
13. 「女性と結婚」の文化比較
14. 「多文化」紹介 パワーポイント作成・発表
15. 「多文化」紹介 パワーポイント作成・発表

授業の方法

「比較」という視野から自文化理解・異文化理解のパワーポイントを作成、プレゼンテーションをする

準備学習

パワーポイント、資料など、発表の準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う。

テキスト

「比較文化論 異文化の理解」山口 修、齋藤和枝 世界思想社

留意事項

講義内容を踏まえた比較文化紹介のパワーポイントを作成し発表する。平常点として評価するので欠席しないこと。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光中国語入門			15349	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
橋本 由美子	選択	2				

授業の到達目標

観光サービス業及び個人観光に必要な語彙と会話を学ぶ。訪れる側と迎える側の立場から中国の文化及び風俗習慣を理解していく。テキストの中の内容をまず身につけて、コミュニケーション力を養う。

授業の概要

中国語の中の一番大事な発音部分を繰り返し練習する。一人の観光客として、よく使われる単語、会話と作文を学ぶ。コミュニケーション能力を向上させるために中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。

授業計画

1. 発音練習。会話：貨幣と両替
2. 発音練習。会話：貨幣と両替
3. 発音練習。会話：料理を注文する
4. 発音練習。会話：料理を注文する
5. 発音練習。会話：電話をかける
6. 発音練習。会話：電話をかける
7. 復習(単語の読み書き、文法の理解、会話練習)
8. 作文：上海の旅1
9. 作文：上海の旅1
10. 作文：上海の旅1
11. 復習(単語の読み書き、文法の理解、記述練習)
12. 作文：上海の旅2
13. 作文：上海の旅2
14. 作文：上海の旅2

15. 全体復習(単語、文法、記述、会話)

授業の方法

まずは発音の指導を行う。次は語彙、文法及び文型の説明をする。最後に読む練習と話す練習を行う。

準備学習

毎回の内容を復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う

テキスト

プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語入門			15353	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

観光客としてフランス（主にパリ）へ旅行するのために最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランスの国自体、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について書かれたテキストを講読する。同時に、少し長めの会話文を通して日常生活に役立つ表現を使いこなせるようにしたい。余裕があれば、ホテルで研修中の4人の若者が主人公のビデオ教材（DVD）を通して、会話や文法を再確認しながら、フランスのイメージを具体化する。希望者に応じて仏検指導も行う。

授業計画

1. オリエンテーション「フランス1」「自己紹介」
2. 「フランス2」「予約する」
3. 「フランス3」「待ち合わせ」
4. 「パリ1」「目的地への行き方1」
5. 「パリ」「目的地への行き方2」
6. 「パリ」「インタビューをする1」
7. 「カフェ」「インタビューをする2」
8. 「カフェ」「インタビューをする3」
9. 「カフェ」「インタビューをする4」
10. 「学生生活とフランスの教育システム」「レストランで1」
11. 「学生生活とフランスの教育システム」「レストランで2」
12. 「学生生活とフランスの教育システム」「レストランで3」
13. 「パン、ワイン、チーズ」
14. 「パン、ワイン、チーズ」 フランス映画鑑賞
15. 「パン、ワイン、チーズ」 フランス映画鑑賞

授業の方法

多彩なテーマについて書かれたフランス語文の講読と関連発表による。

準備学習

フランス語1～8で既習のフランス語の会話、文法事項を見直しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

病気、やむを得ない事情を除いて授業出席は必要不可欠である。欠席をすると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicallement、駿河台出版社（フランス語5～8での使用テキストと同じ）

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

当該授業には、フランス語1～8若しくはフランス語1～6を履修しているか、それと同等のフランス語力を備えた学生のみが履修可能である。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光中国語			15429	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
橋本 由美子	選択	2				

授業の到達目標

観光サービス業及び個人観光に必要な語彙と会話を学ぶ。中国の漢詩と文学作品の紹介を通じて、中国の文化・風俗習慣を広く理解していく。自己紹介が流暢にできるようにして、中国語の表現力とコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

中国語の中の一番大事な発音部分を繰り返し練習する。具体的な職場を想定し、仕事に役に立つ中国語を会話及び作文の形で習得する。異文化を深く理解するために、中国の文学名作を紹介し、中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験向けの指導を行う。

授業計画

1. 発音練習。職場対応練習：「関西空港」
2. 発音練習。職場対応練習：「関西空港」
3. 発音練習。職場対応練習：「関西空港」
4. 発音練習。職場対応練習：「関西空港」
5. 発音練習。職場対応練習：「旅行社」
6. 発音練習。職場対応練習：「旅行社」
7. 発音練習。職場対応練習：「旅行社」
8. 復習(単語、文法、会話練習)
9. 職場対応練習：「貿易会社」
10. 職場対応練習：「貿易会社」
11. 職場対応練習：「貿易会社」
12. 「自己紹介」・中国語検定試験問題の指導
13. 「自己紹介」・中国語検定試験問題の指導

14. 「自己紹介」・中国語検定試験問題の指導
15. 全体復習(聞き取り、読み取り、中国語の表現)

授業の方法

まずは発音の指導を行う。次は語彙、文法と文型の説明をする。最後に読む練習と話す練習を行う。

準備学習

毎回の内容を復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う

テキスト

プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			15437	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

〈フランスで仕事をする〉〈フランス語を使って仕事をする〉或いは〈フランス関連企業で働く〉ことに必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

授業の概要

フランスの地方、政治システム、世界におけるフランス語について書かれたテキストを講読する。同時に「観光フランス語入門」に引き続き、会話文を通して日常生活に役立つ表現を使いこなせるようにしたい。またフランスの世界遺産関連映像(DVD)鑑賞を通して、フランスのイメージをより具体化する。要望があれば仏検の指導も行う。

授業計画

1. オリエンテーション「ブルターニュ地方」
2. 「ブルターニュ地方」
3. 「ブルターニュ地方」
4. 「プロヴァンス地方」
5. 「プロヴァンス地方」
6. 「プロヴァンス地方」
7. 「アルザス地方」
8. 「アルザス地方」
9. 「アルザス地方」
10. 「政治システム」
11. 「政治システム」
12. 「政治システム」
13. 「世界に於けるフランス語」
14. 「世界に於けるフランス語」 フランス映画鑑賞
15. 「世界に於けるフランス語」 フランス映画鑑賞

授業の方法

多彩なテーマについて書かれたフランス語文の講読と関連発表による。

準備学習

フランス語1～8、及び観光フランス語入門で既習のフランス語の会話、文法事項を見直しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

病気、やむを得ない事情を除いて授業出席は必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社(フランス語5～8での使用テキストを同じ)

参考図書

必要があれば授業中に紹介する

留意事項

当該授業には、フランス語1～8若しくはフランス語1～6を履修している、観光フランス語入門を履修している、またはそれと同等のフランス語力をもっている学生のみが履修できる。

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ	TH		15525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

旅行会社、ホテル、航空関連会社、企業等におけるインターンシップ（就業体験）を通して自己の適性を知り、職業観を築く。このクラスではKAISEIパーソナリティの(S)を目指します。

授業の概要

オリエンテーションを含め事前研修を実施する。特に外部講師を招いた3～5回の研修は全員出席の事。実際のインターンシップ体験は夏季休業期間中でホテル、航空関連会社、旅行会社、プライダル関連会社など主に観光関連企業等に依頼し1週間から2週間程度行われる。その成果を事後研修（1回）の授業で発表する。受け入れ企業によりインターンシップ期間は異なることがある。

授業計画

- 1.オリエンテーション、事前研修とインターンシップの目的
- 2.事前研修 業種別受け入れ企業の説明
- 3.事前研修 学生と受け入れ企業のマッチング
- 4.インターンシップ（受け入れ企業により期間は異なる）事前研修
- 5.インターンシップ
- 6.インターンシップ
- 7.インターンシップ
- 8.インターンシップ
- 9.インターンシップ
- 10.インターンシップ
- 11.外部講師による研修 その1 社会人に求められるエチケット、服装、身なり、挨拶、姿勢
- 12.外部講師による研修 その2 正しい言葉づかい 敬語、丁寧語、声の大きさ、表情

- 13.外部講師による研修 その3 電話対応の基本 社会常識、会社の常識
- 14.事前レポート・最終注意事項・必要書類配布・質疑応答
- 15.事後レポート提出・成果発表

準備学習

社会常識的なマナーは身につけておく事。派遣先決定後はその企業と業界について事前勉強しておく事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

インターンシップに先立ち事前研修が必修。事前研修、事後研修を欠席した場合は単位認定しない。

テキスト

なし

参考図書

企業や業界地図についての参考書、会社四季報

留意事項

インターンシップは企業の協力のもとで行うので海星の代表としての自覚をもち、真面目に取り組むこと。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			15529	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小郷 行男	必修	2				

授業の到達目標

授業の目標は、「ホスピタリティ」の意味と意義の理解を通して、実際の仕事に役立つようにすることである。これからの有望な産業である「観光関連産業」に関わる「ホスピタリティ・マネジメント」の学習から、即戦力となる人材を養成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養います。

授業の概要

旅行事業、宿泊事業、航空運輸事業などの各種観光関連事業におけるホスピタリティのあり方を学び、更に経営参加の視点を持つことによって、顧客満足への更なる充実をめざすよう学習する。

授業計画

- 1.講義の概要
- 2.ホスピタリティの成り立ちと歴史
- 3.ホスピタリティとサービスの違いとは
- 4.ホスピタリティ・マネジメントとは
- 5.旅行事業とホスピタリティ・マネジメント1
- 6.旅行事業とホスピタリティ・マネジメント2
- 7.宿泊事業とホスピタリティ・マネジメント1
- 8.宿泊事業とホスピタリティ・マネジメント2
- 9.航空運輸事業とホスピタリティ・マネジメント1
- 10.航空運輸事業とホスピタリティ・マネジメント2
- 11.ゲーミング産業とIR(統合リゾート)のホスピタリティ・マネジメント
- 12.テーマパーク事業とホスピタリティ・マネジメント1
- 13.テーマパーク事業とホスピタリティ・マネジメント2
- 14.苦情処理、トラブル処理とホスピタリティ・マネジメント

15.まとめ

授業の方法

講義と授業中提出のレポートを中心とする。

準備学習

基礎科目の「ホスピタリティサービス論」の復習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別に認められての欠席以外は認めない。欠席が三分の一を超えた場合は授業放棄とみなす

テキスト

「サービス&ホスピタリティ・マネジメント」 産業能率大学出版部

参考図書

「ホスピタリティ・マネジメント入門」第2版 服部勝人著 丸善株式会社
観光業の現場から学ぶ「観光ホスピタリティ読本」 J H R S 発行

教員連絡先

yuki.55gogo@nifty.com

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
エアラインサービス論1（グランドサービス）			15533	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

航空会社の日々のオペレーションを支えている空港での旅客サービス業務、および旅客ハンドリング業務を中心として、航空輸送事業の仕事内容を学習する。併せて航空業界の歴史から現代の航空業界についても理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を養う。

授業の概要

航空輸送事業についての歴史と近年の動向や日本の空港の現状、および航空会社の空港業務の概要について参考テキストをベースに解説する。今後もさらに需要の伸びが期待される航空旅客へのサービス向上も踏まえ、空港で働くスタッフの質の充実が求められている。将来の進路として航空旅客サービス、旅行代理店・添乗員希望の学生は特に履修が望ましい。授業に関連した空港関係の仕事内容や羽田空港などの情報は最新のDVDの映像でも紹介する。

授業計画

1. 講義概要の説明・オリエンテーション
2. 日本における航空輸送事業の歴史
3. 航空輸送事業の規制緩和
4. 国内・国際航空運賃と格安航空券
5. 航空会社の経営戦略・CRS・FFPマイレージサービス
6. コードシェアとアライアンス・業界用語その1
7. 日本の空港の種類・羽田空港その1・業界用語その2
8. 空港の機能と施設・羽田空港その2・業界用語その3
9. 空港運営上の課題・ハブ空港・業界用語その4
10. 航空会社の空港旅客業務(出発時)・グランドスタッフ業務
11. 航空会社の空港旅客業務(到着時)・トラブル対応・業界用語その5
12. スペシャル・ハンドリング、手荷物に関する基礎知識
13. ホスピタリティ産業としての基本的な心構え、身だしなみ・基本動作
14. ホスピタリティ産業としての基本的な心構え、言葉遣い・基本接客用語
15. まとめ

授業の方法

テキストを基本に実際の業務内容を解説する。グランド・スタッフ業務、空港についてはDVDでも紹介する。

準備学習

航空各社の動向や空港問題、オープンスカイ、LCCなどのニュースや新聞報道に注目しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない場合を除き、評価の対象にする。特別の理由のない欠席1回につき5点減点する。

テキスト

『エアポートビジネス入門（改訂版）』（株）ジェイティービー能力開発

参考図書

『航空業界大研究』 中西克吉（株）山岳社
『月刊エアライン』 イカロス出版

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
エアラインサービス論2（インフライトサービス）			15537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
熊澤 洋子	選択	2				

授業の到達目標

従来の航空会社において、旅客運送という利益獲得手段の最前線に位置するのがインフライト（機内）サービスである。そのため各社は常に客室乗務員の資質の向上と機内のサービス内容の充実を図っている。インフライトサービスの歴史的推移と現在を学び、また新たに参入したLCCの稼働状況を含む今後について理解を深めたい。このクラスではKAISEIパーソナリティの(K)思いやりと(S)奉仕の心、(In) 国際性を考え養います。

授業の概要

インフライトサービスを担う客室乗務員には二つの大切な役割がある。つまり狭い機内の限られた時間内において、第一にはお客様の安全のための保安要員として、第二は快適な空の旅を提供するサービス要員としての役割である。客室乗務員の具体的な仕事内容、航空業界全般の知識、人となり、立居振舞い、LCCを含む各社の特質、採用状況、待遇等について学ぶ。

授業計画

1. ホスピタリティとインフライトサービス
2. 世界の航空産業とインフライトサービスの歴史
3. 日本における客室乗務員の過去と現在
4. 航空会社内の組織と機能、そして客室乗務員の役割
5. 内外航空会社における待遇と契約
6. 客室乗務員に必要な航空用語 1
7. 客室乗務員に必要な航空用語 2
8. 実際のフライトにおける仕事の流れ
9. 機内アナウンスの重要性とアナウンス実習
10. 立居振舞いおよび、人となり
11. 食事サービス・機内販売・各国通貨・税金・経由地などの知識

12. 保安要員としての役割、特殊な旅客への対応(車椅子・病人・幼児等々)
13. 旅客の心理及び客室乗務員の心理
14. 航空各社の採用状況と入社試験について
15. インフライトサービスのまとめ

授業の方法

航空業界を扱ったDVDで実際の仕事の流れを観たり、アナウンスの実習など出来るだけ具体的方法で授業を進める

準備学習

出来れば飛行機を利用して、インフライトサービスの実際を観察しておく

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視

テキスト

プリントを配布

参考図書

AIR STAGE イカロス出版株式会社

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
イベント・コンベンション論			15541	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

イベント・コンベンションは現代社会に何をもちたしているのか。イベントとは何か。イベントの効果、イベントの本質を探る。講義を通じてイベントの歴史を学び、イベントの種類、運営方法などを理解する。イベント初級講座とする。このクラスではkAISEIのA(自律)を養います。

授業の概要

イベント・コンベンションの起源から現代までを歴史から学ぶ。特に神戸市の事例を中心に都市戦略としてのイベントを考察する。また、イベントの作り方、運営方法を解説する。総論ではなく具体的内容を中心に講義をする。

授業計画

1. ガイダンス
2. イベントの歴史・万国博覧会
3. 近代日本におけるイベントの歴史
4. 事例研究(地方博)
5. 事例研究(地方博)
6. 事例研究(地方博)
7. 行政とコンベンション都市
8. イベントの形態
9. イベントの仕組み・作り方
10. イベント会場設営
11. イベント会場運営
12. イベント集客
13. コンベンション
14. 国際会議
15. インセンティブ
まとめ

授業の方法

パワーポイントを使用し授業を行う。

準備学習

メディアで紹介されるイベントに関心を持ち、パンフレットの収集や記事のスクラップなどを心がけること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

レジュメの他、必要に応じて資料配布。

参考図書

イベント学のすすめ(ぎょうせい)/コンベンション施設の開発(鹿島出版会)/JACEイベント講座1, 2, 3(日本イベント産業振興協会)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			15633	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

マーケティングとは何か。現代社会はマーケティングの中で生活をしている。自らの行動を、マーケティングの世界に置き換えて考えていく。観光におけるマーケティングとは何か、どの様に行うのか。講義を通して観光マーケティングの基礎を理解する。将来、ツーリズム産業で活かされる知識の習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養います。

授業の概要

観光マーケティング論ではホスピタリティ産業の中心であるホテル業、旅行業を中心に航空業やマクドナルドなどのファストフードも含め事例を取り上げる。マーケティング理論、とケーススタディ中心に構成されている。

授業計画

1. ガイダンス
2. マーケティングとは
3. ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングにおけるサービスの特性
4. 戦略計画におけるマーケティングの役割
5. マーケティング環境
6. マーケティング情報システムとマーケティング・リサーチ
7. 市場細分化、ターゲット設定、ポジショニング
8. マーケティングミックス(製品・価格)
9. マーケティングミックス(流通・プロモーション)
10. 宿泊機関のマーケティング
11. 旅行会社の商品企画とマーケティング
12. 海外旅行マーケティング(デスティネーション・時期・セグメンテーション)
13. 国内旅行マーケティング(デスティネーション・時期・セグメンテーション)
14. 訪日旅行マーケティング(デスティネーション・時期・セグメンテーション)
15. まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進める。

準備学習

日頃より新聞の経済記事を読み企業活動や新商品のニュースをウオッチすること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

資料を配布する。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング(ピアソン・エデュケーション)/コトラーのマーケティング講義(ダイヤモンド社)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光政策論			15637	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	選択	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光政策」「観光立国」「現代の観光事業」
 授業の目標は、キーワードにあげた用語の理解を重点目標として、観光立国時代におけるわが国の観光交流政策の流れとその展開、観光立国に向けての諸政策を理解することを目指す。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養います。

授業の概要

授業は、将来、観光関連産業やサービス関連産業などの「業界」を目指す人、これらの分野に「興味」を持つ人に対応して、観光政策の流れと現状、これにかかわる業界の現況を新しい資料を提示しながら進める。
 これらの目標を達成するため、
 I わが国の近代以降の観光政策と観光交流事業
 II 観光立国への対応政策を理解した上で、
 III 観光立国と国際観光交流の現状
 III 観光政策と観光交流事業の展開
 IV 国際観光交流時代に対応した観光関連産業の現状などを学習、イベント、コンベンション事業や観光立地に伴う観光開発事業の展開などについて学ぶ。

授業計画

1. 「観光立国」と「観光事業」について
2. わが国の観光事業史 I
3. わが国の観光事業史 II
4. 海外旅行の推進と観光政策
5. 訪日旅行の推進と観光政策
6. 観光とリゾート事業
7. イベント・コンベンション事業
8. テーマパーク事業 I
9. テーマパーク事業 II
10. 旅行事業 I
11. 旅行事業 II
12. 宿泊事業 I
13. 宿泊事業 II

14. 交通運輸事業
15. 「観光政策論」のまとめ

授業の方法

テキストに添って進める。OHCを使用、重要事項は板書。また、理解度を高めるため、小レポートを求める。

準備学習

事前にテキストをよく読んでおくこと成果が上がる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点（出席・課題評価・小レポート）が50%あるので、欠席が多いと評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価点が得られなくなる可能性があるので充分注意をすること。

テキスト

『現代の観光事業』北川宗忠編、ミネルヴァ書房

参考図書

『観光・旅行用語辞典』北川宗忠編、ミネルヴァ書房

教員連絡先

kitagawa@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			15641	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

航空自由化で日本の空もいよいよ変わってきた。その中でツーリズム産業の中核をなす航空業界の全体像を把握し、一段とグローバル化が進む世界のアライアンスの競争、LCCの成長も含め航空業界の現状を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会基盤としての航空事業とツーリズムの関係を捉え、航空業界の歴史から航空会社の戦略と共にツーリズム産業での重要な役割を理解していく。その中で現在の世界的なグローバル・アライアンスの進展やオープンスカイ政策を取り始めた日本の航空政策も考察する。昨年からは日本でも本格的なLCCの参入が始まり今後の動向が注目されている。また将来の地球環境を保全する為の航空業界の対策などにも目を向ける。

授業計画

1. オリエンテーション、航空事業とツーリズム
2. 社会基盤としての航空事業
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアとオセアニアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和の歩み
7. ローコスト航空会社(LCC)の誕生
8. アメリカ・ヨーロッパ・アジアのLCC
9. グローバル・アライアンスの進展
10. アジア・ゲートウェイ構想と国際ハブ空港の競争
11. 国際ハブ空港
12. 航空会社とブランド
13. 航空機の進化と航空機製造競争
14. 航空会社の地球環境対策
15. 航空業界の最新動向とまとめ

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループで討議し発表の機会

を設ける。

準備学習

世界の航空業界でのアライアンス、LCC、ツーリズムの最新動向などについて新聞やニュースに常に注意しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。関連事項は適宜プリントで渡す。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

『航空産業入門』（株）ANA総合研究所
 『日本の空を問う』伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版社

留意事項

授業中に指示する。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
旅と法律 I			15645	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
芹田 健太郎	選択	2				

授業の到達目標
 人びとの日常的な行動は、単に事実行為としての意味しかもたないものと、法律行為としての意味をもつものに分けられる。日常と非日常とを区別し、人生の旅について理解を深めることによって、多くの人たちと心を通わせるようになることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
 旅とは何かを心に描きながら、旅の目的、旅の主体、旅の場所、旅の手段、社会の秩序維持について考えていく。

授業計画

1. 旅の魅惑—旅とは何か
2. 旅、観光、ツーリズムの違い
3. 国際社会
4. 法と法律
5. 法と法律(2)
 - 2012年関越道バス事故を題材に
6. 旅の目的—巡礼、留学、出張、行楽
7. 国内の旅、海外の旅
 - 国境を越えることの意味：国家とは何か
8. Passport・Visa
9. 汽車の旅、車の旅—土地は誰のものか
10. 海の旅—海は誰のものか
11. 海の秩序維持
 - 公海上の船舶衝突等
12. 空の旅—空は誰のものか
13. 国際民間航空機構 I C A O、国際航空運送協会IATA、M/J ャック防止条約等

14. 日本法か外国法か
15. 日本法か外国法か(2)

授業の方法
 原則として講義、時に質疑応答

準備学習
 日常生活を意識的に分析し、ひとつひとつの行動の意味を、歩いたり、電車に乗ったりするとき、これは法律的にはどのような意味をもつのかを考える。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 規程に従う。

テキスト
 特になし。

留意事項
 上述準備学習参照。

教員連絡先
 seriken1q41@gmail.com

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
関西文化論			15653	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標
 文学と地域の関係性を学ぶ。関西、なかでも阪神地区を舞台にした文学作品を講読し、絵画を鑑賞し、そこに描かれた関西文化を考察する。このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とI（知性）とを養う。

授業の概要
 旅育という言葉がある。旅をとおして新しい世界と出会うことで、日本の歴史・文化・産業を学ぶ試みのことである。旅育を支える新しい旅を企画する基盤を養いたい。

授業計画

1. 阪神とはどのような地域なのか。
2. 小林一三と阪急電車—国鉄に挑んだ一私鉄の物語
3. 有川浩「阪急電車」鉄道が生み出した文化—西宮北口から宝塚
4. 神戸モダンイズムとは
5. 神戸における「モダンとレトロ」発表
6. 神戸における「モダンとレトロ」発表
7. 白井鉄蔵「バリゼット」宝塚歌劇と宝塚音楽学校
8. 手塚治虫「リボンの騎士」—宝塚が育てた天才マンガ家の遺産
9. 谷崎潤一郎「細雪」芦屋貴婦人達の文化
10. 小川洋子「ミーナの行進」戦後の芦屋文化の変化
11. 神戸の港—その歴史—平清盛と神戸
12. 横光利一「灘にいたころ」神戸青谷に暮らす
13. 岡部伊都子「ザークの孤独」—神戸文学館訪問—神戸を描いた文学
14. 自らが提案する「まち歩き」発表
15. 自らが提案する「まち歩き」発表

授業の方法
 作品の講読とその文化背景の講義が中心となる。講義をきいた上で、各自自分にとっての関西文化の発表を行う。発表の課題は「神戸・モダンとレトロ」・「まち歩き」の二種類である。

準備学習
 地元が舞台の文化を取り扱う。自ら現場に赴くことも重要である。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 規定に従う

テキスト
 授業時に随時、紹介する

参考図書
 授業時に随時、紹介する

教員連絡先
 mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究		15661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
有村 理／一尾 敏正	選択	2			

授業の到達目標

戦後、日本企業は大いなる成長を遂げた。企業は生まれ、成長、発展する。企業のメカニズムや成長の秘訣を知る。幾つかの事例研究を通して企業の社会的責任、社会貢献などを理解する。グローバル化の時代において将来の職業選択、企業選びに役立てる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)を養います。

授業の概要

沢山の産業の中から講義の主体をホスピタリティ産業に絞る。事例研究を通して企業と業界を解説する。講義では適宜映像を通して企業理解を図る。また、講義を学外に移し、実際に企業訪問を行う。生の企業に触れその実態を見る。

授業計画

1. ガイダンス
2. 事例研究A-1 (宿泊産業)
3. 事例研究B-1 (運輸業・航空)
4. 事例研究A-2 (飲食業・レストラン)
5. 事例研究B-2 (旅行業)
6. 事例研究A-3 (運輸業)
7. 事例研究B-3 (食品産業)
8. 事例研究A-4 (飲食業FC)
9. 事例研究B-4 (京都の企業)
10. 企業訪問の事前学習
11. 企業訪問の事前学習
12. 企業訪問

13. 企業訪問の事後発表
14. 企業訪問の事後発表
15. まとめ

準備学習

新聞をよく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

日経業界地図 (日本経済新聞出版社)

参考図書

会社四季報

留意事項

学外活動あり (未定)

現代人間学部 心理こども学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

授業で学んだことや実習体験の中で、特に興味関心をもったことを卒業研究に向けての「テーマ」探しとして確認・整理していく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）を養う。

授業の概要

ゼミ生、担当教員との討議や発表を通して、卒業研究への具体的な方向性を明らかにする。

授業計画

- 1.はじめに
- 2.演習の取り組み方について
- 3.資料の輪読(1)
- 4.資料の輪読(2)
- 5.資料の輪読(3)
- 6.資料の輪読(4)
- 7.資料の輪読(5)
- 8.資料の輪読(6)
- 9.ゼミ生の発表(1)
- 10.ゼミ生の発表(2)
- 11.ゼミ生の発表(3)
- 12.ゼミ生の発表(4)
- 13.ゼミ生の発表(5)
- 14.ゼミ生の発表(6)
- 15.まとめ

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学習

発表の際にはレジュメを用意すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

児童文学作品における「絵と文章の力」に関する卒業研究を進めるために、文献や資料を読み、意見交換を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

小学校国語教科書に掲載されていたり、作家や出版社が子どもたちに読ませたい本として紹介したりしている作品を取り上げて分析する。また、児童文学の種類や選び方、絵と文章の読み方、作家と作品、解釈の仕方等を学び、研究テーマの方向性を定めていく。

授業計画

- 1.オリエンテーション 演習の進め方
- 2.児童書の種類と作品
- 3.児童書の選び方
- 4.絵本とは何か①
- 5.絵本とは何か②
- 6.「もりのなか」を読む①
- 7.「みりのなか」を読む②
- 8.「おおかみと七ひきのこやぎ」を読む①
- 9.「おおかみと七ひきのこやぎ」を読む②
- 10.絵本作家と作品①
- 11.絵本作家と作品②
- 12.絵本作家と作品③
- 13.「私が選んだ絵本」発表と討議①
- 14.「私が選んだ絵本」発表と討議②
- 15.まとめ

授業の方法

考えを書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学習

テキストに目を通し、掲載されている絵本の中から、1冊を選んでおく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

松居直『絵本のよここび』日本放送出版協会

参考図書

松居直『松居直のすすめる50の絵本 大人のための絵本入門』教文館

留意事項

自分から進んで研究に取り組もうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c	17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	必修	2			

授業の到達目標

保育者になることを目指して、出来るだけ幼稚園や保育所のボランティアや行事に参加し、それらを通して各自のテーマを絞り、研究に取り組む。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題の図書を講読し、その感想文を発表し合っ、文章の表現力を高めていく。各自の興味・関心のある事柄や得意なことを生かして研究テーマを設定して取り組み、発表したり討議したりする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.各自の興味・関心のある事柄を話し合い、研究テーマを設定する
①
3. " ②
4. " ③
5. " ④
- 6.図書講読の感想文を発表し意見交換をして推敲する ①
7. " ②
8. " ③
9. " ④
- 10.各自の研究テーマについて報告し、話し合う ①
11. " ②
12. " ③
13. " ④
- 14.まとめ
- 15.まとめ

授業の方法

まず文章の表現力向上に努める。テーマ設定について話し合い、テーマを設定して取り組む

準備学習

課題の図書に限らず、出来るだけ多くの本を読破するように努める

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する

参考図書

必要に応じて提示、紹介する

留意事項

授業外、学外のボランティアや幼稚園行事に積極的に参加して学ぶようにされたい。

教員連絡先

okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a	17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	必修	2			

授業の到達目標

卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）を養う。

授業の概要

卒業研究のテーマを設定し、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通してテーマについての理解を深めていく。

授業計画

- 1.はじめに
- 2.実習における学びについて報告・発表(1)
- 3.実習における学びについて報告・発表(2)
- 4.実習における学びについて報告・発表(3)
- 5.研究計画・文献収集に関する指導(1)
- 6.研究計画・文献収集に関する指導(2)
- 7.研究計画・文献収集に関する指導(3)
- 8.研究計画・文献収集に関する指導(4)
- 9.論文の書き方(1)
- 10.論文の書き方(2)
- 11.研究発表(1)
- 12.研究発表(2)
- 13.研究発表(3)
- 14.研究発表(4)
- 15.まとめ

授業の方法

ディスカッションや発表を多く取り入れる。

準備学習

図書館で、自分の関心あるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき2点減点

教員連絡先

nakata@kaisie.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b	17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	必修	2			

授業の到達目標

児童文学作品における「絵と文章の力」に関する卒業研究のテーマを設定するために、文献や資料を分析し、意見交換を行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

様々なジャンルの児童文学作品や、作家・作品に関する文献を講読し、登場人物の言動・生き方、作品の特徴、作家や編集者の考え方・ものの見方についての発表や討議を行い、各自の研究テーマを設定していく。

授業計画

1. 今後の研究の進め方について
2. 研究方法と内容の考察①
3. 研究方法と内容の考察②
4. 研究方法と内容の考察③
5. 研究方法と内容の考察④
6. 研究方法と内容の考察⑤
7. 研究方法と内容の考察⑥
8. 研究方法と内容の考察⑦
9. 研究方法と内容の考察⑧
10. 研究テーマについて
11. 研究方法と内容の考察⑨
12. 研究方法と内容の考察⑩
13. 研究報告と討議①
14. 研究報告と討議②
15. まとめ

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学習

研究したい作品・作家に関する文献を選んでおく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

演習Ⅰのテキストを継続して使用する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献や資料を自主的に収集し、読んでおくこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c	17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	必修	2			

授業の到達目標

各自が研究したいテーマについて熟考し、意見交換をしながら、テーマを絞っていく。そして、テーマに沿って取り組み、討議を重ねて互いに学び合いながら研究を進めていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼稚園における人的・物的・空間的などの環境の重要性を認識し、各自の興味・関心に応じたテーマを設定する。出来るだけボランティア活動に参加しその実践の中で学んでいく。

授業計画

1. オリエンテーション(演習Ⅱの進め方について共通理解をする)
2. 各自のテーマに沿って今後の研究の進め方について話し合う①
3. " ②
4. " ③
5. " ④
6. " ⑤
7. 各自の研究について進捗状況を報告し、話し合う ①
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. " ⑤
12. 卒業研究に向けての見通しを立てて関連する文献を収集し発表・討議する ①
13. " ②
14. " ③
15. まとめ

授業の方法

参考資料やビデオ視聴などを通して、各自のテーマに沿った研究が進められるようにする。

準備学習

新聞や文献から各自が取り組みたいと思うテーマに迫っていくようにされたい

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき5点の減点とする

テキスト

適宜配布する

参考図書

幼稚園教育要領解説 保育所保育指針

留意事項

演習の時間外、また学外での活動にも積極的に参加し、経験の幅を広げていくと共に豊かな人間性を培うよう努力してもらいたい

教員連絡先

okodes@dokomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究計画にしたがって調査・研究し、卒業研究の論文素描を作成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのⅠ（知性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰと演習Ⅱで得た基礎知識をもとに、学生が各自の研究テーマにそって研究する。調査・研究した一部について、レポート作成とプレゼンテーションを行う。研究計画、調査・研究の方法、プレゼンテーションの技法、ディスカッションの進め方、論文の作成などについて学ぶ。

授業計画

1. 卒業研究の計画と論文の書き方 1
2. 卒業研究の計画と論文の書き方 2
3. 研究発表 1
4. 研究発表 2
5. 研究発表 3
6. 家族研究論文を読む 1
7. 家族研究論文を読む 2
8. ディスカッション 1
9. ディスカッション 2
10. 卒業研究の指導 1
11. 卒業研究の指導 2
12. 研究発表 4
13. 研究発表 5
14. 研究発表 6
15. まとめ

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションが中心となる。

準備学習

演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト、プリント等を再読する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

なし。プリントを配布する。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

3年次の演習の成果を踏まえ、テーマを決定し、卒業研究に取り組む。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）を養う。

授業の概要

各自の研究テーマに沿って今後の計画を立て、必要な文献や資料の収集に取り組む。

授業計画

1. 卒業研究のテーマ設定について
2. 卒業研究の方法について(1)
3. 卒業研究の方法について(2)
4. 研究の報告と相互批評(1)
5. 研究の報告と相互批評(2)
6. 研究の報告と相互批評(3)
7. 研究の報告と相互批評(4)
8. 研究の報告と相互批評(5)
9. 研究の報告と相互批評(6)
10. 研究の報告と相互批評(7)
11. 研究の報告と相互批評(8)
12. 研究の報告と相互批評(9)
13. 研究の報告と相互批評(10)
14. 研究の報告と相互批評(11)
15. まとめ

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学習

図書館で、自分の関心のあるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき2点減点

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究作成に取り組む。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

研究テーマに沿って、提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

1. 演習の進め方
2. 卒業研究のテーマ設定について
3. 研究の進め方と討議①
4. 研究の進め方と討議②
5. 研究の進め方と討議③
6. 研究の進め方と討議④
7. 研究の進め方と討議⑤
8. 研究の進め方と討議⑥
9. 研究の進め方と討議⑦
10. 研究の進め方と討議⑧
11. 卒業研究の指導①
12. 卒業研究の指導②
13. 卒業研究の指導③
14. 卒業研究の指導④
15. まとめ

授業の方法

自分と他者の考えを比較し、討議することを重視する。

準備学習

研究テーマに関わる文献を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は3点減点する。

参考図書

柳田邦男『大人が絵本に涙する時』平凡社

留意事項

研究テーマを念頭に置いた文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者としてのみならず、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に思考を展開し、他者に表現できるような姿勢を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間のコミュニケーション発達に関する論文作成を目的とした学生各自の研究に関して、各自の研究主題にかかわる論文のレビュー、研究方法の紹介、データの整理方法と分析結果および考察などを、プレゼンテーションの資料をもとにして報告を行う。内容についてグループ内で討議することを通じて、主題の独自性と論理性を明確にしてゆく機会とする。

授業計画

1. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介1
2. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介1
3. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介1
4. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議1
5. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告1
6. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告2
7. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告3
8. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介2
9. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介2
10. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介2
11. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議2
12. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告4
13. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告5
14. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告6
15. まとめと今後の展望

授業の方法

個人による報告とそれを受けてゼミ生全体でディスカッションを行うことを通じて、報告内容についての理解を深めてゆく。

準備学習

学内図書館で、自分の関心あるテーマについての文書を書架や端末を通じて検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席をする場合は事前に、その旨連絡すること。補填が必要な場合は課題等を与える。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

研究法、データ処理法にかかわる文献は適宜紹介する。

留意事項

各自の調査研究において、観察・実験等で、学外での活動を行う場合がある。文献購読および各自の調査研究をすすめるうえで「心理統計学」、「心理調査・データ処理法」を履修していることがのぞましい。

教員連絡先

owlogic@gmail.com

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究を完成させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

各学生の卒業研究の指導が中心になる。家族研究の先端的研究にふれる機会も提供する。

授業計画

1. 家族の最新研究を学ぶ 1
2. 家族の最新研究を学ぶ 2
3. 卒業研究の中間報告 1
4. 卒業研究の中間報告 2
5. 卒業研究論文と要約についての確認
6. 卒業研究の指導 1
7. 卒業研究の指導 2
8. 卒業研究の発表 1
9. 卒業研究の発表 2
10. 卒業研究の発表 3
11. 卒業研究の発表 4
12. 卒業研究論文の修正 1
13. 卒業研究論文の修正 2
14. 卒業研究論文の修正 3
15. まとめ

授業の方法

卒業研究のプレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学習

授業開始までに、卒業研究のほぼ半分を終えておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

なし。プリントを配布する。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って卒業研究を完成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)を養う。

授業の概要

研究過程の発表や討議を重ねていくことで卒業研究の内容を深め、卒業研究を完成していく。

授業計画

1. 進捗状況の確認と発表(1)
2. 進捗状況の確認と発表(2)
3. 進捗状況の確認と発表(3)
4. 進捗状況の確認と発表(4)
5. 発表および討論(1)
6. 発表および討論(2)
7. 発表および討論(3)
8. 発表および討論(4)
9. 発表および討論(5)
10. 研究の修正とまとめ(1)
11. 研究の修正とまとめ(2)
12. 研究の修正とまとめ(3)
13. 研究の修正とまとめ(4)
14. 研究の修正とまとめ(5)
15. 研究の修正とまとめ(6)

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学習

図書館で、自分の関心あるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき2点減点。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

授業計画

1. 今後の卒業研究の進め方
2. 卒業研究の作成①
3. 卒業研究の作成②
4. 卒業研究の作成③
5. 卒業研究の作成④
6. 卒業研究の作成⑤
7. 卒業研究の作成⑥
8. 卒業研究の作成⑦
9. 卒業研究の作成⑧
10. 卒業研究作成の経過報告と討議
11. 卒業研究の作成⑨
12. 卒業研究の作成⑩
13. 卒業研究の作成⑪
14. 卒業研究の作成⑫
15. 卒業研究の発表と討議

授業の方法

自分と他者の考えを比較し、討議することを重視する。

準備学習

研究テーマに即した文献・資料を読み、授業に備えること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点、遅刻は3点減点する。

参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者としてのみならず、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に思考を展開し、他者に表現できるような姿勢を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

演習Ⅲに引き続き、人間のコミュニケーション発達に関する論文作成を目的とした学生各自の研究に関して、各自の研究主題にかかわる論文のレビュー、研究方法の紹介、データの整理方法と分析結果および考察などを、プレゼンテーション資料をもとに報告を行う。内容についてグループ内で討議することを通じて、主題の独自性と論理性を明確にしてゆく機会とする。

授業計画

1. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介1
2. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介1
3. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介1
4. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議1
5. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告1
6. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告2
7. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告3
8. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介2
9. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介2
10. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介2
11. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議2
12. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告4
13. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告5
14. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告6
15. 各自の最終報告とまとめ

授業の方法

個人による報告とそれを受けてゼミ生全体でディスカッションを行うことを通じて、報告内容についての理解を深めてゆく。

準備学習

学内図書館で、自分の関心あるテーマについての文書を書架や端末を通じて検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席をする場合は事前に、その旨連絡すること。補填が必要な場合は課題等を与える。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

研究法、データ処理法にかかわる文献は適宜紹介する。

留意事項

各自の調査研究において、観察・実験等で、学外での活動を行う場合がある。文献購読および各自の調査研究をすすめるうえで「心理統計学」、「心理調査・データ処理法」を履修していることがのぞましい。

教員連絡先

owlogic@gmail.com

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平井 純子	必修	2				

授業の到達目標

人間の行動や心を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化しつつあるものとしてそれを捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

本講義では、人間の心というものが他者を含む環境との相互的かわりを通して発達していくことを、精神活動の成立と展開にとつての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、各時期における具体的な保育・教育実践の課題と関連付けて解説していく。

授業計画

1. 精神機能を発生的に把握するということ:生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握するということ:遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降)
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係の発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、反射、運動、描画、知覚、思考、など

の発達に関する作業課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学習

発達の変化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

必要な図書を講義中に適宜紹介する。

参考図書

Piaget, J. & Inhelder, B. 新しい児童心理学 白水社
矢野喜夫・落合正行編著 発達心理学への招待 サイエンス社
佐藤眞子編 人間関係の発達心理学2 乳幼児期の人間関係 培風館

留意事項

講義は各回が前回の内容を前提として進められるので、講義内容の流れを常に把握しておくこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

- 1 保育所保育指針を学び、保育の全体的な構造を理解する。
- 2 保育内容の歴史の変遷について学ぶ。
- 3 子どもの発達の特徴を踏まえ観察や記録の観点を修得し、保育内容と子ども理解とのかわりについて学ぶ。
- 4 養護と教育の一体性について具体的な保育実践につなげて理解する。
- 5 保育の展開について具体的に学ぶ。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の理解を通して、子どもたちに体験させたい保育の内容について理解を深めていく。教育課程の意義、編成、指導計画について学ぶとともに、保育所保育の全体的な計画や保育の内容についても考慮し、乳幼児全体を視野に入れた保育内容について学習する。

授業計画

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育の全体構造
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特徴と保育内容
5. 個と集団の発達と保育内容
6. 保育における観察と記録
7. 養護と教育の一体化
8. 環境を通して行う保育
9. 遊びによる保育
10. 生活や発達の連続性に考慮した保育
11. 家庭、地域、小学校との連携
12. 保育の多様な展開1 乳児保育・長時間保育
13. 保育の多様な展開2 多文化共生の保育
14. 保育の多様な展開3 特別な支援を必要とする子どもの保育
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表を多く取り入れる。

準備学習

「保育原理Ⅰ」の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

民秋言・吉村真理子編『保育内容総論』萌文書林

参考図書

授業時に指示する。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
性格心理学		17309	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
黒羽 カテリーナ	選択	2			

授業の到達目標

性格とは何かということ、性格の諸理論、性格の形成要因、性格の適性、および適応の変化などの視点からとらえ、自分や他者についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養います。

授業の概要

人間の行動の仕方には個人差が存在するところから性格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、性格はいかにして形成されるのか、性格を理解するための理論にはどのようなものがあるのか、さらには、性格から生じる不適応などの問題について学び、自分理解と他者理解の促進をはかる。

授業計画

- 1.はじめに:性格の定義・研究史
- 2.性格の諸理論
- 3.性格の類型論
- 4.性格の特性論
- 5.性格の発達I
- 6.性格の発達II
- 7.家族関係と性格
- 8.人間関係と性格
- 9.文化と性格
- 10.適性とは
- 11.性格と病気
- 12.性格理解の方法I 性格検査について
- 13.性格理解の方法II 性格検査の施行

- 14.性格理解の方法III 結果の分析
- 15.総括

授業の方法

主に講義を行うが、適宜、心理検査の実施やグループワークなども行う。

準備学習

各回におけるテーマの予習と、授業後の復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席状況(30%)

欠席について

補填を希望する場合は、必ず申し出ること。

テキスト

プリントを使用する

参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』 サイエンス社

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情心理学		17317	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

感情が人間の生活においてどのような役割を果たしているかを再認識したうえで、感情のメカニズム、感情の発達、感情の障害・病理について考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

感情の喚起と脳のメカニズム、感情の主観的経験とその表出および理解、感情の調節に至るまでの過程を自らの体験と照らし合わせながら理解を深めていく。また、他者と同じ感情を分かち合う共感の過程について、さらには感情の障害とそれへの対応についても認識を深める。

授業計画

- 1.感情の意義と役割
- 2.感情喚起のメカニズム
- 3.情動的知能
- 4.感情の主観的経験
- 5.感情表出のメカニズム
- 6.他者の感情の認知・理解
- 7.共感のメカニズムとカウンセリング
- 8.感情の調節
- 9.感情経験と表出の発達
- 10.感情調節の発達
- 11.共感能力の発達
- 12.感情と言語
- 13.感情の障害と臨床(1)不安
- 14.感情の障害と臨床(2)うつと攻撃性
- 15.今後の研究課題

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学習

自分の最近の感情生活についてふりかえっておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

授業開始後、冊子を配布する（有料）。

参考図書

『感情の発達と障害－感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社

留意事項

授業の中で課す小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達心理学			17321	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平井 純子	選択	2				

授業の到達目標

人格の発達にとって、年齢によって変化する身体と社会的な諸関係、文化というものが重要な役割をはたすことについて、各発達段階ごとの課題や危機の理解をふまえた説明ができることを目標とする。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とS（奉仕）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人間の心理的発達の特殊性は、文化を担った社会的環境の中で他者との関係を築き上げながら変化して行くことにあると考えられる。また、その変化は、具体的な身体を有する人間と人間との々の時期に応じた葛藤をはらんで展開するものであると考えられる。
本講義では、おもに精神の情動的側面の意義についての考察をふまえ、エリクソンの人格発達理論に依拠しながら、他者との関係性の発達としての人格発達について論じてゆく。

授業計画

- 1.人間の発達における情動のもつ本質的役割
- 2.人格発達における対人関係の葛藤とその克服の意義
- 3.自他未分化の世界における信頼関係：自己を映し出す鏡としての他者
- 4.活動における自律性と自我の発生：自我の芽生えと対人的葛藤
- 5.社会的役割関係への関心：幼児期における親世代との葛藤
- 6.人格発達の躰き1（乳幼児期）
- 7.規範性の世界への参入：学童期の同世代の仲間関係のなかでの自己
- 8.自我同一性と同一性拡散：「私とはなにか」という問いと進路選択
- 9.人格発達の躰き2（学童期・青年期）
- 10.成人他者との社会的関係の維持・発展：生活の共有関係における自己実現と妥協
- 11.次世代（子ども）との安定した関係の構築：次世代を育てる関係の維持
- 12.喪失体験と死を前にした人生の統合：過去経験の統合と受容
- 13.人格発達の躰き3（成人期・老年期）

- 14.人格発達を背後で支える自然・社会環境について
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、人間関係の様式やその危機に関する作業課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学習

発達的变化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

浜田寿美男 ピアジェとワロン ミネルヴァ書房
エリクソン, E.H. 幼児期と社会Ⅰ・Ⅱ みすず書房

留意事項

講義内容を理解してゆく前提として「発達心理学」を受講しておくことが望ましい。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学			17325	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
津田 明子	選択	2				

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観し、臨床心理学の中核を成す人格理論・発達理論について学習する。そしてさらに、臨床心理学の実際として、心理アセスメントと基本的な心理療法についても紹介し、最終的に臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（知性）を養います。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の歴史の変遷を概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の考え方（人格理論・精神発達理論）を解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントと基本的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解するということについて学んでいく。

授業計画

- 1.臨床心理学とは
- 2.臨床心理学の歴史
- 3.こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
- 4.こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
- 5.こころの発達理論①エリクソンの考え方
- 6.こころの発達理論②クラインの考え方
- 7.こころの発達理論③マラーの考え方
- 8.こころの発達理論④ウイニコットの考え方
- 9.臨床心理学の実際－心理アセスメントについて
- 10.臨床心理学の実際－心理療法とは
- 11.心理療法①精神分析療法・分析心理学派
- 12.心理療法②クライエント中心療法

- 13.心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
- 14.心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法
- 15.総括

授業の方法

講義を中心とする。

準備学習

臨床心理に関係すると思われる書籍で関心のあるものを1冊以上読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
認知心理学			17329	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
吉田 千里	選択	2				

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

見る、聴く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということを、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な観点から考察してゆく。

授業計画

1. 認知心理学はなぜ注目されるのか
2. 人間の知覚特性: 視覚
3. 人間の知覚特性: 聴覚
4. 人間の知覚特性: 運動感覚と認知
5. 人間の知覚特性: 空間知覚
6. 注意と記憶 1
7. 注意と記憶 2
8. イメージ処理
9. 言語と談話理解 1
10. 言語と談話理解 2
11. 推論と問題解決
12. 思考と言語 1
13. 思考と言語 2
14. 社会的認知
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決、などに関する作業課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学習

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

必要な文献は講義中に適宜指示する。

参考図書

ナイサー 認知の構図 サイエンス社
 大山正 他編 認知心理学講座 [全4巻] 東京大学出版会
 佐伯 胖 他編著 コレクション認知科学 [全12巻] 東京大学出版会

留意事項

心理学の基本的な研究法や概念は理解しているものとしてすすめるので、基礎的な科目を履修していることが望ましい。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理統計学			17337	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

統計の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味について解説する。講義はできるかぎり具体的なデータを学生が扱いながら、記述統計から推測統計まで、その処理プロセスと統計手法の個々の概念について学んでゆく。

授業計画

1. データの性質について: 名義尺度から比例尺度まで
2. データの性質について: 名義尺度から比例尺度まで
3. 標本と母集団、および分布と確率
4. データの表現: ヒストグラムの作成
5. 代表値と散布度 1: 平均値、中央値、最頻値
6. 代表値と散布度 2: 分散と標準偏差
7. 変数の比較における標準化の意味
8. 相関関係とはなにか: 2変数間の関係
9. 相関と回帰: 散布図の作成
10. 相関と回帰: 相関係数の算出と解釈
11. 平均値の差の検定: t検定
12. ノンパラメトリックな検定: カイ二乗検定
13. データの分散と条件の比較: 分散分析の読み取り方
14. 多数の変数をまとめる: 多変量解析(因子分析)への導入
15. まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値算出、散布度算出、相関係数、t検定、 χ^2 乗検定など、の具体的な計算や検定作業を毎回行いながら学習を進める。

準備学習

記述統計の基本について、よく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
 吉田寿夫 1998 本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
 田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
 南風原朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義は「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学基礎実験			17341	Ⅱ	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から動機までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.知覚1—ミューラー・リヤー錯覚
- 3.知覚2—ミューラー・リヤー錯覚
- 4.認知・学習1—鏡映描写
- 5.認知・学習2—鏡映描写
- 6.レポートに関するコメント(1)
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.情報伝達1
- 12.情報伝達2
- 13.レポートに関するコメント(2)
- 14.イメージ測定
- 15.総合レポートの作成

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学習

平均値の求め方を復習しておく。レポートの書き方に慣れておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

2週で1セットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートが書けないことになる。

テキスト

なし

参考図書

『ユーザーのための教育心理統計と実験計画法』 田中・山際、1992年、教育出版

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	35
担当者名	区分	単位	特記事項			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込んで評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。具体的な調査を実際に行いながら、調査実施を問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。

授業計画

- 1.調査研究の方法:実験法・検査法との比較
- 2.調査研究の方法:実験法・検査法との比較
- 3.調査研究の方法:質問紙調査法と面接調査法
- 4.調査法における心理尺度の構成
- 5.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施
- 6.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現
- 7.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の統計解析1
- 8.質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の統計解析2
- 9.質問紙の作成と調査およびデータ処理:解析結果の表現と解釈
- 10.報告作成上の留意点と書式
- 11.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用1
- 12.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用2
- 13.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用3
- 14.質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用4
- 15.まとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、代表値算

出、散布度算出、t検定、などの具体的な手順をふみながら、分析結果の報告書も作成しつつ学習を進める。

準備学習

心理統計学の基本的な用語や計算手法をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房

参考図書

田中・山際 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達障害論			17361	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

人格形成に影響を与える諸要因について学び、他者理解や自己理解、そして自己成長の手がかりとなる知識を得る。人格理論を学びながら、よりよい人間関係を築くための思いやりの心や共感性を養う。

授業の概要

人間が誕生し成長していく過程で、どのような要因が人格形成に影響を与えているのであろうか。そして人格は、発達の過程でどのように変容し成長していくのか。一方で人格の成長を阻害する要因とは何なのか。人格の障害とはどのような事なのかについて理解を深める。

また心理査定や心理療法を体験する事で、「自分」や「他者」のこころを理解し、人格心理学の知識を今後の人生や社会生活の中で活かして行けるように、知識を体験的に身につける方法を学ぶ。

授業計画

1. 人格とは
2. 人格を知る方法(心理テスト)
3. 人格を成長させるには(心理療法)
4. 人格についての理論
5. 人格の発達(1)
6. 人格の発達(2)
7. こどもの心の問題(1)
8. こどもの心の問題(2)
9. ライフサイクル

10. 問題行動と性格
11. 人格と適応(箱庭療法)
12. 人格と適応(遊戯療法)
13. 不適応と病理
14. 人格は変えられるのか
15. まとめ

授業の方法

講義

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う

テキスト

なし

参考図書

人格心理学—パーソナリティと心の構造 鈴木乙史・佐々木正弘著 河出書房新社

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習1 (心理テスト法)			17373	Ⅲ	春	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	1				

授業の到達目標

心理臨床現場(保健所、児童相談所、病院、など)における幼児期の発達状況をとらえ発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養います。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被験者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

1. はじめに:心理テスト概論・利用法
2. 東大式エゴグラム
3. YG検査
4. CMI(コーネル・メディカル・インデックス)
5. PFスタディ
6. SCT(文章完成テスト)
7. K式発達検査
8. WISC知能検査1
9. WISC知能検査2
10. クレベリン作業検査
11. バウムテスト
12. 風景構成法
13. 箱庭療法
14. 箱庭療法

15. 総括

授業の方法

実習

準備学習

授業前に各心理検査についての基礎知識を得ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので原則として欠席は認めません。

テキスト

その都度紹介する。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習2（カウンセリング法）		17377	Ⅲ	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
津田 明子	選択	1			

授業の到達目標

心理療法におけるカウンセリングについて学習する。講義によりカウンセリングの一般的な知識を学習した上で、様々な実習を行い、自己について、さらには、カウンセラー-クライアント関係、そしてカウンセラーに必要な姿勢について考えていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考えます。

授業の概要

心理療法について、そしてその中のアプローチのひとつであるカウンセリングの定義や基本モデルなどについて講義する。その後、ペアでの実習やグループ実習、さらには疑似ケースを使ったカウンセリング実習を行い、実際のカウンセラーとクライアントの心の動きやプロセス、カウンセラーに必要な姿勢などを自身の振り返りやカンファレンスから考えていく。

授業計画

- 1.心理療法とカウンセリング
- 2.カウンセリングの定義
- 3.フロイトの精神分析療法
- 4.ロジャーズのクライアント中心療法
- 5.カウンセラーの基本的態度
- 6.カウンセラー-クライアント関係
- 7.「信頼」の実習
- 8.言語と非言語コミュニケーションの実習①
- 9.言語と非言語コミュニケーションの実習②
- 10.ロールプレイ実習(グループ)
- 11.カウンセリング実習・振り返り①
- 12.カウンセリング実習・振り返り②
- 13.カウンセリング実習・振り返り③

- 14.カウンセリング実習・振り返り④
 - 15.カウンセリング実習・振り返り⑤
- 総括

授業の方法

講義と実習、その振り返りを中心とする。

準備学習

臨床心理学の授業の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

実習が中心のため、事前連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

テキスト

特になし

参考図書

その都度紹介する

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学文献講読1		17385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典にあたりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を目指す。

授業の概要

母親の育児態度・感情が子どもの心理的発達にどのような影響を与えていくかについての論文を講読する。発表者は割当てられた論文について、要点を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それに基づいて皆にわかるように説明していく。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(1)
- 3.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(2)
- 4.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(3)
- 5.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(4)
- 6.母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(5)
- 7.母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(1)
- 8.母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(2)
- 9.母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(3)
- 10.子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(1)
- 11.子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(2)
- 12.子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(3)
- 13.母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読(1)
- 14.母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読(2)
- 15.今後の研究課題

授業の方法

ゼミ形式で行う。

準備学習

レジュメの作り方と口頭発表の仕方について考えておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は発表の仕方を工夫すること。発表を聞く側は質問をし、また自分の意見、感想を記述すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学	PC	17409	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を目指す。

授業の概要

不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいのかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的課題をとりあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

- 1.子どもの問題行動の理解と援助ー不登校
- 2.子どもの問題行動の理解と援助ーいじめ
- 3.子どもの問題行動の理解と援助ー虐待
- 4.子どもの問題行動の理解と援助ー摂食障害・対人恐怖
- 5.教師と児童生徒の人間関係
- 6.家庭的背景の理解
- 7.学級への適応
- 8.発達観と教育
- 9.人格の形成
- 10.自己理解を育てる
- 11.感情を育てる
- 12.社会性と道徳性
- 13.教育評価と学習指導
- 14.発達障害の理解ーADHD、学習障害
- 15.発達障害の理解ー自閉症、アスペルガー症候群

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学習

これまで受けてきた家庭教育と学校教育について考えをまとめておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『こころの発達と教育臨床』澤田瑞也 ほか著 2001年、培風館

参考図書

随時紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽1	①/②/③	17417	I	春	12
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、保育者・指導者として実践に必要な「歌唱」「音楽理論」「ピアノ演奏」の基礎的能力を習得することがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「歌唱」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、正しい発音で表情豊かに歌えるように演習する。「音楽理論」については、コード習得のための理論を、こどもの歌のコード伴奏が瞬時にまたスムーズにできることを目標に学習する。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 音遊び。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード演奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード演奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. コード演奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声とソルフージュ。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

授業の前半は音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半で個人レッスンをを行う。

準備学習

ピアノ譜(ト音記号とヘ音記号)の読譜ができることが望ましい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席回数が増えると大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA)ピアノテキスト「Piano Lesson 60時間」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

最初の授業までに、大学入学までのピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽2	①/②/③	17421	I	秋	12
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

こどもの発達に応じた表現活動について研究し、そのために必要な音楽能力の向上を目指す。幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、「歌唱」「ピアノ演奏」の技能を高め、保育者・指導者としての知識を習得することがねらいである。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

こどもの発達を踏まえながら歌唱教材を研究し、楽曲にふさわしい伴奏型で弾き歌いができるように演習する。さらに、身体表現にも役立つピアノ曲を数多く習得すると同時に、楽典も学習していく。また、音遊び、手遊び、振り付けなどの体験学習を通して、表現活動の意味や指導法についても研究する。

授業計画

1. コード復習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 調性。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 調性。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. コードの連結。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コード伴奏の演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コード伴奏の演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コード伴奏の演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. 発声とソルフェージュ。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. こどもの発達と歌唱教材。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. こどもの発達と歌唱教材。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. 様々な表現活動について。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. 様々な表現活動について。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

授業の前半で音楽の基礎学習と実演をクラス全体で行い、後半でピアノ個人レッスンを行う。

準備学習

春学期に学習した楽典とコードの基礎知識を完全に習得しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA)
ピアノテキスト「Piano Lesson 60時間」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時表提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC	17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子／福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とIn（国際性）とを養う。（箕野 聡子）

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。（福智 佳代子）

授業の概要

（日本児童文学）近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。（箕野 聡子）

（西洋児童文学）児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。絵とことばを巧みに組み合わせた絵本、リズムカルなことばの詩・ナーサリーライム（マザーグース）、児童が主人公として体験できる夢と冒険の世界を描いた作品を取り上げる。（福智 佳代子）

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」（箕野）
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルメイド」（箕野）
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」（箕野）
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」（箕野）
5. 千葉省三「拾った神様」と映画「憑神」（箕野）
6. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」（箕野）
7. 棕鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」（箕野）
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」（箕野）
9. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム（マザーグース）の世界（福智）
10. 「ブラウン・ベア」とエリック・カールの絵本の世界（福智）
11. プレゼンテーション「読み聞かせ」と「童歌遊び」（福智）
12. 「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活の自然と日常の世界（福智）
13. 「トムソーヤとハックルベリ・フィン」マーク・トウェインの冒険の世界（福智）
14. 「星の王子様」サン・テグジュペリと「ガリバー旅行記」J.スウィフト（福智）
15. 「はてしない物語」ミヒャエル・エンデのファンタジーの世界（福智）

授業の方法

作品の講読と関係映像資料の鑑賞が中心となる。（箕野 聡子）児童文学とされている作品の内容、作者と社会の背景などを理解し、その価値などを他者に自ら発信する。（福智 佳代子）

準備学習

作品をあらかじめ読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』（創文社）（箕野）
本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』（ミネルヴァ書房）（福智）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp(箕野 聡子)
fukuchi@kaisei.ac.jp(福智 佳代子)

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・発達論			17441	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中植 満美子	選択	2				

授業の到達目標

他の動物とは異なる人間の発達の特異性が、文化を学習してゆくという点にあることを、各年齢期の課題や、文化剥奪、特別支援教育をめぐる具体的な課題を引き寄せて説明できるようになることを目標とする。
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

身体の成長に伴いより深く入り込んでゆく社会的活動様式から常に学習する機会を得ることで展開してゆく、という人間発達の歴史・文化的な側面について、文化の伝承や障害の克服という学習課題などにも触れながら論じてゆく。

授業計画

- 1.人間の発達と歴史・文化の役割
- 2.発達を構成する主体はだれか
- 3.発達をめぐるピアジェとヴィゴツキーの論争について
- 4.「児童の自己中心性」と「思考と言語」の関係
- 5.「話しことば」から「書きことば」への移行が意味するもの
- 6.ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」とダイナミックな評価
- 7.認知能力が変容するにあたって「道具的媒介」の過程1
- 8.認知能力が変容するにあたって「道具的媒介」の過程2
- 9.状況に埋め込まれた学習
- 10.人格としての発達と学習：「年齢期の問題」をめぐる
- 11.人格としての発達と学習：遊びの中での学習
- 12.文化を奪われた人々の学習と発達
- 13.精神発達の障害と学習
- 14.実習とまとめ1
- 15.実習とまとめ2

授業の方法

講義と単元内容に相応した、学習や認知能力の発達に関するグループでの作業課題や個人での作業課題を毎時間行いながら学習を進め

る。

準備学習

発達および教育心理学の知識を活用するので、よく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

武安宥・角本尚紀 2009 教職概論 昭和堂

参考図書

神谷栄司 2007 保育のためのヴィゴツキー理論 三学出版
 フォイヤーシュタイン他 1998 「このままでいい」なんていわないで!：ダウン症をはじめとする発達遅滞者の認知能力強化に向けて 関西学院大学出版会
 ヴィゴツキー 2006 情動の理論：心身をめぐるデカルト、スピノザとの対話 三学出版

留意事項

実習的な要素を取り込む予定なので、連続して受講しないと理解ができない場合があるので注意すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒羽 カテリーナ	選択	2				

授業の到達目標

乳幼児期の心身の発達と運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達との関連をとらえ、乳幼児期の精神発達の要因について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養います。

授業の概要

乳幼児期の理論やさまざまな研究をとりあげ、新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさと多様性についての知識を深めるとともに、乳幼児の心身両面にわたる発達のプロセスやメカニズムを理解し、その豊かさと多様さを育み、促進する大人のかかわりについて検討する。

授業計画

- 1.はじめに：乳幼児心理学とは
- 2.胎児の発達
- 3.新生児の能力
- 4.乳幼児の心の発達
- 5.乳幼児期の発達Ⅰ 運動
- 6.乳幼児期の発達Ⅱ 知覚・認知
- 7.乳幼児期の発達Ⅲ 知性
- 8.乳幼児期の発達Ⅳ 言葉
- 9.乳幼児期の発達Ⅴ 社会性
- 10.乳幼児期の自分についての理解
- 11.乳幼児期の遊びの発達
- 12.乳幼児の発達を支えるⅠ 子育て
- 13.乳幼児の発達を支えるⅡ 親としての発達

- 14.乳幼児の発達を支えるⅢ 社会的問題
- 15.発達の偏りと支援

授業の方法

講義とペア、あるいはグループワークを行う

準備学習

授業の前後に予習、復習が必要である。

課題・評価方法

定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席状況(30%)を加味して、総合的に評価する。

欠席について

5回を超えた欠席は不合格とする。

テキスト

授業中に適宜、紹介する。

参考図書

遠藤俊彦・佐久間路子・徳田治子・野田順子 『乳幼児のこころ 子育て・子育ての発達心理学』有斐閣

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
算数科概論	PC	17457	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
樋口 勝一	選択	2			

授業の到達目標

現在多くのメディアでこどもの算数学力低下が叫ばれている。それに伴い算数の基礎教育に関心が集まり、「こどものいかに数という概念を教えるか」は教育者をめざす者、子育てをする者にとって非常に重要なことであると再認識されつつある。本講義では、幼稚園や小学校で必要とされている算数の内容を習得することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

算数の内容を生徒に教えるためには、自分自身が正確に内容を理解しておく必要がある。まず、「計算」を正確に実行できる力を養成し、次に、日常生活の中で必要不可欠な「割合」の考え方を身につける。さらに、どのようにして物事を「かず」に置き換えるかを指導する。最後に、生徒に対して「いかに興味を持たせて学ばせるか」について考える。

なお、学習の動機付けとして就職試験に出題される算数や数学の内容も学習する。

授業計画

- 1.基礎学力確認
- 2.算数基礎1ー整数問題
- 3.算数基礎2ー割合と比
- 4.算数基礎3ー図形
- 5.数学基礎1ー正負の数
- 6.数学基礎2ー式の計算
- 7.数学基礎3ー方程式・不等式
- 8.数学基礎4ー関数
- 9.生活とかず1ー割合基礎
- 10.生活とかず2ー割合応用
- 11.生活とかず3ー表計算
- 12.生活とかず4ーつるかめ算など
- 13.生活とかず5ー旅人算など
- 14.総復習
- 15.まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、問題を解くことで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学習

小学校、中学校の算数・数学の基本的な問題集で勉強しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

これならわかる大学生のための数学・理科基礎計算ドリル、樋口勝一著、晃洋書房

留意事項

幼稚園、小学校算数レベルからはじめるので、算数・数学の苦手な人も安心して受講してもらいたい。

教員連絡先

higuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	PC	17461	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
東口 たまき	選択	2			

授業の到達目標

ことばの学習と獲得に前提として必要な能力は何か、ヒトはどのような点でそれに適した身体・精神構造と活動形態をもっているのかについて理解し、言語発達の指導にも適用できる基礎知識を獲得することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とI（国際性）を養う。

授業の概要

ことばはコミュニケーションの手がかりとして、最もその運用システムが高度に組織化されたものであり、人間の活動を、認識およびコミュニケーション双方の点から、強力に支持する機能を担っているといえる。そのことばを獲得する能力をどのようにしてヒトは可能にしてゆくのかについて、前言語的なやりとりの時期から、聴覚、構音機能、文法機能の獲得などについて、最近の研究の成果を紹介しながら学んでゆく。

授業計画

- 1.人間にとっての言語活動とは
- 2.言語獲得理論の動向
- 3.やりとりからことばへ
- 4.言語的音声の獲得1
- 5.言語的音声の獲得2
- 6.言語と認知(象徴機能の獲得)
- 7.語彙の獲得1
- 8.語彙の獲得2
- 9.文法の獲得1
- 10.文法の獲得2
- 11.養育放棄事例のことばの発達
- 12.障害児のことばの発達(視覚障害)
- 13.障害児のことばの発達(聴覚障害)
- 14.ことばの獲得を支えるもの
- 15.ことばの発達と学習のまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、テキストの購読とまとめの課題を行いながら学習を進める。

準備学習

テキストを事前・事後によく読んで講義の内容を自分で説明ができるように理解すること

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

講義時間に適宜紹介する。

参考図書

小林春美・佐々木正人編 2008 新・子どもたちの言語獲得 大修館書店
トマセロ, M. 大堀壽夫・中澤恒子・西村義樹・本多啓訳 2006 心とことばの起源を探る：文化と認知 勁草書房

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	PC	17465	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

2011年度より全国の小学校で英語活動が始まり、本年度で3年目になる。さらに3年生あるいは1年生から導入しようという動きもあり、すでに低学年から始めている市町村などもある。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

本授業では、ワークショップ形式で、
1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を考え、
2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズ、ごっこ遊びなど発達過程を考えた授業法を体験し、
3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い、指導者として「授業ができる」実践力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
2. 小学校英語活動と『身近にある異文化共生』
3. 小学校英語活動『年間カリキュラム作成』
4. ワークショップ(1)「チャンツ」を取り入れた授業法
5. ワークショップ(2)「チャンツ」プレゼンテーション
6. ワークショップ(3)「TPR」を取り入れた授業法
7. ワークショップ(4) 「TPR」プレゼンテーション
8. ワークショップ(5) 「ゲーム」を取り入れた授業法
9. ワークショップ(6) 「ゲーム」プレゼンテーション
10. ワークショップ(7) 「スキット」を取り入れた授業法
11. ワークショップ(8) 「スキット」プレゼンテーション
12. 活動案作成 (1) 作成のポイント
13. 活動案作成 (2) 教材製作 発表準備
14. プレゼンテーション『模擬授業』
15. まとめと評価

授業の方法

ワークショップで体験した授業法を、学生自身が、主体的に創造し、プレゼンテーションを行う。

準備学習

プレゼンテーションの準備をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	PC	17469	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業作り・模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、
1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方と、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業法を考え、
3. 授業案作成と模擬授業、授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての資質を身につける。

授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「園児、低学年・中学年・高学年対象活動案作成」
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成 発表準備」
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「活動案発表と模擬授業」
4. 第1回小学校英語活動観察実習
5. 実習授業活動案作成(1)「教材研究」
6. 実習授業活動案作成(2)「教具・絵カード、ワークシート作成」
7. 実習授業活動案作成(3)「振り返りカード作成と評価の観点」
8. 実習授業活動案発表と模擬授業
9. 第2回小学校英語活動支援体験実習
10. 実習授業活動案作成(4)「教材研究」
11. 実習授業活動案作成(5)「教具・絵カード、ワークシート作成」
12. 実習授業活動案作成(6)「振り返りカード作成と評価の観点」
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 第3回小学校英語活動支援体験実習(3)
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学習

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

参考図書

アレン玉井光江「小学校英語の教育法 理論と実践」大修館書店；ISBN：9784469245486

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 <こどもの生活世界>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽3	①/②	17473	Ⅱ	秋	16
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的スキルを高める。また、現代の環境等に即した指導法や教材を研究し、子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)と、A(自律) S(奉仕)を学ぶ。

授業の概要

表現活動のためのピアノ曲を中心に、ピアノの個人レッスンを行う。また、コード伴奏で子どもの歌、生活の歌、季節の歌を、明瞭な日本語で表情豊かに弾き歌いができるように演習する。さらに、ピアノ以外の打楽器、鍵盤楽器の奏法を習得し、楽譜の書き方、編曲の仕方を学び、音楽会のための合奏曲を仕上げる。

授業計画

1. 初等音楽1・2で習得したコードの復習と弾き歌いの演習。
2. 表現活動のねらいと内容。
3. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
4. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
5. リズム遊び、リズム奏、手拍子の音楽などリズムについて。
6. 打楽器の奏法とリズム合奏。
7. 合奏曲の演奏と編曲法。
8. 身体表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
9. 和太鼓の打法と演奏。
10. 合奏曲の演奏と編曲法、楽譜の書き方。
11. 身体表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
12. 季節の歌、コード奏による弾き歌い。
13. 合奏編曲作品の発表と考察。
14. 身体表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
15. こどもの発達と表現活動についての研究とまとめ。

授業の方法

毎回個人で、あるいはグループで発表や演奏を行う。

準備学習

初等音楽1・2で習得したコードを理解し、反射的にピアノで弾けるように練習しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『歌おう♪弾こう♪こどもとともに』(YAMAHA MUSIC MEDIA)
『マイレパートリー』(YAMAHA MUSIC MEDIA)

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目 <こどもの生活世界>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽4	①/②	17477	Ⅲ	春	16
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的スキルを高める。また、初等音楽3で学習した内容をもとに、実際に保育現場で役立つ音楽活動のシミュレーションを行い、幅広い表現活動ができる指導力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)と、A(自律) S(奉仕)を学ぶ。

授業の概要

表現のためのピアノ曲のレッスンの他に、ピアノのできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習する。また、コード奏による弾き歌いのレパートリーを増やし、歌唱指導の実践を行う。さらに、日本の伝統音楽に親しむために和太鼓を学び、合奏する。総括として、各グループごとに設定した音楽会プログラムの計画、指導、練習を経験することにより総合的に音楽をプロデュースする力をつける。

授業計画

1. 子どもと音楽概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
2. 明治時代以降の子どもの歌の変遷。
3. 季節の歌、コード奏による弾き歌い。
4. 場面に応じた音楽、編曲と実演。
5. ピアノの特殊効果と変奏。
6. 身体表現活動のためのピアノ演習。
7. 身体表現のための変奏の習得と発表。
8. 身体表現のための変奏の習得と発表。
9. 歌唱指導の実践。
10. 歌唱指導の実践。
11. 身体表現活動のためのピアノ演習。
12. さまざまな表現活動とその展開。
13. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
14. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
15. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。

授業の方法

毎回個人で、あるいはグループで発表や実演を行う。

準備学習

バイエル終了以上の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき3点減点。

テキスト

『歌おう♪弾こう♪こどもとともに』(YAMAHA MUSIC MEDIA)
『マイレパートリー』(YAMAHA MUSIC MEDIA)

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職小	17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)
10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学習

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

授業開始後、冊子を配布する（有料）。

留意事項

小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論		17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
藤井 良三	選択	2			

授業の到達目標

ここ数年ボランティアブーム再来。私たちは経済的には十分な生活を過ごしています。しかし一方で、「何か物足りない」と思い、「やりがい」を求め、「仲間とともに」何かに「熱中」できるものを求めている人たちが増えてきています。身近なことからはじめることで、自然体でボランティア活動に参加できることを目指す。この授業ではKAISEIパーソナリティすべてを目指します。

授業の概要

座学と実践を取り混ぜることで、絶えず省みと気づきをもとめます。まず、ボランティアの理念を身につけるため、お互いの共通理解を全員で考えます。そこで、ボランティアのあり方、自分にとってのボランティアを見つけます。そのためには、自分たちで考え、意見を出し合い、ともに活動することを学んでください。積極的にVol.活動に参加することを基本に授業を進めます。

授業計画

1. ボランティアって何？
2. グループ発表
3. ボランティア活動のキーワードを見つける
4. 基本理念
5. 歴史
6. 地域での活動の実際
7. 社会福祉施設における活動の実際
8. ボランティアセンターの機能と役割
9. ボランティアセンターへの訪問調査
10. グループ発表
11. ボランティア活動の体験(1)
12. ボランティア活動の体験(2)

13. 活動を通じての反省と気づき
14. 学内におけるボランティア活動の可能性
15. まとめ

授業の方法

講義とグループディカッション、実際のボランティア活動を中心に進める。

準備学習

特になし

課題・評価方法

平常点（毎回レポート提出）とVol活動の実際

欠席について

原則として欠席は求めない

テキスト

特に指定なし。

参考図書

授業のつど示す。

教員連絡先

nre39631@mifty.com

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②	17509	I	春	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
黒岩 和子	選択	2			

授業の到達目標

子どもの人間形成と造形的な表現活動とのかわりについて知り、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」図画工作科のねらいを、演習・実習を通して理解し、図画工作科授業の指導ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

図画工作科に必要な表現方法や、材料・用具等の基礎・基本的なことがらを理解し、演習・実習を通して、創造することの意義や喜びを実感する。また、造形表現や鑑賞を通して、それぞれの表現のよさや美しさを味わうようにする。実際の指導に役立つ楽しい造形表現活動の授業をめざす。

授業計画

1. 図画工作科の目標と、子どもの描画表現の発達・特徴などについて
2. 線による様々な表現（線画における基本的なことがら）
3. パスによる様々な表現（パス表現における基本的なことがら）
4. 紙による様々な表現（紙表現の基本的なことがらと、のり・はさみの扱い方等）
5. 絵の具による様々な表現（ぼかし・にじみ・ドリップング・スパッタリングと、水彩絵の具の扱い方等）
6. 絵の具による様々な表現（色の濃淡・混色・重色・タンポを使った表現と、水彩絵の具の扱い方等）
7. 絵の具による様々な表現（染め紙の基本的なことがら）
8. 染め紙でつくる作品
9. 土粘土による表現(1)（土粘土表現の基本的なことがらと造形表現）
10. 土粘土による表現(2)（土粘土表現の基本的なことがらと造形表現）
11. 簡単な材料による版表現（紙版画・スチレン版画の版づくりの基本的なことがら）

12. 簡単な材料による版表現（紙版画・スチレン版画の刷りの基本的なことがら）
13. 折り紙の折り方の基本的なことがら（星・桜・葉・カエル・オタマジャクシ・金魚・網・天の川等）
14. 段ボール紙の表現の基本的なことがら(1)（生活に役立つものをつくる）
15. 段ボール紙の表現の基本的なことがら(2)（生活に役立つものをつくる）

授業の方法

講義と実技を中心とする。

準備学習

授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業のはじめにその時間のねらい等の講義をすることと、様々な材料・用具体験をするため、遅刻・欠席をしないようにする。1回の欠席につき5点減点、1回の遅刻につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて、プリントを配付する。

参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」

留意事項

授業時に指示する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育	①/②	17513	II	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	2			

授業の到達目標

子どもの発達を理解し、運動機能や身体表現に関する知識・技術を学ぶ。そして子どもたちが運動遊び・表現運動を通じて、楽しく自然に仲間と交流し、また運動機能の向上もはかれるよう、指導方法を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

体づくり運動（体ほぐし・多様な動きをつくる運動遊び）、器械運動（マット運動・跳び箱・鉄棒など）、ボール運動（サッカー・バスケットボールなど）、陸上運動（ハードル・高跳び・リレーなど）、水泳（水遊び）、表現運動などの基本的な運動技術・知識を段階的に学び、子どもたちが安全に楽しく運動が行えるよう、指導方法を学ぶ。

授業計画

1. 体づくり運動①(体ほぐし・多様な動きをつくる運動遊び)
2. 体づくり運動②(体ほぐし・体力を高める運動)
3. ボール運動①(バレーボール・その他)
4. ボール運動②(サッカー・その他)
5. ボール運動③(バスケットボール・その他)
6. 陸上運動①(走法・ハードル走・その他)
7. 陸上運動②(幅跳び・高跳び・その他)
8. 陸上運動③(リレー系・その他)
9. 器械運動①(マット運動:前転・後転・その他)
10. 器械運動②(跳び箱運動)
11. リズム遊び・表現運動
12. 鉄棒運動(逆上がり・その他)
13. 水泳(水遊び・泳法・その他)

14. 保健
15. まとめ

授業の方法

ディスカッションを多く取り入れる。

準備学習

ボール運動のルールを簡単に学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

留意事項

体操服・運動靴、雨天時は体育館シューズを持参のこと。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目 < とも関連科目 >	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職小	17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
 - 2 教育の思想と歴史の変遷について学ぶ。
 - 3 教育の制度について学ぶ。
 - 4 教育実践の取組みについて理解する。
 - 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。

授業計画

1. 教育の意義と作用
2. 教育の本質と教育目的
3. 教育思想の歴史的展開
4. 社会・文化と教育
5. 家庭教育の特質と機能
6. 学校教育の特質と組織
7. 社会教育と生涯教育
8. 福祉社会の形成とその担い手
9. 教育制度
10. 教育法規
11. 教育内容
12. 教育課程
13. 教育実践の基礎理論
14. 生涯学習社会と教育

15. 講義全体のまとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『教育原理』あいら出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目 < とも関連科目 >	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童家庭福祉		17526	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
清原 国臣	選択	2			

授業の到達目標

今日の厳しい社会状況を反映して家庭を取り巻く環境も大きく歪になりつつある。健全な児童の育成とは原点に戻って問われるところの、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育を意味し、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が緊要に求められている。その中において子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。殊に「KAISEIパーソナリティのK（思いやり）」をベースにしてコミュニケーション能力を習得する。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。そうしてどうすれば地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題をもう一度考察し、その有り態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶことになる。

授業計画

1. 人口減少時代と子ども家庭福祉
2. 子ども家庭福祉とは
3. 子ども家庭福祉のあゆみ
4. 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5. 子どもと家庭を支援する法律の体系
6. 子どもと家庭を支援する制度の体系
7. 子どもと家庭を支援する施設の体系
8. 子どもと家庭を支援する専門職
9. 子どもと家庭を支援する活動方法
10. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－虐待について
11. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－親子関係
12. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－非行
13. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－非行に関する今後の課題

14. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－保育
15. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－ひとり親家庭

授業の方法

毎時間ノート筆記を行い、セクションのまとめとして月末にミニテストを行う。

準備学習

できるだけ日常の新聞報道等で児童福祉に関する記事に目を通す。またテキスト予習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規程に従う。

テキスト

北川清一・小林理編著『子どもと家庭の支援と社会福祉－子ども家庭福祉入門－』（2010・ミネルヴァ書房・刊）

参考図書

適時授業時に紹介する。

留意事項

授業に積極的に参加すること。小テストも評価の対象とする。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>子どもが生きていく中で直面する様々なこころの問題や障害を紹介し、それらへの対応や援助方法について具体的に学び、子どもが生きやすい環境のあり方を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>子どもの情緒(感情)の問題や障害について、それらをどのように理解し、予防し、対応したらよいか考察する。また、子どもの発達障害として、ADHD、学習障害、自閉症、アスペルガー症候群をとりあげ、それらへの理解と支援の方法について解説する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.情緒障害とは 2.愛着障害の理解と介入 3.子どもの内在化障害の予防と対処ー不安障害 4.子どもの内在化障害の予防と対処ー抑うつ障害 5.子どもの内在化障害と感情調節 6.子どもの外在化障害ー攻撃性と反社会的行動ーと感情調節 7.子どもの外在化障害への介入と予防 8.女子の内在化障害 9.女子の外在化障害 10.発達障害の理解と支援 11.ADHDをもつ子どもの理解と指導 12.学習障害をもつ子どもの理解と指導 13.自閉症児の理解と対応 14.アスペルガー症候群の子どもの理解と対応 15.知的障害ーダウン症ーの理解と指導 <p>授業の方法</p> <p>主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。</p>

<p>準備学習</p> <p>2年次または3年次春学期に「感情心理学」を履修しておくことが望ましい。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席1回につき2点減点。</p> <p>テキスト</p> <p>『感情の発達と障害ー感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社</p> <p>参考図書</p> <p>適宜紹介する。</p> <p>留意事項</p> <p>授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評価は◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。</p>
--

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現 (造形表現)	①/②		17601	I	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒岩 和子	必修	1				

<p>授業の到達目標</p> <p>幼児の人間形成と造形的な活動とのかかわりについて理解し、造形的表現の保育内容について、演習を通して理解する。幼稚園教育要領・保育所保育指針の「表現」領域の内容を理解し、保育に活かすことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>幼児の発達と表現の変化、幼児の作品の見方を理解し、それぞれの作品のよさが分かるようにする。造形的な表現活動の分野における材料・用具・技法及び指導法について、演習を通して理解し、保育に活かすことができる。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.幼稚園教育要領・保育所保育指針の「表現」領域の内容と、幼児の絵画表現について 2.幼児の造形遊びについて(新聞紙を使った表現を通して) 3.幼児の造形遊びについて(ビニル袋を使った表現を通して) 4.幼児の造形遊びについて(紙粘土を使った表現を通して) 5.幼児の生活と表現活動(子どもが参加できる壁面制作1) 6.幼児の生活と表現活動(子どもが参加できる壁面制作2) 7.幼児の生活と表現活動(子どもが参加できる壁面制作3) 8.幼児の造形遊びについて(お菓子の箱を使った表現) <p>授業の方法</p> <p>講義と実技を中心とする。</p>
--

<p>準備学習</p> <p>次時の造形表現活動の表し方を構想してくること。授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参すること。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>授業のはじめにその時間のねらい等の講義をすることと、様々な材料・用具体験をするため、遅刻・欠席をしないようにする。1回の欠席につき5点減点、1回の遅刻につき2点減点とする。</p> <p>テキスト</p> <p>必要に応じて、プリントを配付する。</p> <p>参考図書</p> <p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」</p> <p>留意事項</p> <p>授業時に指示する。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理 I			17605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

- 1 保育の意義について理解する。
 - 2 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
 - 3 保育の内容と方法の基本について理解する。
 - 4 保育の制度・思想の歴史の変遷について理解する。
 - 5 保育の現状と未来について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的な知識を学ぶとともに、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。保育の社会的役割を検討し、保育の何たるかを学んでいきたい。

授業計画

1. 今なぜ保育なのか保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の語義と概念
3. 養護と教育の一体性
4. 「子育ての社会化」としての保育
5. 児童の権利と保育
6. 家庭・地域の子育て機能
7. 現代社会と子育て
8. 保育制度の成り立ち
9. 保育所・幼稚園の戦後史
10. 少子化の進行と保育所への期待
11. 保育内容の公的基準
12. 子どもの健康な生活と保育
13. 子どもの発達と遊び
14. 幼保関係の歴史
15. これからの保育所と幼稚園

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『保育原理』あいに出版
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館

参考図書

授業時に指示する。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論	教職幼小		17613	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

教育・保育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職・保育職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義と教師（保育者）の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。
教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師（保育者）への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育とは何か……人間形成と教師（保育者）の役割
3. 教職の意義
4. 教職の歴史
5. 保育・初等教育と教員
6. 教師（保育者）に求められる資質と能力
7. 保育士の制度的位置づけ、教員の身分及び服務義務
8. 教員の職務について（1）
9. 教員の職務について（2）
10. 教育課程とは
11. 障害を受けている子どもの教育と課題
12. 開かれた保育所・幼稚園・学校づくり・地域社会との連携

13. 子どもと保護者、保育・教育の現状と課題
14. 優れた教師・魅力的な教師（保育者）を目指して
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

広岡義之編『新しい教職概論・教育原理』関西学院大学出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

本講義においては幼児教育の意義や目的、歴史について学び、幼児教育の原理について理解を深めるとともに、今日のわが国や世界における幼児教育の課題について考えたい。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

近代の幼児教育思想家たちをとりあげ、彼らの理論について学ぶ。さらに、今日のわが国の幼児教育の課題、世界の幼児教育の課題についても考察する。

授業計画

1. 幼児教育の意義
2. 西洋の教育思想と子ども観(1)
3. 西洋の教育思想と子ども観(2)
4. 西洋の教育思想と子ども観(3)
5. 西洋の教育思想と子ども観(4)
6. 日本の教育思想と子ども観(1)
7. 日本の教育思想と子ども観(2)
8. 日本の教育思想と子ども観(3)
9. わが国の幼児教育の課題(1)
10. わが国の幼児教育の課題(2)
11. わが国の幼児教育の課題(3)
12. 世界の幼児教育の課題(1)
13. 世界の幼児教育の課題(2)
14. 世界の幼児教育の課題(3)
15. 世界の幼児教育の課題(4)

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

「教育原理」の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

参考図書

必要に応じて適宜指示する。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程の研究			17621	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	選択	2				

授業の到達目標

幼児期の発達と生きる力の育成についての理解を深め、幼児教育における教育課程の基本的な考え方を学ぶ。教育課程・保育課程に関する基本的な用語・知識・課程編成の原則等、基本的事項と指導計画の作成について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児たちが日々充実した園生活を送り健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・保育課程・指導計画に基づく保育者の周到な環境構成や援助が不可欠である。教育現場での実践例やビデオ視聴なども通しながら、幼児の主体性と保育者の意図のバランスを理解すると共に指導案の作成を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション 幼稚園教育要領と保育所保育指針
2. 教育課程・保育課程の意義と編成
3. 保育の「ねらい」と「内容」
4. 指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項
5. 長期の指導計画
6. 短期の指導計画
7. 生活や遊びを通した学びの過程(ビデオ視聴)
8. "
9. "
10. "
11. 週案作成の実際
12. 日案作成の実際
13. "
14. "
15. "とまとめ

授業の方法

毎回参考資料を配布し、それによって内容を説明する。ビデオ視聴を通して幼児の実態・教師のねらいや環境構成・援助を学び、指導

案作成につなげていく。

準備学習

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席につき、2点の減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」

参考図書

「初等教育資料」文部科学省
「幼稚園じほう」国立幼稚園長会
「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館

留意事項

毎回のどの授業を欠席しても次回の授業の理解が困難になる。また配布資料も多いので欠席をしないようにされたい。

教員連絡先

okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	教職小	17625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

保育・教育課程の意義や類型、それを編成するときの背景について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

本講義では、保育・教育内容の充実と質の向上に資する保育・教育計画とその評価、指導計画の作成、実践や省察、改善の必要性について学ぶ。保育・教育課程の類型、理論的背景や歴史的な動向についても概観する。

授業計画

- 1.はじめに
- 2.保育・教育課程とは
- 3.保育・教育課程の意義
- 4.保育・教育課程の歴史的経緯
- 5.保育・教育課程の類型(1)
- 6.保育・教育課程の類型(2)
- 7.保育・教育課程の類型(3)
- 8.保育・教育課程作成の背景(1)
- 9.保育・教育課程作成の背景(2)
- 10.保育・教育課程作成の背景(3)
- 11.保育・教育評価の意義
- 12.保育・教育評価の方法
- 13.指導計画の作成と展開(1)
- 14.指導計画の作成と展開(2)
- 15.まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき2点減点

テキスト

田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房
『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係		17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	必修	2			

授業の到達目標

幼児期における人間関係について理論的、実践的に学ぶ。子どもがおとなや仲間との人間関係を通じて、どのように人格を形成し、社会性を発達させていくのかについて認識を深める。また、仲間とのかわりで見せる葛藤の解決や思いやり行動を高めるための保育者としての援助や指導のあり方を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を目指す。

授業の概要

現代の子どもの親子関係や仲間との関係の特徴を理解したうえで、親、保育士、教師として、どのように養育し、指導していけばよいかについて学ぶ。

授業計画

- 1.現代のこどもの生活空間と生活時間
- 2.保育者としての子どもへのかかわり方
- 3.子どもの叱り方
- 4.けんかへの対応
- 5.子どもの愛着関係についての理解
- 6.子どもの自立と自律を育てる
- 7.子どもの自己表現を育てる
- 8.遊びを育てる(1)
- 9.遊びを育てる(2)
- 10.子どもの反社会的行動と非社会的行動
- 11.子どもの道徳性と思いやりを育てる
- 12.保育者としての親へのかかわり方
- 13.自己認識と他者認識を深める(1)
- 14.自己認識と他者認識を深める(2)
- 15.ストレスについての理解

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学習

自分の日常的な人間関係のあり方と問題点をふりかえっておく。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『事例で学ぶ保育内容一人間関係』無藤隆監、岩立京子編、萌文書林

参考図書

『思いやりを育む保育』平井信義・帆足英一編、新曜社

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。
小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	必修	2				

授業の到達目標

乳児期から幼児期（0歳～5歳）にかけての言葉の発達の様相を各年齢ごとに詳述するとともに、親、保育者が子どもの言葉の発達を促す上で、どのような点に留意すべきか、とくに子どもとのかかわり方、ことばの環境設定のあり方について把握する。
また、保育者として理解しておくべき言葉の障害のいくつかのタイプをとりあげて説明し、言葉の障害をもつ子どもをどのように指導・配慮していくかを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

言語習得以前の乳児の非言語的コミュニケーションに始まり、言語習得後の言語発達の様相を概観し、親や保育士、教師として子どもの言語発達を援助していく際のポイントを詳述する。
また、言葉の障害について、その理解と対応のあり方を論じる。

授業計画

- 1.動物のコミュニケーション
- 2.人間の非言語的コミュニケーション
- 3.言葉の役割
- 4.言葉の獲得過程
- 5.言葉の発達(1)
- 6.言葉の発達(2)
- 7.言葉の発達(3)
- 8.言葉と環境
- 9.バイリンガルの問題
- 10.言葉の障害(問題)(1)
- 11.言葉の障害(問題)(2)
- 12.言葉の障害(問題)(3)
- 13.文字の読み書きの発達と指導
- 14.絵本の読み聞かせ
- 15.「言葉」の領域のねらいと内容

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学習

自分の日常の言葉づかいに注意を向ける。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『子どもの育ちと「ことば」』横山真貴子編、保育出版社

参考図書

『よくわかる言語発達』岩立志津夫・小椋たみ子 編、ミネルヴァ書房

留意事項

授業の中で行う小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については授業前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護			17638	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	2				

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について概括します。
社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実際について理解を深めることを目標とします。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とします。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習します。

特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっています。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とします。

授業計画

- 1.子どもの社会的養護
- 2.日本における社会的養護のしくみ
- 3.社会的養護に携わる専門職
- 4.家庭支援の理論と実践
- 5.児童虐待の現状と対応
- 6.家庭的養護の理念と里親制度
- 7.乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
- 8.児童養護施設の歴史と自立支援
- 9.非行のある子どもの自立支援
- 10.情緒障がいのある子どもの社会的養護
- 11.知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護

- 12.児童養護施設における子どもの権利擁護
- 13.当事者から見た日本の社会的養護
- 14.児童福祉施設職員に求められるもの
- 15.まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主としますが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状について理解を深めます。また、双方向の授業ですから積極的に参加をしてください。

準備学習

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておいてください。

課題・評価方法

平常点50%、課題レポート30% 出席状況20%

欠席について

公欠以外の欠席は認めません。

テキスト

特に指定しません。

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修して下さい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健ⅠA			17642	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標

保育形態の多様化により保育現場においては、さまざまな疾病や障がいを抱えた子どもも入所している状況にあり、子どもの保健・安全の領域がますます重視されている。子どもの保健Ⅰでは子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

成長・発達途上にある子どもは、さまざまな面で未熟であり事故発生の危険性や感染症などに罹ることが多い。子どもの心身の健やかな成長を見守り援助していくためには、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得することが必要である。子どもの健康を守り、増進し、順調な発育・発達を促すためにその意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。

授業計画

1. 子どもの健康と保健の意義①
生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. 子どもの健康と保健の意義②
子どもの健康概念と健康指標・地域における保健活動と児童虐待防止
3. 子どもの発育・発達①
生物としてのヒトの成り立ち
4. 子どもの発育・発達②
身体発育
5. 子どもの発育・発達③
生理機能の発達
6. 子どもの発育・発達④
生理機能の発達
7. 子どもの発育・発達⑤
生理機能の発達
8. 子どもの発育・発達⑥
運動機能の発達
9. 子どもの発育・発達⑦
運動機能の発達
10. 子どもの発育・発達⑧
精神機能の発達

11. 子どもの発育・発達⑨
精神機能の発達
12. 子どもの精神保健①
子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの精神保健②
子どもの心の健康とその課題
14. 子どもの生活と保健①
15. 子どもの生活と保健②

授業の方法

主に講義形式で進める。

準備学習

子どもの事故発生や感染症流行など起きている出来事に関心を持ち報道されている新聞記事など身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

保育・教育ネオシリーズ21
子どもの保健 一理論と実際― 岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修 同文書院

参考図書

「知れば楽しい おもしろい 赤ちゃん学的保育入門」小西行郎著
子どもの保健Ⅰ 佐藤益子編著

教員連絡先

kawata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ	①/②		17646	Ⅱ	秋	24
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	1				

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への関わりや援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防及び適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

乳幼児が生命を保持していくためには、安全で衛生的な生活を保障する必要がある。乳幼児が日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学習する。なお乳幼児の生活に密着した基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防及び適切な対応や事故への応急処置・救急救命法など演習や実習を通して実践力を身につけ、保育者として役立てられるようにする。

授業計画

1. 保育における保健活動について
小児の成長・発達の観察と測定方法 子どもの発育を知る
2. 母体について(擬似妊婦体験)
自分の体を知る (血圧・脈拍・呼吸の測定の方法)
3. 子どもの保健と環境①
乳児の衣生活 衣服・おむつ おんぶの仕方
4. 子どもの保健と環境②
集団における健康教育 病気・感染の予防 手洗いの方法・実践
5. 子どもの保健と環境③
子どものあそび あそびの素材の安全性
6. 救急救命士講習会①
救急救命法(成人・小児コース)・AEDの操作
7. 救急救命士講習会②
救急救命法(成人・小児コース)・AEDの操作
8. 子どもの保健と環境④
身体の清潔① 沐浴・見学
9. 子どもの保健と環境⑤
身体の清潔② 沐浴・実践
10. 子どもの保健と環境⑥
乳児の栄養 調乳・授乳

11. 子どもの保健と環境⑦
保育所における衛生管理 おもちゃなどの消毒の方法
12. 子どもの保健と環境⑧
集団における健康教育 歯の指導
13. 事故防止および健康・安全管理①
救急用品と管理
14. 事故防止および健康・安全管理②
保育における看護と応急処置
15. 事故防止および健康・安全管理③
保育所における危険予知トレーニング

授業の方法

演習及び実習を中心とする。

準備学習

日頃より衛生管理や安全管理について認識し行動する。

課題・評価方法

平常点40% 定期試験60%
平常点は授業態度および出席状況・毎回のレポート評価

欠席について

毎日が演習・実習であるため原則として欠席は認めない。

テキスト

随時プリントにて対応

教員連絡先

kawata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
依藤 津世子	選択	2				

授業の到達目標

子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活がイメージできる。食育の必要性とその取り組みについての考えを持つことができる。家庭や児童福祉施設での食事、特別な配慮を要する子どもの食事について、保育者として指導の実践がイメージできる。このクラスではK A I S E I パーソナリティ K (思いやり)を考えます。

授業の概要

子どもの食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発育を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基本的知識を身につけ、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの成長段階に応じた健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会、文化とのかかわりの中で理解し、その取り組みについての知識やスキルを習得する。さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食事についても理解を深める。

授業計画

1. 子どもの健康と食生活の意義
2. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(糖質、脂質、たんぱく質)
3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(ミネラル、ビタミン)
4. 食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5. 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6. 幼児期の心身の発達と食生活
7. 幼児期の間食
8. 学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活
9. 食育における養護と教育の一体性
10. 食育の内容と計画及び評価
11. 食育のための環境と取り組みの実際
12. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
13. 疾病及び体調不良の子どもへの対応
14. 食物アレルギーのある子どもへの対応

15. 障害のある子どもへの対応

授業の方法

講義と演習を取り入れる。

準備学習

予習復習に努め、保育士を目指す学生の素養として、日頃から食に興味を持ち、自らの生活の中で望ましい食生活の実践を心がける。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席は重視する。

テキスト

新 保育士養成講座 第8巻 「子どもの食と栄養」新保育士養成講座編集委員会編

参考図書

適宜紹介する

留意事項

子どもの食事について、課題意識をもって意欲的に受講する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現 (身体表現)	①/②		17653	Ⅱ	春	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	必修	1	(①-⑧)			

授業の到達目標

幼児期の発達段階を理解し、「豊かな感性や表現する力を養う」「創造性を豊かにする」活動(リズム遊びや表現)を通して幼児が心と身体を解放し、楽しみながら自分なりに表現できるような指導方法を身につけることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

身体表現は幼児の心と身体を解放し、創造性を引き出す大切な活動である。幼児の発達段階を理解し、興味・関心を探り、表現につなげていける感性と指導力を身につける必要がある。そのために保育者自身が表現を楽しむことが大切である。身体を自由に動かし、創造的な表現ができるよう、身体表現の基本を理論と実技で学習していく。

授業計画

1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の「表現」についての理解
2. 乳幼児にとって、身体表現のもつ意味についての理解
3. 生活および発達段階に即した動きと基本リズム
4. 基本的な動き①
5. 基本的な動き②
6. リズム楽器の活用
7. 模倣表現①
8. 模倣表現②
9. 手具を使った表現①
10. 手具を使った表現②
11. 手具を使った表現③
12. 物語を題材にした表現
13. 発表会のための創作ダンス、構成と練習

14. 発表、発表作品の評価・反省
15. まとめ

授業の方法

ディスカッションを多く取り入れる。

準備学習

普段から身体を動かすようにしておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う

留意事項

第2講義より、2号館体育室で行う。体操服・体育館シューズ持参のこと。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

小学校での「授業づくり」について、教育方法、学習指導の基礎理論と技術の習得を目指す。

1. 授業づくりについての理論と方法を理解する。
2. 授業づくりにおける子ども・教師・教材の相互関係について理解し、授業づくりの実際について構想できるようにする。
3. グループワーク等を通して、専門職としての教師の授業力・実践力を高める。
4. このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

教育課程論、単元組織論、目標評価論、学習支援論、教師教育論等を視点にして、「よい授業」の姿を追求する。そのために、単元構想・学習活動・発問・板書など、子どもの「学び」を支える教師の具体的な働きかけを視点にして考察する。なお、本講座は、学校教育における教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）について、学校現場での多くの事例を通して、より実践的に探究する。

授業計画

1. オリエンテーション: 専門職としての教師(教師の力量としての授業力「よい授業」の要件とは何か・今井鑑三の実践から)
2. 教育方法論の歴史的展開(兵庫の教育者の実践に学ぶ: 芦田恵之助・及川平治・東井義雄)
3. 教育課程の変遷(学習指導要領の変遷と教育実践・教育課程の意義・構造・類型)
4. 学習理論の変遷(教授理論の系譜・系統学習と問題解決学習)
5. 学習指導の具体的方法①(「授業」とは何か・子ども・教師・教材・子どもの見方・学習環境)
6. 学習指導の具体的方法②(授業設計の手順・子どもの変容・授業の4文節)
7. 学習指導の具体的方法③(学習指導案の作成・単元構想・目標の明確化・学習活動)
8. 学習指導の具体的方法④(発問・板書・机間指導・ノート指導・学習形態)
9. 学習指導の具体的方法⑤(教材教具の作成と活用法)

10. 学習指導の具体的方法⑥(教材教具の作成と交流)
11. 学力と教育評価(学習評価の目的と方法)
12. 情報化と教育(情報化社会と学校教育・情報メディアと学習指導・情報機器の活用法)
13. 授業分析のワークショップ①(学校現場の授業実践記録①の考察と意見交流)
14. 授業分析のワークショップ②(学校現場の授業実践記録②の考察と意見交流)
15. 現代の教育の動向と教育実践(PISA調査に見る今後の教育実践の方向性と課題)

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学習

・シラバスをもとにして、参考図書等で予習をし、各自1～2の「質問事項」を持って授業に参加する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

随時、資料プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領』
佐藤学『教育方法学』（岩波書店）
大澤真幸『電子メディア論』（新曜社）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

国語科の目標と内容・指導計画・学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容・方法・授業の構造・指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科書教材の指導計画の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業の内容、座席等についてのガイダンス
2. 国語と国語科
3. 国語科の目標と内容
4. 各学年の目標と内容①
5. 各学年の目標と内容②
6. 各学年の目標と内容③
7. 各学年の目標と内容④
8. 音読・群読・朗読の指導
9. 伝統的な言語文化の指導
10. 指導計画の作成と内容の取扱い
11. 学習指導案①
12. 学習指導案②
13. 模擬授業①
14. 模擬授業②
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学習

テキストを読み、国語科の目標を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、授業中随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。国語科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

1. 「小学校学習指導要領 社会」の目指す理念や目標を理解することができる。
2. 「小学校学習指導要領 社会」の変遷と、いま求められている社会科学力について、理解することができる。
3. 具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。
4. 社会の出来事に関心を持つことができる。
5. このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

これまでの「小学校学習指導要領 社会」の変遷を概観しながら、現行の「小学校学習指導要領 社会」に基づき、教育内容と指導法を考察し、教材研究の方法や学習指導法、評価方法の習得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力・実践力を高める。

授業計画

1. オリエンテーション:社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり①)
3. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり②)
4. 社会科教育の今日的課題:社会科の目標と内容、生活科・総合的な学習の時間との関係
5. 社会科の教材研究と授業の構想①(資料の活用と教材化)
6. 社会科の教材研究と授業の構想②(授業の仕組みと展開)
7. 社会科の教材研究と授業の構想③(学習指導案の書き方と授業の見方・評価)
8. 地域学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
9. 地域学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)
10. 地理的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)

11. 地理的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)
12. 歴史的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
13. 歴史的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)
14. 公民的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
15. 公民的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学習

- ・『小学校学習指導要領解説 社会編』を熟読する。
- ・日々、新聞の社会・政治・経済・文化欄を読み、教材化を構想する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成20年8月 東洋館出版社
適宜、資料プリントを配布する

参考図書

参考図書は、適宜必要に応じて紹介する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

小学算数科の概略を把握し、その目標と教育内容・方法、そして、教材研究と指導法を習得することと、それらを実際に授業で実践できる力を養成することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

まずは、小学校算数科の内容である、
A. 数と計算、B. 量と測定、C. 図形、D. 数量関係と「算数的活動」、「用語・記号」を学び、その教育方法を考察する。さらに、教材・指導案を作成し、それらにもとづいた模擬授業をおこなう。互いの模擬授業については、評価・考察もおこなう。

授業計画

1. オリエンテーション—算数とは
2. 算数科の全体構造
3. A. 数と計算—整数と加減乗除
4. A. 数と計算—小数と加減乗除
5. A. 数と計算—分数と加減乗除
6. B. 量と測定—量の概念、単位
7. B. 量と測定—面積、体積
8. B. 量と測定—速さ、重さ
9. C. 図形—平面図形
10. C. 図形—空間図形
11. D. 数量関係—式、関数
12. D. 数量関係—割合、比、統計
13. 算数的活動について
14. 教材研究・指導案
15. 模擬授業

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、実際に自分で解いたり書いたりすることで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学習

小学校の算数の内容がどんなものであったかを思い出しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超えた欠席は不合格とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成20年8月版）
「これならわかる 大学生のための数学・理科計算ドリル」、樋口勝一著、晃洋書房

留意事項

算数が苦手な人もはじめてはいねいに説明するので、安心して受講してほしい。

教員連絡先

higuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

小学理科の概略を把握し、その目標と教育内容・方法、そして、教材研究と指導法を習得することと、それらを実際に授業で実践できる力を養成することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

まずは、小学校理科の内容である、
A. 「エネルギー」と「粒子」、B. 「生命」と「地球」を学び、その教育方法を考察する。さらに、教材・指導案を作成し、それらにもとづいた模擬授業をおこなう。互いの模擬授業については、評価・考察もおこなう。

授業計画

1. オリエンテーション—理科とは
2. 理科の全体構造
3. A. エネルギー—光と音
4. A. エネルギー—電気
5. A. エネルギー—力と運動
6. A. 粒子—物の様子
7. A. 粒子—物の変化1
8. A. 粒子—物の変化2
9. B. 生命—植物
10. B. 生命—動物
11. B. 地球—地球
12. B. 地球—天体
13. 教材研究・指導案
14. 模擬授業
15. 模擬授業評価・考察

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、実際に解いたり書いたりすることで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学習

小学校理科内容を思い出しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席は、不合格とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」（平成20年8月版）

留意事項

理科が苦手な人もはじめからていねいに説明するので、安心して受講してほしい。

教員連絡先

higuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

生活科創設の経緯・背景を理解し、生活科の目標と内容を把握する。また、指導計画の作成や学習指導の在り方について実践を通して学び、生活科の授業づくりの基礎を培うことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校生活科の学習指導要領や授業例から、どのように学習内容が構成され、指導が進められているのかを考察する。また、生活科の指導案作成や模擬授業等を通して、実践力を育成していく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 生活科創設の理由と意義
3. 生活科の目標と内容①
4. 生活科の目標と内容②
5. 生活科の目標と内容③
6. 指導計画と学習指導①
7. 指導計画と学習指導②
8. 生活科の授業①
9. 生活科の授業②
10. 生活科の授業③
11. 生活科の授業④
12. 生活科の授業づくり①
13. 生活科の授業づくり②
14. 模擬授業
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学習

テキストを読み、生活科の目標を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。生活科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaiei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

特別活動の意義や役割、具体的な実践例を学ぶことを通して、小学校で特別活動を実施する際に求められる指導力の基礎を培うことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握するとともに、目標や内容を明らかにし、理解を深める。また、学校教育計画における特別活動の位置づけや、学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事の指導について、具体例をもとに学習を進めていく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 特別活動の構造と役割
3. 特別活動の目標と内容
4. 特別活動の歴史の変遷
5. 特別活動の指導内容と実践①
6. 特別活動の指導内容と実践②
7. 特別活動の指導内容と実践③
8. 特別活動の指導内容と実践④
9. 特別活動の指導内容と実践⑤
10. 特別活動の指導内容と実践⑥
11. 特別活動の指導内容と実践⑦
12. 特別活動の指導内容と実践⑧
13. 特別活動の指導内容と実践⑨
14. 特別活動の指導計画と指導案
15. 模擬授業

授業の方法

考えを書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学習

テキストを読み、特別活動の目標を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、授業中随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。特別活動の意義や指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子／大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

保育・教職課程科目や学校園でのボランティア活動等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討論、ロールプレイング
3. 社会性や対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬授業と討議①
12. 模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング

14. 最近の学校園現場での問題と課題
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とグループ討議を多く取り入れる。

準備学習

「履修カルテ」や「実習記録」を振り返り、自分自身の課題について把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は3点減点する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、文部科学省『小学校学習指導要領』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究 I	教職幼		17689	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	選択	1				

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教師の仕事とは何かなど、教育実習に参加するために必要な心構えや準備を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

1週間の観察・指導実習に向けて、実習の目的や意義、人権教育や教育実習の心構えについて学ぶ。実習記録のとり方や記録の仕方、部分実習の指導案の書き方を学び書けるようになる。

授業計画

1. 教育実習の概要、意義と目的について
2. "
3. 1週間の観察・参加実習園の選択と決定
4. 先輩の体験発表並びにアドバイス
5. 人権教育について
6. 3週間の実習依頼の仕方と手順・心得について
7. 記録のとり方・書き方について
8. 教育実習記録(I)の記入について
9. 実習に当たっての注意点・留意点について
10. 礼状作成
11. 1週間の観察・参加実習の成果や課題を話し合う
12. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
13. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
14. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
15. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成

授業の方法

配布プリントを中心に1週間の観察・参加実習について学び、意欲的

に実習に参加できるようにする。実習後は幼稚園から返却された実習記録や評価を基に個人指導を行う。

準備学習

幼稚園教育要領を読んで、5領域のねらいや内容を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

一回の欠席につき、10点の減点とする

テキスト

「幼稚園教育実習」玉置哲淳 建帛社

留意事項

実習に支障を来たすことのないようするための指導なので、原則として一回の欠席も認められないので、留意すること。やむを得ない理由がある場合はその旨を事前に申し出ること。

教員連絡先

okodes@occn.zaq.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職小		17697	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	1				

授業の到達目標

介護等の体験（特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間）によって、教員としての資質を十分に高められるよう事前準備をおこなうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考える。

授業の概要

「個人の尊厳と社会連携の理念」を深め、介護等体験特例法が制定された主旨を理解する。特別支援学校や社会福祉施設について知る。そして、身体的介護、車いすを利用している人などへの介助知識・留意点について学び、安全におこなえるよう指導する。

授業計画

1. 介護施設とは
2. 介護の心構えと実際
3. 高齢者の心と体
4. 認知症・身体障害を伴う高齢者の介護
5. 特別支援学校について
6. 特別支援学校について
7. まとめ
8. 介護等体験のための諸注意

授業の方法

映像とテキストの内容を中心に行う。

準備学習

社会福祉施設と特別支援学校について、テキストを読み簡単に理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

原則通常欠席は認めない（特例欠席は除く）

留意事項

8回すべて出席すること（特例欠席は除く）

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究Ⅱ	教職幼	17705	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	選択	1			

授業の到達目標

1 週間の実習成果を活かして、更に充実した本実習が出来るように、実習に必要な課題を確認すると共に、教材研究に取り組み実習の成果を確かなものにしていく。
本実習後は幼稚園教諭となるにふさわしい自分を目指して取り組む。
このクラスではK A I S E I パーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

1週間の実習園からの評価を基に自分の課題を明確にし、本実習に向けて意欲的に取り組むことが出来るようにする。
実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例を基に教材研究などを具体的に学ぶ。
本実習後は幼稚園教諭となるにふさわしい自分を目指して、課題の克服に努める。

授業計画

1. 本実習幼稚園へのオリエンテーション依頼の電話の掛け方などについて
2. 本実習に向けての教材研究をし指導案の作成に取り組む
3. "
4. "
5. 絵本の読み聞かせや歌唱指導について
6. "
7. 実習園のオリエンテーションを受ける
8. 実習園の教育理念や教育目標・指導方法等を学ぶ
9. 本実習に向けての教材研究をし、指導案の作成に取り組む
10. "
11. 実習記録の書き方などを再確認する
12. 本実習についての注意点や留意事項について
13. 礼状を作成する
14. 実習園の指導と評価に基づいて反省と省察を行い、課題を明確にする
15. まとめ

授業の方法

1週間の観察・指導実習の経験や反省・課題を基に意欲的に実習に取り組むことが出来るよう、教材研究や教材作成を通して学ぶ。

準備学習

1週間の実習記録や担当教諭からの指導を振り返り、自分の課題を明確にしておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき10点の減点とする

テキスト

教育実習Ⅰに同じ
随時プリントを配布する

参考図書

「幼児理解と評価」 文部科学省

留意事項

資格を取得するための実習である。遅刻や欠席は言語道断であり、1回の欠席も認められないので、留意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に必ず申し出ること

教員連絡先

okodes@dokomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC	17713	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	選択	2			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責についての理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 学校教育の制度①
3. 学校教育の制度②
4. 学校教育の制度③
5. 教育関係法規① 日本国憲法、教育基本法等
6. 教育関係法規② 学校教育法等
7. 学校の組織と経営①
8. 学校の組織と経営②
9. 教職員の職務と制度①
10. 教職員の職務と制度②
11. 学校の危機管理
12. 学校評価
13. 教育行財政
14. 社会教育・生涯学習
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループでの話し合いを多く取り入れる。

準備学習

テキストの9章「学校教育の制度」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

佐々木正治・山崎清男・北神正行編著『新 教育経営・制度論』福村出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	必修	2				

授業の到達目標

現代の諸事情により生活スタイルが変容していることを踏まえ、乳幼児の「健康」を守ることの必要性を感じとり、幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容を理解すること。また、実際に身体を動かすことの楽しさ・心地良さを体験し、幼児の発達に応じた運動遊びの指導方法を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

領域「健康」は、「健全な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う」領域である。毎日の生活において、満足感をもって楽しく充実して過ごすには健康が基本となり、生活上すべての活動の基本である。基本的な生活習慣におけるの自立への指導の観点から、健康な身体づくり・健康管理・安全教育など、心身ともに健康な生活を送るためには何が必要であるかを理解する。そして、子どもの発達段階を踏まえながら学習をすすめる。

授業計画

- 1.健康の意義と乳幼児の健康
- 2.子どもの身体の発達
- 3.身体の発達と運動能力
- 4.安全の指導
- 5.領域「健康」と保育の計画
- 6.3～5歳児の運動遊びと指導のポイント
- 7.運動遊びの指導方法①(伝承遊び・日常生活物を活用した遊び)
- 8.運動遊びの指導方法②(移動遊具を用いた遊び)
- 9.運動遊びの指導方法③(固定遊具を用いた遊び)
- 10.自然遊びの指導方法
- 11.0～2歳児の動きと生活
- 12.0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得
- 13.0～2歳児の遊び
- 14.3～5歳児の生活習慣の獲得
- 15.安全への配慮と保育者の役割・まとめ

授業の方法

ディスカッションを取り入れます。

準備学習

幼稚園教育要領・保育所保育指針の「健康」の解説をよく読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

テキスト

演習 保育内容 健康 河邊貴子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

留意事項

運動遊びの指導方法①～③では、体操服・体育館シューズ・新聞紙を持参のこと。場所はその都度連絡する。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

幼児を取り巻く様々な環境（物的・心理的）に目をむけ、環境が成長発達に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは、環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となる。自ら進んで自然に目をむけ、豊かな感性を身につけ、また現代社会の環境問題にも関心を持って取り組めるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考えます。

授業の概要

幼稚園教育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。幼児にとって身近な環境は、心身の発達や人間らしい心を培うだけでなく、知的好奇心を誘う魅力的な存在でもある。幼児のときから人間を取り巻く環境に目を向けさせ、きれいな環境作りに関心を持たせるためには、どう取り組めば良いのか。日常生活の中での環境についての理解を深める。

授業計画

- 1.領域「環境」の意味
- 2.領域「環境」のねらいと内容
- 3.自然・季節とのかかわりにおける子どもの育ち
- 4.教室を出て実際体験する
- 5.グループでの話し合いと発表
- 6.子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題①
- 7.子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題②
- 8.環境へのかかわり方の発達
- 9.子どもの活動を引き出す保育環境
- 10.物や生き物とのかかわりにおける子どもの育ち

- 11.地域社会・施設とのかかわりにおける子どもの育ち
- 12.情報環境・文化財とのかかわりにおける子どもの育ち
- 13.数量・図形への興味と関心の育ち
- 14.文字・標識への興味と認識の育ち
- 15.子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割・保育計画

授業の方法

講義を中心に、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学習

日ごろから身近な環境に目を向け、疑問や問題意識を持つよう心がけておく。
テキストを読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

シードブック 保育内容 「環境」第2版 榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岡田 るみ子	選択	2				

授業の到達目標

「幼稚園教育要領解説」の中で述べられた幼児教育の考え方を理解し、具体的な保育内容や指導・援助の方法について、体験を通して学びながら、保育者として自ら考え、創意・工夫して保育を展開していく実践力を身につけていく。
この科目ではKAISEIパーソナリティのI（知性）と感性を養うことを目指します。

授業の概要

幼稚園における幼児教育は、保育者が幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うことが基本である。幼児は主体的な遊びや活動の中で、様々な体験を通して、望ましい心情・意欲・態度を身につけていくことが必要である。そのために、保育者の指導のあり方（保育内容・環境構成・援助）はどうあるべきかを講義や演習を通して、幼児の視点、教師の視点の両面から考え、学習していく。

授業計画

1. 幼児期の特性と保育者の役割
2. 環境を通して行う保育 幼児の主体性を大切に保育
3. 遊びを通しての指導・援助 一人一人の特性に応じた保育
4. 保育の種類・形態により、保育内容がどのように変わるか
5. 遊びや活動の実際(1) 集団遊び
6. 遊びや活動の実際(2) 造形的活動(製作)
7. 遊びや活動の実際(3) 音楽的活動(楽器遊び)
8. 遊びや活動の実際(4) 運動遊び
9. 遊びや活動の実際(5) 造形的活動(描画)
10. 遊びや活動の実際(6) 行事(誕生会)
11. 遊びや活動の実際(7) ペーパースーツ・指人形等
12. 遊びや活動の実際(8) 音楽的活動(歌唱・身体表現)

13. 幼稚園教育から小学校教育への接続
14. 保護者への対応・トラブルの指導
15. 幼稚園教育の現状と問題点

授業の方法

講義、学生による課題発表とディスカッションによる。

準備学習

「幼稚園教育要領解説」を読み、様々な先輩保育者の保育を参観する機会をできるだけもつようにする。

課題・評価方法

課題発表40% レポート40% 平常点20%

欠席について

欠席回数は成績に反映する。

テキスト

「子どもの育ちと保育者のかかわり」 本吉園子著 萌文書林
「幼稚園教育要領解説」 文部科学省

参考図書

「幼児教育の方法」 小田豊・青井倫子編著 北大路書房

留意事項

授業中に使用する物を事前に知らせるので、忘れずに持ってくること。課題発表担当者の指導計画提出は期日厳守。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論（カウンセリングを含む）			17729	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

- ・ 幼児理解に基づく指導や環境構成の意義と教師の役割についての理解を深める。
- ・ 幼児の心身の発達の道筋を理解し、それぞれの発達課題に即した適切な支援のあり方を学ぶ。
- ・ カウンセリングマインドの内容を理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの援助者として、心の拠り所となる保育者の役割を理解する。
- ・ このクラスはKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助、組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた、具体的な環境を整えることで自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となり、幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を指導するということの本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、具体的な事例を挙げながら解釈する。

授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 環境を通しての教育
3. 遊びを通しての教育
4. 幼児の主体性の育成
5. 保育者の役割
6. 遊びのなかの学びを育む保育①
7. 遊びのなかの学びを育む保育②
8. 保育形態による幼児の育ちと保育者の役割
9. 保育における評価
10. 小学校教育との関連
11. 家庭や地域との連携
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え

13. 基本的な生活習慣の育ちの支援
14. 子どもの健やかな育ちの支援
15. 園生活に困難を抱える子どもの支援

授業の方法

教科書を中心に、事例を多く取り入れ講義をに進める。意見を発表したり、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようになる

準備学習

テキストを読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は成績評価に反映する

テキスト

新保育ライブラリ「幼児教育の方法」 小田豊・青井倫子編著 北大路書房

参考図書

保育カウンセリングマインドへの招待 富田久恵・杉原一昭編著 北大路書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

小学校音楽科の教育課程に関する知識・技能及び指導力を身につけることを目的とする。今日的教育課題である意欲・興味・関心といった意識の向上を捉えつつ、幅広い音楽活動の指導ができる指導者の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

概説として、『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得する。特に明治以降の音楽教育について考察を深め、これからの音楽教育についてのディスカッションも行う。実践としては、歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習を行い、音楽の基礎知識を習得しながら各自の音楽技能を高めていく。さらに、模擬授業や音楽会のための計画、発表を行うことにより指導力を身につけ、子どもの豊かな音楽表現を引き出せる指導法を研究する。

授業計画

- 1.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 2.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 3.楽典の基礎。ピアノ演習
- 4.リコーダーの理解と合奏
- 5.いろいろな楽器の理解と奏法
- 6.合奏教材の研究と演習
- 7.歌唱教材の研究と演習
- 8.指揮法の基礎と指導の演習
- 9.鑑賞教材の研究 西洋音楽の理解
- 10.日本の伝統音楽の理解
- 11.日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
- 12.日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
- 13.音楽科指導計画と学習指導案
- 14.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習
- 15.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習

授業の方法

項目ごとに講義を行ってから、個人であるいはグループで演習や研究発表を行う。

準備学習

バイエル終了程度の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき5点減点

参考図書

教育芸術社『小学校の音楽1～6』

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
黒岩 和子	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領の「A表現」・「B鑑賞」領域と、「共通事項」の内容・評価方法を理解し、美術教育の問題点を理解した上で、図画工作科の授業を組み立てることができる。また、各学年の目標や内容の構成、材料の扱い方等を理解し、指導するために必要な基礎的知識・技術を習得し、実践的な指導力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について講義を行う。また、造形遊びをする・絵に表す・工作に表す・立体に表す・鑑賞する等の実践例をもとに授業分析を行い、制作を通して各学年の指導技術や指導のポイントを学ぶ。

授業計画

1. 図画工作科の目標及び内容の構成、各領域・及び「共通事項」の内容について
2. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(1)
3. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(2)
4. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(3)
5. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(4)
6. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法・評価について(5)
7. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(1)
8. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(2)
9. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(3)
10. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法・評価について(4)
11. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(1)
12. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(2)
13. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(3)

14. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(4)
15. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法・評価について(5)

授業の方法

講義とディスカッション、実技を中心とする。

準備学習

次の授業にかかわる構想を立ててくる。授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参する。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業のはじめにその時間のねらい等の講義をすることと、様々な材料・用具体験をするため、遅刻・欠席をしないようにする。1回の欠席につき5点減点、1回の遅刻につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

出席と授業態度(準備や提出物等を含む)を重視する。図画工作科の指導法を学ぶ意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身につける。現代社会の要請や小学生の発達段階・生活実態をふまえた家庭科の授業づくりができるようする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科教育のために必要な学習指導の理論、知識、技術を学ぶ。現代社会の要請をとらえ、小学生の発達段階や生活実態をふまえた家庭科の教材開発を行う。小学校教育における家庭科の位置づけだけでなく、変動する経済・社会との関連で、家庭科教育のあり方を考えていく。

授業計画

1. 家庭科教育の本質
2. 家庭科教育の目標
3. 家庭科教育の内容
4. 家庭科教育の学習指導
5. 家庭科教育の指導計画 1
6. 家庭科教育の指導計画 2
7. 家庭科教育の評価・家庭科教育の施設設備
8. 家庭科の担当教師
9. 諸外国における家庭科教育
10. 家庭科教育における実践的研究
11. 模擬授業 1
12. 模擬授業 2
13. 模擬授業 3
14. 家庭科教育の課題と展望
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとり入れる。

準備学習

高等学校までの家庭科を復習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

教師養成研究会・家庭科教育学部会編著『小学校家庭科教育研究』学芸図書

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭科編』必要に応じて授業中に指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	2				

授業の到達目標

小学校体育の目標や内容を基に、実際の指導に即した具体的な指導計画の立案、指導方法の習得等、実践的な指導力を育成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

小学校体育に関する基本的な考え方を理解し、発達段階に応じた指導の方法について学ぶ。具体的には、体育の特徴・目標・内容・計画・評価等について学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 体育授業を実践していくために
3. 子どもの心と体と体育
4. 体育の目標と体育授業の特徴
5. 体育の内容と学習過程
6. 体育授業の指導計画
7. 体育授業の考え方・進め方①
8. 体育授業の考え方・進め方②
9. 体育授業の考え方・進め方③
10. 体育授業の考え方・進め方④
11. 体育授業の考え方・進め方⑤
12. 体育授業の考え方・進め方⑥
13. 体育授業の計画と評価①
14. 体育授業の計画と評価②
15. まとめ

授業の方法

ディスカッションを取り入れます。

準備学習

『小学校学習指導要領解説 体育編』をよく読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業時に指示する。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育を、人間の生き方そのものが問われる全人格的な教育として捉え、人と人との関わりの中でどのように生きる事がより豊かなのか、道徳的価値に関する感覚及びそれに基づいた態度をどのように育成できるのかを、教育の現場において子どもに指導できる能力を育成することを目指している。
このクラスではK A I S E I パーソナリティのE（倫理）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

道徳教育の意義・目的・方法などを理解した上で、学校における道徳教育及び道徳の授業について具体的・実践的に学んでいく。道徳教育の今日的課題について検討すると共に、絵本・学習指導要領なども活用しながら実践的・多面的に学んでいく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 生きる力と道徳性の芽生えについて
3. 道徳教育年間指導計画について
4. 道徳と道徳教育（主として自分自身に関すること）
5. （主として自分自身に関すること）
6. "（主として他の人とのかかわりに関すること）
7. "（主として他の人とのかかわりに関すること）
8. "（主として集団や社会とのかかわりに関すること）
9. "（主として集団や社会とのかかわりに関すること）
10. "（主として自然や崇高なもののかかわりに関すること）
11. "（主として自然や崇高なもののかかわりに関すること）
12. 教材の開発と発表（絵本講読や絵本づくり）
13. "
14. "
15. まとめ

授業の方法

小学校学習指導要領に従って道徳教育の目標や内容・基本的配慮事項などを学ぶ。児童の発達段階にあった教材を発表し合って学ぶ。

準備学習

自分の生活の中から教材となるような事柄に目を向け、教材開発に努める。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき2点の減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 道徳編」

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

教材となる事柄が身近に存在している。常に問題意識をもって主体的に取り組むようにされたい。

教員連絡先

okodes@docomo.ne.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小		17753	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

1. 学校現場における生徒指導・進路指導の内容と課題を理解する。
2. 課題解決に向けて、実践的な指導力を身につける。
3. 中・高校の教員としての資質・能力を高める。
4. このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

急激な社会変化や格差社会の拡大のなかで、生徒をめぐる環境について多くの課題が指摘されている。一方、学校現場でもいじめや不登校、学級崩壊などの生徒指導の問題や自分の進路をつかめない生徒の問題等、課題が山積している。授業では、『生徒指導提要』に基づき、生徒の気持ちを大切に生徒指導・進路指導のあり方を考察する。また、生徒指導・進路指導に関する基礎知識を理解し、実践的な指導力を身につけることを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション(生徒指導の現状・生徒指導の意義と役割)
2. 適応と発達(適応と適応機制・発達の理論・青年期の発達)
3. 生徒理解(生徒理解の方法と留意点)
4. 学校運営と生徒指導(問題行動・生徒指導体制)
5. 生徒指導と法制度(懲戒と体罰)
6. 生徒指導と教育相談(教育相談と進路指導・カウンセリング)
7. 生徒指導と学級(ホームルーム)経営
8. 生徒指導と学習指導(教科指導と道徳指導・特別活動と生徒指導)
9. 生徒指導の今日的課題①(暴力行為・非行・性非行と性被害・薬物乱用)
10. 生徒指導の今日的課題②(不登校・中途退学・いじめ)
11. 生徒指導の今日的課題③(スウェーデンのいじめ対策・いじめエクササイズ)
12. 生徒指導と特別支援教育
13. 開発的生徒指導
14. 生徒指導と危機管理
15. 教職科目としての生徒指導論

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学習

- ・文部科学省『生徒指導提要』を熟読する。
- ・テレビ、新聞等の報道を通して、児童生徒にかかわる社会・教育時事に関心を持つ。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

文部科学省『生徒指導提要』
本田由紀『「家庭教育」の隘路—子育てに脅迫される母親たち』
楠本恭久・藤田圭一編著『新生徒指導論12講』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 I B			17762	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標

「子どもの保健I A」の子どもの心身の発育・発達について学習してきたことを踏まえて、保育者に必要とされる子どもの保健分野をより深めるために、子どもの疾病とその予防法および適切な対応、保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。なお、施設における子どもの心身の健康および安全の実施体制について理解する。
このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

成長発達途上にある子どもは、さまざまな面で未熟であり、事故発生の危険性や感染症などに罹ることが多い。保育者は日々子どもの心身の健康を守り、増進し、順調な発育・発達を促すことは、保育する上において最も基本的な要件である。「子どもの保健 I A」で基礎的な知識についての理解を得た上で、「子どもの保健 I B」では子どもの感染症や病気に対する予防や処置、事故に対する応急処置の仕方などについて学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政の関わりや法制度についての現状や保育者自身の健康管理の必要性も学ぶ。

授業計画

1. 子どもの病気と保育①
子どもの病気の特徴
2. 子どもの病気と保育②
子どもの健康状態の把握
3. 子どもの病気と保育③
主な症状の見方と対応
4. 子どもの病気と保育④
子どもの病気の予防と対応
5. 子どもの病気と保育⑤
子どもによく見られる疾患① 感染症
6. 子どもの病気と保育⑥
子どもによく見られる疾患② 感染症
7. 子どもの病気と保育⑦
子どもによく見られる疾患① 感染症以外の病気
8. 子どもの病気と保育⑧
子どもによく見られる疾患② 感染症以外の病気
9. 子どもの病気と保育⑨
障がいのある子どもたち
10. 環境および衛生管理並びに安全管理①
保育環境整備と保健
11. 環境および衛生管理並びに安全管理②
保育現場における衛生管理
12. 健康および安全の実施体制
保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理
13. 保育所と家庭の連携
14. 母と子どもの保健
15. 母と子どもの保健

授業の方法

主に講義形式で進める

準備学習

日頃から子どもの発育・発達に関心を持つ。子どもの事故や感染症の流行に関しての新聞記事など身近なこととして捉える。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

保育・教育ネオシリーズ21
子どもの保健—理論と実際— 岸井勇雄・無藤 隆・柴崎正行監修 同文書院

参考図書

新 保育士養成講座 第7巻 子どもの保健 新 保育士養成講座編纂委員会/編
全国社会福祉協議会
保育に役立つ 子どもの健康+病気ハンドブック 学習研究社

留意事項

受講条件として「子どもの保健 I A」を履修した者

教員連絡先

kawata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護内容			17766	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1	(①－⑧)			

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化してきている。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となってきた。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とします。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
児童の社会的養護の理念と概念
2. 施設における子どもの社会的養護
施設養護の特質と機能
3. 施設における子どもの社会的養護
施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
4. 施設養護の職員
児童福祉施設援助者としての人間性と専門性
5. 社会的養護の実際施設における生活リズムと日課
衣食住の基礎的ニーズの充足
6. 社会的養護の実際
しつけ、学習指導、余暇生活
7. 社会的養護の実際
学校教育や地域社会との連携、自立支援
8. 社会的養護における支援の計画と内容
個別支援計画作成の留意点と作成事例

9. 虐待問題と児童養護
増加する児童虐待の要因と課題
10. 虐待問題と児童養護
家庭・施設の実態と児童虐待、児童虐待への対応
11. 今後の課題と展望
施設の小規模化と地域とのかかわり、社会的養護の課題と展望
12. 施設養護の実際
児童養護施設、知的障害児施設
13. 障害児、その保護者への支援
事例からの考察
14. 社会福祉専門職としての保育士の役割
15. まとめ

授業の方法

VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とします。積極的な参加を求めます。また、指定教科書はありませんが、ノートはしっかり取ってください。

準備学習

児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めておいてください。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

理由のある公欠以外は、認めません。

テキスト

特に指定しません。必要に応じて、プリントを配布します。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
相談援助			17770	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1	(①－⑧)			

授業の到達目標

授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを目的とする。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標とします。

授業の概要

少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

授業計画

1. 社会福祉援助技術の体系と歴史①
2. 社会福祉援助技術の体系と歴史②
3. 社会福祉援助技術の体系と歴史③
4. 社会福祉援助技術の体系と歴史④
5. 人間関係と自己理解 ①
6. 人間関係と自己理解 ②
7. 人間関係と自己理解 ③
8. 人間関係と自己理解 ④

9. 社会福祉専門職の価値・倫理 ①
10. 社会福祉専門職の価値・倫理 ②
11. 社会福祉専門職の価値・倫理 ③
12. 社会福祉専門職の価値・倫理 ④
13. 事例研究 ①
14. 事例研究 ②
15. まとめ

授業の方法

VTR、DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解します。

準備学習

子どもに関わる日常の社会的事例について、関心を深めてください。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めません。

テキスト

『保育における相談援助・相談支援』西尾祐吾 監修 安田 誠人・立花直樹編、晃洋書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育相談支援			17772	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	1	(8) - (15)			

授業の到達目標

本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスでは海星パーソナリティのS(奉仕)を目標します。

授業の概要

「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。
また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面でに必要な知識と技術についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション技法 ①
3. コミュニケーション技法 ②
4. コミュニケーション技法 ③
5. 面接技法 ①
6. 面接技法 ②
7. 面接技法 ③
8. 面接技法 ④
9. コミュニティーワーク①
10. コミュニティーワーク②

11. コミュニティーワーク③
12. 事例研究 ①
13. 事例研究 ②
14. 事例研究 ③
15. まとめ

授業の方法

VTR, DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深めます。また、双方向の授業ですから、積極的な参加を求めます。

準備学習

日常から子どもに関わることに関心を持ってください。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めません。

テキスト

『保育における相談援助・相談支援』西尾祐吾 監修 安田 誠人・立花直樹編、晃洋書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家庭支援論			17774	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割、子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。ニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携を考えることができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともにK（思いやり）を考える。

授業の概要

まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

1. 家庭の意義と役割
2. 家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
3. 現代の家庭における人間関係
4. 地域社会の変容と家庭支援
5. 男女共同参画社会とワークライフバランス
6. 子育て家庭の支援体制
7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策
8. 子育て支援サービスの概要
9. 保育所入所児童の家庭への支援
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 要保護児童及びその家庭に対する支援
12. 子育て支援における関連機関との連携
13. 諸外国における子育て支援
14. 子育て支援サービスの課題
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、子育て支援についてのプレゼンテーションやディス

カッションをとりいれる。

準備学習

家族や家庭生活についての基本的テキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育			17777	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健康やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して実践力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実際を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1. 乳児保育とは 乳児保育はなぜ必要か
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味
5. 胎児の世界と謎
6. 乳児期の発達
7. 乳児期の生活と保育
8. 乳児の環境と人間関係
9. 乳児期の保育課程と指導計画
10. 保育の記録と評価の方法
11. 伸びやかさを育てる遊びと保育
12. 乳児期の児童文化と遊び
13. 地域における子育て支援
14. さまざまな発達の考え方
15. 乳幼児健診による早期発見・早期療育と保育の役割

授業の方法

講義と演習を中心とする。

準備学習

日常生活の中で目にする乳児の生活や遊び・保護者との関わりの様子に関心を持って見る。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育 (株)みらい 大橋貴美子編
保育所保育指針

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一 フレーベル館

教員連絡先

kawata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
東口 たまき	選択	2				

授業の到達目標

障がい児のためだけではなく、彼らを取り巻く人々にそれぞれの障がいを理解してもらうための保育論です。障害の歴史、障害の理解、障がい児の支援方法、障がい児のいるご家庭の支援方法など、様々な教育、支援ができる保育者育成を目指します。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考えます。

授業の概要

様々な困難をもつ障がい児がいるクラスの集団的保育だけでなく、それぞれ子どもに合ったオーダーメイドの保育ができるよういくつかの理論を使って保育方法、支援方法を学びます。また、臨床現場における発達相談を取り上げ、実際、保育者として相談を受けた時にどのように相談に応じればいいのかも学びます。

授業計画

1. 障害の歴史
2. 身体障害について
3. 発達障害について①
4. 発達障害について②
5. その他の障害について
6. 障がい児と感覚統合運動①
7. 障害児と感覚統合運動① 乱暴な子どもについて
8. 障害児と感覚統合運動② 落ち着きのない子どもについて
9. 障害児と感覚統合運動③ 大人しい子どもについて
10. TEACCH プログラムについて
11. 発達相談とその対応 ① 事例研究
12. 発達相談とその対応 ② 事例研究
13. 発達相談とその対応 ③ 事例研究
14. 発達検査について
15. 障がい児、障がい者の理解と実践

授業の方法

始めは講義中心で、障害特性など障害の知識を得てもらいます。その後、様々な事例や発達相談などを取り上げ、講義で得た知識を

使って解決方法を学生さんに考えてもらいます。

準備学習

例えば、日ごろから、障害のある方々だけでなく、ご老人や妊婦の方々に公共交通機関では席を譲るなど、自分をその相手の立場に置き換えてみてください。人を大切にすることをいつももつことがこの講義の準備です。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

原則として欠席は認めません。また、3回の遅刻は、1回の欠席扱いとします。

テキスト

『障害児保育』 編者：大場幸夫 柴崎正行編 serise15
ミルネヴァ書房

参考図書

授業中に紹介します。

留意事項

障がい児や障がい者に関わるボランティアに参加されたら、レポートを提出してください、評価の対象にします。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小	17785	Ⅲ	集中	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	選択	1	(①-⑧)		

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に際して必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例を通して、小学校教師の様々な仕事について学び、教育実習に備える。

授業計画

- 1.オリエンテーション 小学校教育実習を受ける前に
- 2.実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3.実習中の心得①
- 4.実習中の心得②
- 5.児童や教職員との接し方
- 6.学級経営のポイント
- 7.学習指導案の作成
- 8.実習記録の書き方

授業の方法

考えを書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学習

テキストに目を通し、教育実習への心構えや質問をまとめておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

原則として欠席は認めない。欠席した場合は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して、参加すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A		17811	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2	通年で2単位		

授業の到達目標

保育実習の意義・目的を理解し自らの課題を明確化する。実習を円滑に進めていくための知識や技術を習得し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習をより効果的に行う。このクラスでは、KWASEIパーソナリティのS（奉仕）を目指す。

授業の概要

児童福祉施設の機能や保育士の役割、子どもの生活と援助の仕方について理解する。実習学習を通して実習の意義・目的・内容・方法・心構え・実習記録の書き方について学ぶ。また事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業計画

- 1.実習の意義・目的の理解
- 2.実習の方法の理解
- 3.実習の心構え
- 4.実習施設の理解(1)
- 5.実習施設の理解(2)
- 6.実習における観察・記録・評価のしかたの理解
- 7.実習に関する諸手続
- 8.事後指導における実習の総括と今後の課題の明確化

授業の方法

ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学習

各自が実習施設について事前調査をし、施設の特徴や内容などわかる範囲で把握しておく。

課題・評価方法

授業出席・事前指導レポート・諸手続き・事後指導レポート・実習報告書提出等により評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A			17811	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2	通年で2単位			

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのS(奉仕)を考える。

授業の概要

保育実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所実習Ⅰ・Ⅱの実習の方法について理解し実習生としての心構えを持つ
3. 実習の内容と課題を明確化する
4. 保育所実習のありかたを学ぶ
[はじめての保育実習]の体験DVDを観る
5. 実習保育所について理解する
6. 保育課程・指導計画・デイリープログラムについて再認識し理解を深める
7. 実習における観察実習・部分実習の実習記録の書き方について理解する
8. 実習に関する事務手続きについて把握する(検便・健康診断等も含む)
9. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方について理解する
10. 保育内容実践(遊びの指導)
11. 保育内容実践(遊びの指導)
12. 保育内容実践(遊びの指導)
13. 保育内容実践(遊びの指導)
14. 実習に際しての留意事項
15. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学習

各自が実習保育所について特徴や保育のとりくみ、立地条件など事前に情報の把握しておく。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など)

教員連絡先

kawata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

現代人間学部 英語キャリア学科
教職に関する科目

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論	教職中等		14101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

教育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義と教師の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。

教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教育とは何か……人間形成と教師の役割
- 3.教職の意義
- 4.教職の歴史
- 5.初等中等教育と教員
- 6.教師に求められる資質と能力
- 7.教員の身分及び服務義務
- 8.教員の職務について(1)
- 9.教員の職務について(2)
- 10.教育課程とは
- 11.障害を受けている子どもの教育と課題
- 12.開かれた学校づくり・地域社会との連携
- 13.子どもと保護者、教育の現状と課題
- 14.優れた教師・魅力的な教師を目指して

15.まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

広岡義之編『新しい教職概論・教育原理』関西学院出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職中等		14115	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
 - 2 教育の思想と歴史的変遷について学ぶ。
 - 3 教育の制度について学ぶ。
 - 4 教育実践の取組みについて理解する。
 - 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。

授業計画

- 1.教育の意義と作用
- 2.教育の本質と教育目的
- 3.教育思想の歴史的展開
- 4.社会・文化と教育
- 5.家庭教育の特質と機能
- 6.学校教育の特質と組織
- 7.社会教育と生涯教育
- 8.福祉社会の形成とその担い手
- 9.教育制度
- 10.教育法規
- 11.教育内容
- 12.教育課程
- 13.教育実践の基礎理論
- 14.生涯学習社会と教育

15.講義全体のまとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『教育原理』あいり出版

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職中等	14143	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
堀 正人	選択	2			

授業の到達目標

教育方法の研究、教育課程、子ども理解、指導方法、教育評価について理解し、授業の設計技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を学び、計画力、想像力を養います。

授業の概要

学校教育の理念に基づいて、教育課程、教育を実践するための方法や知識及びその技術を学ぶ。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外の授業(道徳、総合的な学習の時間、特別活動)の役割。
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造について
7. 学校における集団学習の方法(組織、年間計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践
11. 学力と教育評価について
12. 特別支援教育について
13. 模擬授業による実践と考察1(道徳・特別活動)
14. 模擬授業による実践と考察2(総合的な学習の時間)
15. まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し、講義を行います。授業中にロールプレイ等を実施し、レポートを毎回作成してもらいます。

準備学習

小学校・中学校学習指導要領解説(総則)を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

参考図書

授業中に、その都度紹介します。

留意事項

授業中のレポート、感想文等を毎回提出してもらいます。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等	14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	1			

授業の到達目標

介護等の体験(特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間)によって、教員としての資質を十分に高められるよう事前準備をおこなうことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を考える。

授業の概要

「個人の尊厳と社会連帯の理念」を深め、介護等体験特例法が制定された主旨を理解する。特別支援学校や社会福祉施設について知る。そして、身体的介護、車いすを利用している人などへの介助知識・留意点について学び、安全におこなえるよう指導する

授業計画

1. 介護施設とは
2. 介護の心構えと実際
3. 高齢者の心と体
4. 認知症・身体障害を伴う高齢者の介護
5. 特別支援学校について
6. 特別支援学校について
7. まとめ
8. 介護等体験のための諸注意

授業の方法

映像とテキストの内容を中心に行う。

準備学習

社会福祉施設と特別支援学校について、テキストを読み簡単に理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

原則、通常欠席を認めない(特例欠席は除く)

留意事項

8回全てに出席すること(特例欠席は除く)。

教員連絡先

takeyasu@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等	14185	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
清水 篤	選択	2			

授業の到達目標

1. 特別活動の内容と方法について理解する。
2. 学校及び学級集団における自主的・主体的活動の形成とそれを通してのルールづくり等について学ぶ。
3. 集団を通して、個性の尊重、他者との協力・協力の力について理解する。
4. 「社会に参画する力を育てる特別活動」の意義を理解する。
5. このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

「特別活動とは何か」について、中学校・高等学校におけるその歴史、目的、内容、活動領域を理論的・実践的に考察する。教育課程における特別活動の理念と実際を把握するとともに、その目標や内容を明らかにし、理解を深める。また、教育計画全体における特別活動の位置づけについて知り、学級活動・生徒会活動・学校行事等について実際の学習を進めていく。さらに、特別活動の考え方や、実際の取り組みを学ぶことを通して、中学校・高等学校で特別活動に取り組む際に求められる力量（実践力・指導力）を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション:学校の教育活動における特別活動・特別活動の歴史の変遷
2. 学校教育と特別活動:教育課程の構造と特別活動の役割
3. 特別活動の内容と実践①:特別活動の目標・方法原理と意義
4. 特別活動の内容と実践②:各活動 学級(ホームルーム)活動の目標と内容
5. 特別活動の内容と実践③:各活動 生徒会活動と特別活動
6. 特別活動の内容と実践④:各活動 学校行事と特別活動
7. 特別活動の内容と実践⑤:各活動 部活動の目標と内容
8. 特別活動の今日的課題①:特別活動の特質と課題
9. 特別活動の今日的課題②:「総合的な学習の時間」と特別活動
10. 特別活動の今日的課題③:教科指導と特別活動
11. 特別活動と生徒指導の実際(学級崩壊・いじめ・不登校)

12. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業①(学級(ホームルーム)指導)
13. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業②(部活動)
14. 特別活動における学校安全と危機管理
15. 特別活動の充実と発展(全体的な指導体制の確立と学級・学年経営)

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学習

- ・『中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編』を熟読する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

- ・文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい
- ・『新しい特別活動指導論』高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	教職中等	14189	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

教育の全人格の形成の実現をめざしたカリキュラム編成の基本原則の理解を図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

本講義では、教育課程の原理を理解することにより、公的性格を有する学校が教育目的をどのように達成していくかという問題や、教育課程の類型、学習指導要領の歴史の変遷、最新の改訂などについて考察する。

授業計画

1. はじめに
2. 教育課程と教育目的・目標の関係
3. 教育課程の類型(1)
4. 教育課程の類型(2)
5. 教育課程の類型(3)
6. 学習指導要領の領域(1)
7. 学習指導要領の領域(2)
8. 学習指導要領総則
9. 指導計画の作成にあたっての留意事項
10. 特別活動、総合的な学習の時間の取り扱いについて
11. 学習指導要領の歴史の変遷(1)
12. 学習指導要領の歴史の変遷(2)
13. 学習指導要領の歴史の変遷(3)
14. 諸外国のカリキュラム
15. まとめ

授業の方法

講義を中心とするが発表も取り入れる。

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき2点減点

テキスト

- 田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房
- 文部科学省編『中学校学習指導要領』
- 文部科学省編『高等学校学習指導要領』

教員連絡先

nakata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職中等		14199	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職務についての理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 学校教育の制度①
3. 学校教育の制度②
4. 学校教育の制度③
5. 教育関係法規① 日本国憲法、教育基本法等
6. 教育関係法規② 学校教育法等
7. 学校の組織と経営①
8. 学校の組織と経営②
9. 教職員の職務と制度①
10. 教職員の職務と制度②
11. 学校の危機管理
12. 学校評価
13. 教育行財政
14. 社会教育・生涯学習
15. まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループでの話し合いを多く取り入れる。

準備学習

テキストの9章「学校教育の制度」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

佐々木正治・山崎清男・北神正行編著『新 教育経営・制度論』福村出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習（中・高）			14214	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子／惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びB（倫理）を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1. イントロダクション—これまでの学習と振り返りについて(1)～講義
2. 教師としての使命感や責任感、資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感、資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～講義
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の後、グループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行う。

準備学習

「教育実習の研究」をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

常に熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp（小野）、soya@kaisei.ac.jp（惣谷）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等		14217	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
堀 正人	選択	2				

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学びます。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）の基礎となる協調性や実行力を養い、事例研究の実践でK（思いやり）も考えます。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や児童生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、進路指導・キャリア教育を生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導
3. 教育課程と生徒指導 1 (教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導 2 (総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育と生徒指導
6. 生徒の心理と生徒理解
7. 学校における生徒指導体制(組織、年間計画、指導体制)
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導
12. 課題別生徒指導
13. 生徒指導に関する法制度
14. 事例研究 1
15. 事例研究 2、まとめ

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した生徒指導資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学習

生徒指導提要（文部科学省編）、13歳のハローワーク（村上龍著）を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後の講義終了時に届け出ること。

テキスト

文部科学省 編「生徒指導提要」教育図書

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中にレポート、感想文等を毎回提出してもらいます。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		14221	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)
10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

授業の方法

主に講義形式で進めるが、適宜、小テストと実習を行う。

準備学習

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

授業開始後、冊子を配布する（有料）。

留意事項

小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究(中等)	教職中	14229	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	1	(①-⑧)		

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、本学と提携した実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を巡回し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習の意義
2. 教育実習の事前研究
3. 教育実習の心得、教育実習の形態
4. 教育実習の事後研究
5. 学校経営・学校の組織
6. 生徒理解・生徒指導
7. 教育課程・学習指導
8. 道徳・特別活動・総合的な学習の時間
9. 授業研究
10. 授業準備
11. 学習指導案
12. 授業の工夫
13. 教室管理
14. 授業の評価と実習のまとめ
15. 教育実習事後指導

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを多く取り入れる。

準備学習

- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。
- ・英語科教育法I~IVの内容をよく復習しておくこと。
- ・テキストの『教育実習の研究』、及び『英語科教育実習ハンドブック』の第1・2章を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

教師要請研究会編『教育実習の研究』（学芸図書）
 米山朝二・杉山敏・多田茂著『英語科教育実習ハンドブック』
 改訂版（大修館）
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

索 引

- ・ シラバス索引 (科目コード順) P. 309
- ・ シラバス索引 (五十音順) P. 316

H25年度 シラバス索引 (科目コード順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
共通科目				
キリスト教入門	11101	竹田 文彦	I	133
聖書概論	11105	石丸 脩子	I	133
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	I	134
聖書と現代	11113	竹田 文彦	II	134
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	III	135
基礎演習 I	11201	各学科教員	I	135
基礎演習 II	11205	各学科教員	I	136
海星学 I	11206	各学科教員	II	136
海星学 II	11207	各学科教員	II	137
人間学 1	11209	尾崎 秀夫	I	137
人間学 2	11213	岡村 祥子	III	138
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子	I	138
文学入門	11309	箕野 聡子	I	139
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	I	139
心理学概論	11317	吉田 千里	I	140
統計学入門	11321	樋口 勝一	I	140
ジェンダー論	11325	浅井 由美	I	141
日本国憲法	11329	芹田 健太郎	I	141
健康科学	11333	竹安 知枝	I	142
健康スポーツ 1	11337	竹安 知枝	I	142
日本文化史	11353	箕野 聡子	II	143
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	II	143
自然科学概論	11361	樋口 勝一	II	144
現代家族関係論	11365	浅井 由美	II	144
社会福祉論	11369	清原 国臣	I	145
人権教育論	11373	丸岡 幸一	II	145
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	II	146
家政学概論	11381	浅井 由美	II	146
日本語表現法	11401	箕野 聡子	I	147
日本語表現法	11401	大岸 啓子	I	147
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	II	148
情報リテラシー 1	11501	樋口 勝一／米田 里香／武田 春美	I	148
情報リテラシー 2	11505	武田 春美／米田 里香	I	149
オフィス情報処理 1	11509	米田 里香／武田 春美	II	149
オフィス情報処理 2	11513	米田 里香	II	150
英語 1	11601	入江 和子／千葉 奈乙江	I	150
英語 2	11605	平野 真理子／釜須 久夫	I	151
英語 3	11609	平野 真理子／入江 和子	I	151
英語 4	11613	千葉 奈乙江／平野 真理子	I	152
英語 5	11617	Angus HALL	II	152
英語 5	11617	L' Shawn M. HOWARD	II	153
英語 6	11621	惣谷 美智子	II	153
英語 6	11621	L' Shawn M. HOWARD／Angus HALL	II	154
英語 7	11625	L' Shawn M. HOWARD	II	154
英語 7	11625	Angus HALL	II	155
英語 8	11629	惣谷 美智子	II	155
英語 8	11629	L' Shawn M. HOWARD／Angus HALL	II	156

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
フランス語 1	1 1 6 3 3	平田 淳子	I	156
フランス語 2	1 1 6 3 7	平田 淳子	I	157
フランス語 3	1 1 6 4 1	平田 淳子	I	157
フランス語 4	1 1 6 4 5	平田 淳子	I	158
フランス語 5	1 1 6 4 9	平田 淳子	II	158
フランス語 6	1 1 6 5 3	平田 淳子	II	159
フランス語 7	1 1 6 5 7	平田 淳子	II	159
フランス語 8	1 1 6 6 1	平田 淳子	II	160
中国語 1	1 1 6 6 5	坂口 文馨	I	160
中国語 2	1 1 6 6 9	沈 竑	I	161
中国語 3	1 1 6 7 3	坂口 文馨	I	161
中国語 4	1 1 6 7 7	沈 竑	I	162
中国語 5	1 1 6 8 1	坂口 文馨	II	162
中国語 6	1 1 6 8 5	沈 竑	II	163
中国語 7	1 1 6 8 9	坂口 文馨	II	163
中国語 8	1 1 6 9 3	沈 竑	II	164
専門科目 (英語キャリア学科)				
演習 I	1 3 1 0 1	石原 敬子	III	167
演習 I	1 3 1 0 1	小野 礼子	III	167
演習 II	1 3 1 0 5	石原 敬子	III	168
演習 II	1 3 1 0 5	小野 礼子	III	168
演習 III	1 3 1 0 9	石原 敬子	IV	169
演習 III	1 3 1 0 9	小野 礼子	IV	169
演習 IV	1 3 1 1 3	石原 敬子	IV	170
演習 IV	1 3 1 1 3	小野 礼子	IV	170
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Angus HALL	I	171
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Maidhc Ó CATHAIL	I	171
Oral Communication I	1 3 2 0 1	L' Shawn M. HOWARD	I	172
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Angus HALL	I	172
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Maidhc Ó CATHAIL	I	173
Oral Communication II	1 3 2 0 5	L' Shawn M. HOWARD	I	173
Reading/Writing I	1 3 2 1 0	L' Shawn M. HOWARD	I	174
Reading/Writing I	1 3 2 1 0	Angus HALL/千葉 奈乙江	I	174
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	L' Shawn M. HOWARD	I	175
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	Angus HALL/千葉 奈乙江	I	175
Grammar I	1 3 2 2 5	小野 礼子/服部 幸正/平野 真理子	I	176
Grammar II	1 3 2 2 9	服部 幸正/平野 真理子/小野 礼子	I	176
Pronunciation I	1 3 2 3 3	石原 敬子/L' Shawn M. HOWARD	I	177
Pronunciation II	1 3 2 3 7	L' Shawn M. HOWARD/石原 敬子	I	177
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Angus HALL	II	178
Oral Communication III	1 3 2 4 1	L' Shawn M. HOWARD	II	178
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	L' Shawn M. HOWARD	II	179
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Angus HALL	II	179
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	惣谷 美智子	II	180
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	L' Shawn M. HOWARD/Angus HALL	II	180
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	惣谷 美智子	II	181
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	L' Shawn M. HOWARD/Angus HALL	II	181
Grammar III	1 3 2 6 5	平野 真理子/惣谷 美智子	II	182
Pronunciation III	1 3 2 6 9	石原 敬子/L' Shawn M. HOWARD	II	182

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
観光英語 I	1 3 2 7 0	入江 和子／平野 真理子	I	183
観光英語 II	1 3 2 7 1	平野 真理子／入江 和子	I	183
ホスピタリティ精神論	1 3 2 7 2	石丸 脩子	I	184
日本文化論	1 3 2 7 3	箕野 聡子	II	184
翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	平野 真理子	II	185
Small Group Communication	1 3 3 0 5	L' Shawn M. HOWARD	II	185
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	L' Shawn M. HOWARD	III	186
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Angus HALL	III	186
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Angus HALL	III	187
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	L' Shawn M. HOWARD	III	187
Academic Reading 1	1 3 3 1 7	L' Shawn M. HOWARD	III	188
Academic Reading 1	1 3 3 1 7	Maidhc Ó CATHAIL	III	188
Academic Reading 2	1 3 3 2 1	Maidhc Ó CATHAIL	III	189
Academic Reading 2	1 3 3 2 1	L' Shawn M. HOWARD	III	189
Academic Writing 1	1 3 3 2 5	L' Shawn M. HOWARD	III	190
Academic Writing 1	1 3 3 2 5	Angus HALL	III	190
Academic Writing 2	1 3 3 2 9	Angus HALL	III	191
Academic Writing 2	1 3 3 2 9	L' Shawn M. HOWARD	III	191
Public Speaking and Oral Interpretation	1 3 3 3 3	Angus HALL	III	192
Academic Reading 3	1 3 3 3 7	Angus HALL／Maidhc Ó CATHAIL	IV	192
Academic Writing 3	1 3 3 4 1	Maidhc Ó CATHAIL／Angus HALL	IV	193
Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Angus HALL／L' Shawn M. HOWARD	IV	193
ことばと社会	1 3 4 0 5	小野 礼子	II	194
異文化理解	1 3 4 0 9	有村 理	II	194
英米文学入門	1 3 4 1 3	入江 和子	I	195
ことばの意味・文化	1 3 4 1 7	服部 幸正	II	195
Japanese Culture	1 3 4 2 5	Angus HALL	II	196
観光概論	1 3 4 2 6	北川 宗忠	I	196
国際観光交流論	1 3 4 2 7	青木 幹生	I	197
手話コミュニケーション I	1 3 4 2 8	若生 茂嗣／岩橋 博子	II	197
手話コミュニケーション II	1 3 4 2 9	若生 茂嗣／岩橋 博子	II	198
環境ツーリズム論	1 3 4 3 0	有村 理	II	198
観光事業総論	1 3 4 3 1	一尾 敏正	II	199
観光と世界遺産	1 3 4 3 2	有村 理	II	199
観光文化地理論	1 3 4 3 3	釜須 久夫	II	200
観光ビジネス実務論	1 3 4 3 4	有村 理／一尾 敏正	II	200
韓国語入門 I	1 3 4 3 5	宋 京珠	II	201
韓国語入門 II	1 3 4 3 6	宋 京珠	II	201
児童文学	1 3 5 0 1	箕野 聡子／福智 佳代子	II	202
Cross-cultural Communication	1 3 5 0 5	Angus HALL	III	203
English/American Culture	1 3 5 1 3	Angus HALL	III	203
英米文学研究	1 3 5 2 1	惣谷 美智子	III	204
女性と社会	1 3 5 2 5	浅井 由美	III	204
American Studies in U. S. A.	1 3 5 2 9		I	205
Australian Studies in Australia	1 3 5 3 7		I	205
Canadian Studies in Canada	1 3 5 3 9		I	206
Business English I	1 3 6 0 5	青木 幹生	II	206
Business English II	1 3 6 0 9	青木 幹生	II	207
ビジネス翻訳	1 3 6 2 1	檜本 雄三	III	207
国際マネジメントと英語	1 3 6 2 5	青木 幹生	III	208

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
インターンシップ	13629	平田 淳子	Ⅲ	208
児童英語教育概論	13701	福智 佳代子	Ⅰ	209
英語科教育法Ⅰ	13705	惣谷 美智子	Ⅰ	209
英語科教育法Ⅱ	13709	惣谷 美智子	Ⅱ	210
英語学概論	13713	服部 幸正	Ⅱ	210
英語音声学	13717	石原 敬子	Ⅱ	211
ことばの発達・学習	13721	福智 佳代子	Ⅱ	211
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	福智 佳代子	Ⅱ	212
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	福智 佳代子	Ⅱ	212
キッズ・イングリッシュⅢ (実習)	13733	福智 佳代子	Ⅲ	213
英語科教育法Ⅲ	13737	小野 礼子	Ⅲ	213
英語科教育法Ⅳ	13741	小野 礼子	Ⅲ	214
外国語教授法	13745	福智 佳代子	Ⅲ	214
TOEIC入門1	13801	土橋 有香	Ⅰ	215
TOEIC入門2	13805	土橋 有香	Ⅰ	215
教職概論 (初等)	13809	中田 尚美	Ⅰ	216
教育心理学	13813	澤田 瑞也	Ⅰ	216
TOEIC 1	13817	土橋 有香	Ⅱ	217
TOEIC 1	13817	平野 真理子	Ⅱ	217
TOEIC 2	13821	土橋 有香	Ⅱ	218
TOEIC 2	13821	平野 真理子	Ⅱ	218
TOEFL	13825	平野 真理子	Ⅱ	219
道德教育指導論	13829	丸岡 幸一	Ⅲ	219
専門科目 (観光ホスピタリティ学科)				
演習Ⅰ	15105	有村 理	Ⅲ	223
演習Ⅰ	15105	一尾 敏正	Ⅲ	223
演習Ⅰ	15105	北川 宗忠	Ⅲ	224
演習Ⅱ	15109	有村 理	Ⅲ	224
演習Ⅱ	15109	一尾 敏正	Ⅲ	225
演習Ⅱ	15109	北川 宗忠	Ⅲ	225
演習Ⅲ	15113	有村 理	Ⅳ	226
演習Ⅲ	15113	一尾 敏正	Ⅳ	226
演習Ⅲ	15113	箕野 聡子	Ⅳ	227
演習Ⅳ	15117	有村 理	Ⅳ	227
演習Ⅳ	15117	一尾 敏正	Ⅳ	228
演習Ⅳ	15117	箕野 聡子	Ⅳ	228
観光とホスピタリティ	15201	有村 理／一尾 敏正	Ⅰ	229
比較文化論	15341	福智 佳代子	Ⅲ	229
観光中国語入門	15349	橋本 由美子	Ⅲ	230
観光フランス語入門	15353	平田 淳子	Ⅲ	230
観光中国語	15429	橋本 由美子	Ⅲ	231
観光フランス語	15437	平田 淳子	Ⅲ	231
インターンシップ	15525	有村 理／一尾 敏正	Ⅲ	232
ホスピタリティ・マネージメント	15529	小郷 行男	Ⅲ	232
エアラインサービス論1 (グラウンドサービス)	15533	有村 理	Ⅲ	233
エアラインサービス論2 (インフライトサービス)	15537	熊澤 洋子	Ⅲ	233
イベント・コンベンション論	15541	一尾 敏正	Ⅲ	234
観光マーケティング論	15633	一尾 敏正	Ⅲ	234
観光政策論	15637	北川 宗忠	Ⅲ	235

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
航空ツーリズム論	15641	有村 理	Ⅲ	235
旅と法律Ⅰ	15645	芹田 健太郎	Ⅲ	236
関西文化論	15653	箕野 聡子	Ⅲ	236
企業研究	15661	有村 理／一尾 敏正	Ⅲ	237
専門科目（心理こども学科）				
演習Ⅰ	17101	中田 尚美	Ⅲ	241
演習Ⅰ	17101	大岸 啓子	Ⅲ	241
演習Ⅰ	17101	作 美代子	Ⅲ	242
演習Ⅱ	17105	中田 尚美	Ⅲ	242
演習Ⅱ	17105	大岸 啓子	Ⅲ	243
演習Ⅱ	17105	作 美代子	Ⅲ	243
演習Ⅲ	17109	浅井 由美	Ⅳ	244
演習Ⅲ	17109	中田 尚美	Ⅳ	244
演習Ⅲ	17109	大岸 啓子	Ⅳ	245
演習Ⅲ	17109	竹内 伸宜	Ⅳ	245
演習Ⅳ	17113	浅井 由美	Ⅳ	246
演習Ⅳ	17113	中田 尚美	Ⅳ	246
演習Ⅳ	17113	大岸 啓子	Ⅳ	247
演習Ⅳ	17113	竹内 伸宜	Ⅳ	247
発達心理学	17201	平井 純子	Ⅰ	248
保育内容総論	17205	中田 尚美	Ⅰ	248
性格心理学	17309	黒羽 カテリーナ	Ⅰ	249
感情心理学	17317	澤田 瑞也	Ⅱ	249
人格発達心理学	17321	平井 純子	Ⅱ	250
臨床心理学	17325	津田 明子	Ⅱ	250
認知心理学	17329	吉田 千里	Ⅱ	251
心理統計学	17337	須崎 暁世	Ⅱ	251
心理学基礎実験	17341	澤田 瑞也	Ⅱ	252
心理調査・データ処理法	17345	須崎 暁世	Ⅱ	252
人格発達障害論	17361	中植 満美子	Ⅲ	253
臨床心理学実習Ⅰ（心理テスト法）	17373	中植 満美子	Ⅲ	253
臨床心理学実習Ⅱ（カウンセリング法）	17377	津田 明子	Ⅲ	254
心理学文献講読Ⅰ	17385	澤田 瑞也	Ⅲ	254
教育心理学	17409	澤田 瑞也	Ⅰ	255
初等音楽Ⅰ	17417	南 夏世	Ⅰ	255
初等音楽Ⅱ	17421	南 夏世	Ⅰ	256
児童文学	17437	箕野 聡子／福智 佳代子	Ⅱ	257
学習・発達論	17441	中植 満美子	Ⅱ	258
乳幼児心理学	17445	黒羽 カテリーナ	Ⅱ	258
算数科概論	17457	樋口 勝一	Ⅱ	259
ことばの発達・学習	17461	東口 たまき	Ⅱ	259
キッズ・イングリッシュⅠ	17465	福智 佳代子	Ⅱ	260
キッズ・イングリッシュⅡ	17469	福智 佳代子	Ⅱ	260
初等音楽Ⅲ	17473	南 夏世	Ⅱ	261
初等音楽Ⅳ	17477	南 夏世	Ⅲ	261
教育相談(カウンセリングを含む)	17497	澤田 瑞也	Ⅲ	262
ボランティア論	17505	藤井 良三	Ⅰ	262
図画工作	17509	黒岩 和子	Ⅰ	263
初等体育	17513	竹安 知枝	Ⅱ	263

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
教育原理	17521	中田 尚美	Ⅱ	264
児童家庭福祉	17526	清原 国臣	Ⅱ	264
情緒・学習障害の心理	17537	澤田 瑞也	Ⅲ	265
保育内容の研究・表現（造形表現）	17601	黒岩 和子	Ⅰ	265
保育原理Ⅰ	17605	中田 尚美	Ⅰ	266
教職概論	17613	中田 尚美	Ⅰ	266
幼児教育学原理	17617	中田 尚美	Ⅱ	267
幼児教育課程の研究	17621	作 美代子	Ⅱ	267
教育課程論	17625	中田 尚美	Ⅱ	268
保育内容の研究・人間関係	17629	澤田 瑞也	Ⅱ	268
保育内容の研究・言葉	17633	澤田 瑞也	Ⅱ	269
社会的養護	17638	佐々木 勝一	Ⅱ	269
子どもの保健ⅠA	17642	河田 貴子	Ⅱ	270
子どもの保健Ⅱ	17646	河田 貴子	Ⅱ	270
子どもの食と栄養	17650	依藤 津世子	Ⅱ	271
保育内容の研究・表現（身体表現）	17653	竹安 知枝	Ⅱ	271
教育方法論	17657	清水 篤	Ⅱ	272
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子	Ⅱ	272
初等社会科指導法	17665	清水 篤	Ⅱ	273
初等算数科指導法	17669	樋口 勝一	Ⅱ	273
初等理科指導法	17673	樋口 勝一	Ⅱ	274
初等生活科指導法	17677	大岸 啓子	Ⅱ	274
特別活動論	17681	大岸 啓子	Ⅱ	275
保育・教職実践演習（幼・小）	17686	作 美代子／大岸 啓子	Ⅳ	275
教育実習の研究Ⅰ	17689	作 美代子	Ⅱ	276
介護等の体験（事前指導）	17697	竹安 知枝	Ⅱ	276
教育実習の研究Ⅱ	17705	作 美代子	Ⅲ	277
教育経営論	17713	大岸 啓子	Ⅲ	277
保育内容の研究・健康	17717	竹安 知枝	Ⅲ	278
保育内容の研究・環境	17721	石田 伸子	Ⅲ	278
幼児教育指導法	17725	岡田 るみ子	Ⅲ	279
幼児指導論（カウンセリングを含む）	17729	石田 伸子	Ⅲ	279
初等音楽科指導法	17733	南 夏世	Ⅲ	280
初等図画工作科指導法	17737	黒岩 和子	Ⅲ	280
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美	Ⅲ	281
初等体育科指導法	17745	竹安 知枝	Ⅲ	281
道徳教育指導論	17749	作 美代子	Ⅲ	282
生徒指導論（進路指導を含む）	17753	清水 篤	Ⅲ	282
子どもの保健ⅠB	17762	河田 貴子	Ⅲ	283
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一	Ⅲ	284
相談援助	17770	佐々木 勝一	Ⅲ	284
保育相談支援	17772	佐々木 勝一	Ⅲ	285
家庭支援論	17774	浅井 由美	Ⅲ	285
乳児保育	17777	河田 貴子	Ⅰ	286
障害児保育	17782	東口 たまき	Ⅱ	286
教育実習指導（小学校）	17785	大岸 啓子	Ⅲ	287
保育実習指導A	17811	中田 尚美	Ⅲ	287
保育実習指導A	17811	河田 貴子	Ⅲ	288

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
教職に関する科目				
教職概論	14101	中田 尚美	I	291
教育原理	14115	中田 尚美	II	291
教育方法論	14143	堀 正人	II	292
介護等の体験(事前指導)	14147	竹安 知枝	II	292
特別活動論	14185	清水 篤	II	293
教育課程論	14189	中田 尚美	II	293
教育経営論	14199	大岸 啓子	III	294
教職実践演習(中・高)	14214	小野 礼子／惣谷 美智子	IV	294
生徒指導論	14217	堀 正人	III	295
教育相談(カウンセリングを含む)	14221	澤田 瑞也	III	295
教育実習の研究(中等)	14229	小野 礼子	IV	296

H25年度 シラバス索引 (五十音順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
A Academic Reading 1	1 3 3 1 7	L' Shawn M. HOWARD	III	188
Academic Reading 1	1 3 3 1 7	Maidhc Ó CATHAIL	III	188
Academic Reading 2	1 3 3 2 1	Maidhc Ó CATHAIL	III	189
Academic Reading 2	1 3 3 2 1	L' Shawn M. HOWARD	III	189
Academic Reading 3	1 3 3 3 7	Angus HALL/Maidhc Ó CATHAIL	IV	192
Academic Writing 1	1 3 3 2 5	L' Shawn M. HOWARD	III	190
Academic Writing 1	1 3 3 2 5	Angus HALL	III	190
Academic Writing 2	1 3 3 2 9	Angus HALL	III	191
Academic Writing 2	1 3 3 2 9	L' Shawn M. HOWARD	III	191
Academic Writing 3	1 3 3 4 1	Maidhc Ó CATHAIL/Angus HALL	IV	193
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	L' Shawn M. HOWARD	III	186
Advanced Oral Communication 1	1 3 3 0 9	Angus HALL	III	186
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	Angus HALL	III	187
Advanced Oral Communication 2	1 3 3 1 3	L' Shawn M. HOWARD	III	187
American Studies in U. S. A.	1 3 5 2 9		I	205
Australian Studies in Australia	1 3 5 3 7		I	205
B Business English I	1 3 6 0 5	青木 幹生	II	206
Business English II	1 3 6 0 9	青木 幹生	II	207
C Canadian Studies in Canada	1 3 5 3 9		I	206
Cross-cultural Communication	1 3 5 0 5	Angus HALL	III	203
D Debating and Persuasion	1 3 3 4 5	Angus HALL/L' Shawn M. HOWARD	IV	193
E English/American Culture	1 3 5 1 3	Angus HALL	III	203
G Grammar I	1 3 2 2 5	小野 礼子/服部 幸正/平野 真理子	I	176
Grammar II	1 3 2 2 9	服部 幸正/平野 真理子/小野 礼子	I	176
Grammar III	1 3 2 6 5	平野 真理子/惣谷 美智子	II	182
J Japanese Culture	1 3 4 2 5	Angus HALL	II	196
O Oral Communication I	1 3 2 0 1	Angus HALL	I	171
Oral Communication I	1 3 2 0 1	Maidhc Ó CATHAIL	I	171
Oral Communication I	1 3 2 0 1	L' Shawn M. HOWARD	I	172
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Angus HALL	I	172
Oral Communication II	1 3 2 0 5	Maidhc Ó CATHAIL	I	173
Oral Communication II	1 3 2 0 5	L' Shawn M. HOWARD	I	173
Oral Communication III	1 3 2 4 1	Angus HALL	II	178
Oral Communication III	1 3 2 4 1	L' Shawn M. HOWARD	II	178
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	L' Shawn M. HOWARD	II	179
Oral Communication IV	1 3 2 4 5	Angus HALL	II	179
P Pronunciation I	1 3 2 3 3	石原 敬子/L' Shawn M. HOWARD	I	177
Pronunciation II	1 3 2 3 7	L' Shawn M. HOWARD/石原 敬子	I	177
Pronunciation III	1 3 2 6 9	石原 敬子/L' Shawn M. HOWARD	II	182
Public Speaking and Oral Interpretation	1 3 3 3 3	Angus HALL	III	192
R Reading/Writing I	1 3 2 1 0	L' Shawn M. HOWARD	I	174
Reading/Writing I	1 3 2 1 0	Angus HALL/千葉 奈乙江	I	174
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	L' Shawn M. HOWARD	I	175
Reading/Writing II	1 3 2 1 4	Angus HALL/千葉 奈乙江	I	175
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	惣谷 美智子	II	180
Reading/Writing III	1 3 2 5 0	L' Shawn M. HOWARD/Angus HALL	II	180
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	惣谷 美智子	II	181
Reading/Writing IV	1 3 2 5 4	L' Shawn M. HOWARD/Angus HALL	II	181

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
S Small Group Communication	1 3 3 0 5	L' Shawn M. HOWARD	II	185
T TOEFL	1 3 8 2 5	平野 真理子	II	219
TOEIC 1	1 3 8 1 7	土橋 有香	II	217
TOEIC 1	1 3 8 1 7	平野 真理子	II	217
TOEIC 2	1 3 8 2 1	土橋 有香	II	218
TOEIC 2	1 3 8 2 1	平野 真理子	II	218
TOEIC入門1	1 3 8 0 1	土橋 有香	I	215
TOEIC入門2	1 3 8 0 5	土橋 有香	I	215
い 異文化理解	1 3 4 0 9	有村 理	II	194
イベント・コンベンション論	1 5 5 4 1	一尾 敏正	III	234
インターンシップ	1 3 6 2 9	平田 淳子	III	208
インターンシップ	1 5 5 2 5	有村 理/一尾 敏正	III	232
え エアラインサービス論1 (グラウンドサービス)	1 5 5 3 3	有村 理	III	233
エアラインサービス論2 (インフライトサービス)	1 5 5 3 7	熊澤 洋子	III	233
英語1	1 1 6 0 1	入江 和子/千葉 奈乙江	I	150
英語2	1 1 6 0 5	平野 真理子/釜須 久夫	I	151
英語3	1 1 6 0 9	平野 真理子/入江 和子	I	151
英語4	1 1 6 1 3	千葉 奈乙江/平野 真理子	I	152
英語5	1 1 6 1 7	Angus HALL	II	152
英語5	1 1 6 1 7	L' Shawn M. HOWARD	II	153
英語6	1 1 6 2 1	惣谷 美智子	II	153
英語6	1 1 6 2 1	L' Shawn M. HOWARD/Angus HALL	II	154
英語7	1 1 6 2 5	L' Shawn M. HOWARD	II	154
英語7	1 1 6 2 5	Angus HALL	II	155
英語8	1 1 6 2 9	惣谷 美智子	II	155
英語8	1 1 6 2 9	L' Shawn M. HOWARD/Angus HALL	II	156
英語音声学	1 3 7 1 7	石原 敬子	II	211
英語科教育法I	1 3 7 0 5	惣谷 美智子	I	209
英語科教育法II	1 3 7 0 9	惣谷 美智子	II	210
英語科教育法III	1 3 7 3 7	小野 礼子	III	213
英語科教育法IV	1 3 7 4 1	小野 礼子	III	214
英語学概論	1 3 7 1 3	服部 幸正	II	210
英米文学研究	1 3 5 2 1	惣谷 美智子	III	204
英米文学入門	1 3 4 1 3	入江 和子	I	195
演習I	1 3 1 0 1	石原 敬子	III	167
演習I	1 3 1 0 1	小野 礼子	III	167
演習I	1 5 1 0 5	有村 理	III	223
演習I	1 5 1 0 5	一尾 敏正	III	223
演習I	1 5 1 0 5	北川 宗忠	III	224
演習I	1 7 1 0 1	中田 尚美	III	241
演習I	1 7 1 0 1	大岸 啓子	III	241
演習I	1 7 1 0 1	作 美代子	III	242
演習II	1 3 1 0 5	石原 敬子	III	168
演習II	1 3 1 0 5	小野 礼子	III	168
演習II	1 5 1 0 9	有村 理	III	224
演習II	1 5 1 0 9	一尾 敏正	III	225
演習II	1 5 1 0 9	北川 宗忠	III	225
演習II	1 7 1 0 5	中田 尚美	III	242
演習II	1 7 1 0 5	大岸 啓子	III	243
演習II	1 7 1 0 5	作 美代子	III	243

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	石原 敬子	Ⅳ	169
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	小野 礼子	Ⅳ	169
演習Ⅲ	1 5 1 1 3	有村 理	Ⅳ	226
演習Ⅲ	1 5 1 1 3	一尾 敏正	Ⅳ	226
演習Ⅲ	1 5 1 1 3	箕野 聡子	Ⅳ	227
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	浅井 由美	Ⅳ	244
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	中田 尚美	Ⅳ	244
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	大岸 啓子	Ⅳ	245
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	竹内 伸宜	Ⅳ	245
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	石原 敬子	Ⅳ	170
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	小野 礼子	Ⅳ	170
演習Ⅳ	1 5 1 1 7	有村 理	Ⅳ	227
演習Ⅳ	1 5 1 1 7	一尾 敏正	Ⅳ	228
演習Ⅳ	1 5 1 1 7	箕野 聡子	Ⅳ	228
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	浅井 由美	Ⅳ	246
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	中田 尚美	Ⅳ	246
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	大岸 啓子	Ⅳ	247
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	竹内 伸宜	Ⅳ	247
お オフィス情報処理 1	1 1 5 0 9	米田 里香／武田 春美	Ⅱ	149
オフィス情報処理 2	1 1 5 1 3	米田 里香	Ⅱ	150
か 外国語教授法	1 3 7 4 5	福智 佳代子	Ⅲ	214
介護等の体験(事前指導)	1 7 6 9 7	竹安 知枝	Ⅱ	276
介護等の体験(事前指導)	1 4 1 4 7	竹安 知枝	Ⅱ	292
海星学Ⅰ	1 1 2 0 6	各学科教員	Ⅱ	136
海星学Ⅱ	1 1 2 0 7	各学科教員	Ⅱ	137
学習・発達論	1 7 4 4 1	中植 満美子	Ⅱ	258
家政学概論	1 1 3 8 1	浅井 由美	Ⅱ	146
家庭支援論	1 7 7 7 4	浅井 由美	Ⅲ	285
環境ツーリズム論	1 3 4 3 0	有村 理	Ⅱ	198
観光英語Ⅰ	1 3 2 7 0	入江 和子／平野 真理子	Ⅰ	183
観光英語Ⅱ	1 3 2 7 1	平野 真理子／入江 和子	Ⅰ	183
観光概論	1 3 4 2 6	北川 宗忠	Ⅰ	196
観光事業総論	1 3 4 3 1	一尾 敏正	Ⅱ	199
観光政策論	1 5 6 3 7	北川 宗忠	Ⅲ	235
観光中国語	1 5 4 2 9	橋本 由美子	Ⅲ	231
観光中国語入門	1 5 3 4 9	橋本 由美子	Ⅲ	230
観光と世界遺産	1 3 4 3 2	有村 理	Ⅱ	199
観光とホスピタリティ	1 5 2 0 1	有村 理／一尾 敏正	Ⅰ	229
観光ビジネス実務論	1 3 4 3 4	有村 理／一尾 敏正	Ⅱ	200
観光フランス語	1 5 4 3 7	平田 淳子	Ⅲ	231
観光フランス語入門	1 5 3 5 3	平田 淳子	Ⅲ	230
観光文化地理論	1 3 4 3 3	釜須 久夫	Ⅱ	200
観光マーケティング論	1 5 6 3 3	一尾 敏正	Ⅲ	234
韓国語入門Ⅰ	1 3 4 3 5	宋 京珠	Ⅱ	201
韓国語入門Ⅱ	1 3 4 3 6	宋 京珠	Ⅱ	201
関西文化論	1 5 6 5 3	箕野 聡子	Ⅲ	236
感情心理学	1 7 3 1 7	澤田 瑞也	Ⅱ	249
き 企業研究	1 5 6 6 1	有村 理／一尾 敏正	Ⅲ	237
基礎演習Ⅰ	1 1 2 0 1	各学科教員	Ⅰ	135
基礎演習Ⅱ	1 1 2 0 5	各学科教員	Ⅰ	136

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	福智 佳代子	Ⅱ	212
キッズ・イングリッシュⅠ	17465	福智 佳代子	Ⅱ	260
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	福智 佳代子	Ⅱ	212
キッズ・イングリッシュⅡ	17469	福智 佳代子	Ⅱ	260
キッズ・イングリッシュⅢ (実習)	13733	福智 佳代子	Ⅲ	213
キャリアデザイン入門	11301	箕野 聡子	Ⅰ	138
教育課程論	17625	中田 尚美	Ⅱ	268
教育経営論	17713	大岸 啓子	Ⅲ	277
教育課程論	14189	中田 尚美	Ⅱ	293
教育経営論	14199	大岸 啓子	Ⅲ	294
教育原理	17521	中田 尚美	Ⅱ	264
教育原理	14115	中田 尚美	Ⅱ	291
教育実習指導 (小学校)	17785	大岸 啓子	Ⅲ	287
教育実習の研究Ⅰ	17689	作 美代子	Ⅱ	276
教育実習の研究Ⅱ	17705	作 美代子	Ⅲ	277
教育実習の研究 (中等)	14229	小野 礼子	Ⅳ	296
教育心理学	13813	澤田 瑞也	Ⅰ	216
教育心理学	17409	澤田 瑞也	Ⅰ	255
教育相談 (カウンセリングを含む)	17497	澤田 瑞也	Ⅲ	262
教育相談 (カウンセリングを含む)	14221	澤田 瑞也	Ⅲ	295
教育方法論	17657	清水 篤	Ⅱ	272
教育方法論	14143	堀 正人	Ⅱ	292
教職概論	17613	中田 尚美	Ⅰ	266
教職概論	14101	中田 尚美	Ⅰ	291
教職概論 (初等)	13809	中田 尚美	Ⅰ	216
教職実践演習 (中・高)	14214	小野 礼子／惣谷 美智子	Ⅳ	294
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	Ⅰ	134
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	Ⅲ	135
キリスト教入門	11101	竹田 文彦	Ⅰ	133
け 健康科学	11333	竹安 知枝	Ⅰ	142
健康スポーツⅠ	11337	竹安 知枝	Ⅰ	142
現代家族関係論	11365	浅井 由美	Ⅱ	144
こ 航空ツーリズム論	15641	有村 理	Ⅲ	235
国際観光交流論	13427	青木 幹生	Ⅰ	197
国際マネジメントと英語	13625	青木 幹生	Ⅲ	208
ことばと社会	13405	小野 礼子	Ⅱ	194
ことばの意味・文化	13417	服部 幸正	Ⅱ	195
ことばの発達・学習	13721	福智 佳代子	Ⅱ	211
ことばの発達・学習	17461	東口 たまき	Ⅱ	259
子どもの食と栄養	17650	依藤 津世子	Ⅱ	271
子どもの保健ⅠA	17642	河田 貴子	Ⅱ	270
子どもの保健ⅠB	17762	河田 貴子	Ⅲ	283
子どもの保健Ⅱ	17646	河田 貴子	Ⅱ	270
さ 算数科概論	17457	樋口 勝一	Ⅱ	259
し ジェンダー論	11325	浅井 由美	Ⅰ	141
自然科学概論	11361	樋口 勝一	Ⅱ	144
児童英語教育概論	13701	福智 佳代子	Ⅰ	209
児童家庭福祉	17526	清原 国臣	Ⅱ	264
児童文学	13501	箕野 聡子／福智 佳代子	Ⅱ	202
児童文学	17437	箕野 聡子／福智 佳代子	Ⅱ	257

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	Ⅱ	146
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一	Ⅲ	284
社会的養護	17638	佐々木 勝一	Ⅱ	269
社会福祉論	11369	清原 国臣	Ⅰ	145
手話コミュニケーションⅠ	13428	若生 茂嗣／岩橋 博子	Ⅱ	197
手話コミュニケーションⅡ	13429	若生 茂嗣／岩橋 博子	Ⅱ	198
障害児保育	17782	東口 たまき	Ⅱ	286
情緒・学習障害の心理	17537	澤田 瑞也	Ⅲ	265
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	Ⅰ	139
情報リテラシー 1	11501	樋口 勝一／米田 里香／武田 春美	Ⅰ	148
情報リテラシー 2	11505	武田 春美／米田 里香	Ⅰ	149
女性と社会	13525	浅井 由美	Ⅲ	204
初等音楽 1	17417	南 夏世	Ⅰ	255
初等音楽 2	17421	南 夏世	Ⅰ	256
初等音楽 3	17473	南 夏世	Ⅱ	261
初等音楽 4	17477	南 夏世	Ⅲ	261
初等音楽科指導法	17733	南 夏世	Ⅲ	280
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美	Ⅲ	281
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子	Ⅱ	272
初等算数科指導法	17669	樋口 勝一	Ⅱ	273
初等社会科指導法	17665	清水 篤	Ⅱ	273
初等図画工作科指導法	17737	黒岩 和子	Ⅲ	280
初等生活科指導法	17677	大岸 啓子	Ⅱ	274
初等体育	17513	竹安 知枝	Ⅱ	263
初等体育科指導法	17745	竹安 知枝	Ⅲ	281
初等理科指導法	17673	樋口 勝一	Ⅱ	274
人格発達障害論	17361	中植 満美子	Ⅲ	253
人格発達心理学	17321	平井 純子	Ⅱ	250
人権教育論	11373	丸岡 幸一	Ⅱ	145
心理学概論	11317	吉田 千里	Ⅰ	140
心理学基礎実験	17341	澤田 瑞也	Ⅱ	252
心理学文献講読 1	17385	澤田 瑞也	Ⅲ	254
心理調査・データ処理法	17345	須崎 暁世	Ⅱ	252
心理統計学	17337	須崎 暁世	Ⅱ	251
す 図画工作	17509	黒岩 和子	Ⅰ	263
せ 性格心理学	17309	黒羽 カテリーナ	Ⅰ	249
聖書概論	11105	石丸 脩子	Ⅰ	133
聖書と現代	11113	竹田 文彦	Ⅱ	134
生徒指導論	14217	堀 正人	Ⅲ	295
生徒指導論 (進路指導を含む)	17753	清水 篤	Ⅲ	282
そ 相談援助	17770	佐々木 勝一	Ⅲ	284
た 旅と法律Ⅰ	15645	芹田 健太郎	Ⅲ	236
ち 中国語 1	11665	坂口 文馨	Ⅰ	160
中国語 2	11669	沈 竑	Ⅰ	161
中国語 3	11673	坂口 文馨	Ⅰ	161
中国語 4	11677	沈 竑	Ⅰ	162
中国語 5	11681	坂口 文馨	Ⅱ	162
中国語 6	11685	沈 竑	Ⅱ	163
中国語 7	11689	坂口 文馨	Ⅱ	163
中国語 8	11693	沈 竑	Ⅱ	164

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
と 統計学入門	1 1 3 2 1	樋口 勝一	I	140
道徳教育指導論	1 3 8 2 9	丸岡 幸一	Ⅲ	219
道徳教育指導論	1 7 7 4 9	作 美代子	Ⅲ	282
特別活動論	1 7 6 8 1	大岸 啓子	Ⅱ	275
特別活動論	1 4 1 8 5	清水 篤	Ⅱ	293
に 日本国憲法	1 1 3 2 9	芹田 健太郎	I	141
日本語表現法	1 1 4 0 1	箕野 聡子	I	147
日本語表現法	1 1 4 0 1	大岸 啓子	I	147
日本語文章構成法	1 1 4 0 5	箕野 聡子	Ⅱ	148
日本文化史	1 1 3 5 3	箕野 聡子	Ⅱ	143
日本文化論	1 3 2 7 3	箕野 聡子	Ⅱ	184
乳児保育	1 7 7 7 7	河田 貴子	I	286
乳幼児心理学	1 7 4 4 5	黒羽 カテリーナ	Ⅱ	258
人間学1	1 1 2 0 9	尾崎 秀夫	I	137
人間学2	1 1 2 1 3	岡村 祥子	Ⅲ	138
認知心理学	1 7 3 2 9	吉田 千里	Ⅱ	251
は 発達心理学	1 7 2 0 1	平井 純子	I	248
ひ 比較文化論	1 5 3 4 1	福智 佳代子	Ⅲ	229
ビジネス翻訳	1 3 6 2 1	檜本 雄三	Ⅲ	207
ふ フランス語1	1 1 6 3 3	平田 淳子	I	156
フランス語2	1 1 6 3 7	平田 淳子	I	157
フランス語3	1 1 6 4 1	平田 淳子	I	157
フランス語4	1 1 6 4 5	平田 淳子	I	158
フランス語5	1 1 6 4 9	平田 淳子	Ⅱ	158
フランス語6	1 1 6 5 3	平田 淳子	Ⅱ	159
フランス語7	1 1 6 5 7	平田 淳子	Ⅱ	159
フランス語8	1 1 6 6 1	平田 淳子	Ⅱ	160
文学入門	1 1 3 0 9	箕野 聡子	I	139
ほ 保育・教職実践演習(幼・小)	1 7 6 8 6	作 美代子/大岸 啓子	Ⅳ	275
保育原理I	1 7 6 0 5	中田 尚美	I	266
保育実習指導A	1 7 8 1 1	中田 尚美	Ⅲ	287
保育実習指導A	1 7 8 1 1	河田 貴子	Ⅲ	288
保育相談支援	1 7 7 7 2	佐々木 勝一	Ⅲ	285
保育内容総論	1 7 2 0 5	中田 尚美	I	248
保育内容の研究・言葉	1 7 6 3 3	澤田 瑞也	Ⅱ	269
保育内容の研究・環境	1 7 7 2 1	石田 伸子	Ⅲ	278
保育内容の研究・健康	1 7 7 1 7	竹安 知枝	Ⅲ	278
保育内容の研究・人間関係	1 7 6 2 9	澤田 瑞也	Ⅱ	268
保育内容の研究・表現(身体表現)	1 7 6 5 3	竹安 知枝	Ⅱ	271
保育内容の研究・表現(造形表現)	1 7 6 0 1	黒岩 和子	I	265
簿記会計学	1 1 3 5 7	埴岡 忠清	Ⅱ	143
ホスピタリティ精神論	1 3 2 7 2	石丸 脩子	I	184
ホスピタリティ・マネージメント	1 5 5 2 9	小郷 行男	Ⅲ	232
ボランティア論	1 7 5 0 5	藤井 良三	I	262
翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	平野 真理子	Ⅱ	185
よ 幼児教育学原理	1 7 6 1 7	中田 尚美	Ⅱ	267
幼児教育課程の研究	1 7 6 2 1	作 美代子	Ⅱ	267
幼児教育指導法	1 7 7 2 5	岡田 るみ子	Ⅲ	279
幼児指導論(カウンセリングを含む)	1 7 7 2 9	石田 伸子	Ⅲ	279
り 臨床心理学	1 7 3 2 5	津田 明子	Ⅱ	250

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
臨床心理学実習1 (心理テスト法)	17373	中植 満美子	Ⅲ	253
臨床心理学実習2 (カウンセリング法)	17377	津田 明子	Ⅲ	254